

岩手大学教育推進機構

年次報告 2014

THE ANNUAL REPORT OF CENTER FOR TEACHING, LEARNING and CAREER
DEVELOPMENT, IWATE UNIVERSITY, 2014

CONTENTS

1. 教育推進機構会議
2. 全学共通教育部門
3. 教育推進連携部門
4. 国際教育部門
5. 学生支援部門
6. キャリア支援部門

国立大学法人岩手大学
教育推進機構

Iwate University : Center for Teaching, Learning and Career Development

岩手大学教育推進機構

年次報告 2014

THE ANNUAL REPORT OF CENTER FOR TEACHING, LEARNING and CAREER
DEVELOPMENT, IWATE UNIVERSITY, 2014

CONTENTS

1. 教育推進機構会議
2. 全学共通教育部門
3. 教育推進連携部門
4. 国際教育部門
5. 学生支援部門
6. キャリア支援部門

国立大学法人岩手大学
教育推進機構

Iwate University : Center for Teaching, Learning and Career Development



はじめに

教育推進機構長
丸山 仁

2014年の4月から教育推進機構長に就任しました。教育推進機構は、旧大学教育総合センターを改変して同じく4月に設置されたばかりですので、初代の機構長ということになります。

旧大学教育総合センターは、入試部門を含む6部門体制でした。全学的な教育研究支援施設の再編に伴い、入試部門が入試分析と広報を総合的に担う入試センターとして独立する一方で、旧国際交流センターから国際教育部門を迎えることになりました。また教育改善部門と専門教育等連携部門を統合して合理化・効率化を図りましたので、教育推進機構は、5部門体制（全学共通教育部門・教育推進連携部門・国際教育部門・学生支援部門・キャリア支援部門）での再スタートとなりました。

さらに今年度の教育推進機構会議、またその下に設置されました専門委員会での精力的、集中的な検討を経て、前述の全学共通教育部門と国際教育部門はいずれも再編強化され、2015年4月から、機構内で独立性を高めた「教養教育センター」、「グローバル教育センター」として生まれ変わることになりました。この点に関しては、以下の教育推進機構会議報告、また両部門報告において詳しく説明します。

岩手大学は、真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを目指しています（岩手大学の「教育理念」）。新生なった教育推進機構（2センターと3部門）は、本学の教育理念に基づいて、学士課程教育、国際教育（2015年からはグローバル教育）、学生生活及びキャリア形成に関する施策を総合的に推進し、さらなる教育の充実・改善を図っていきます（「教育推進機構規則」より）。

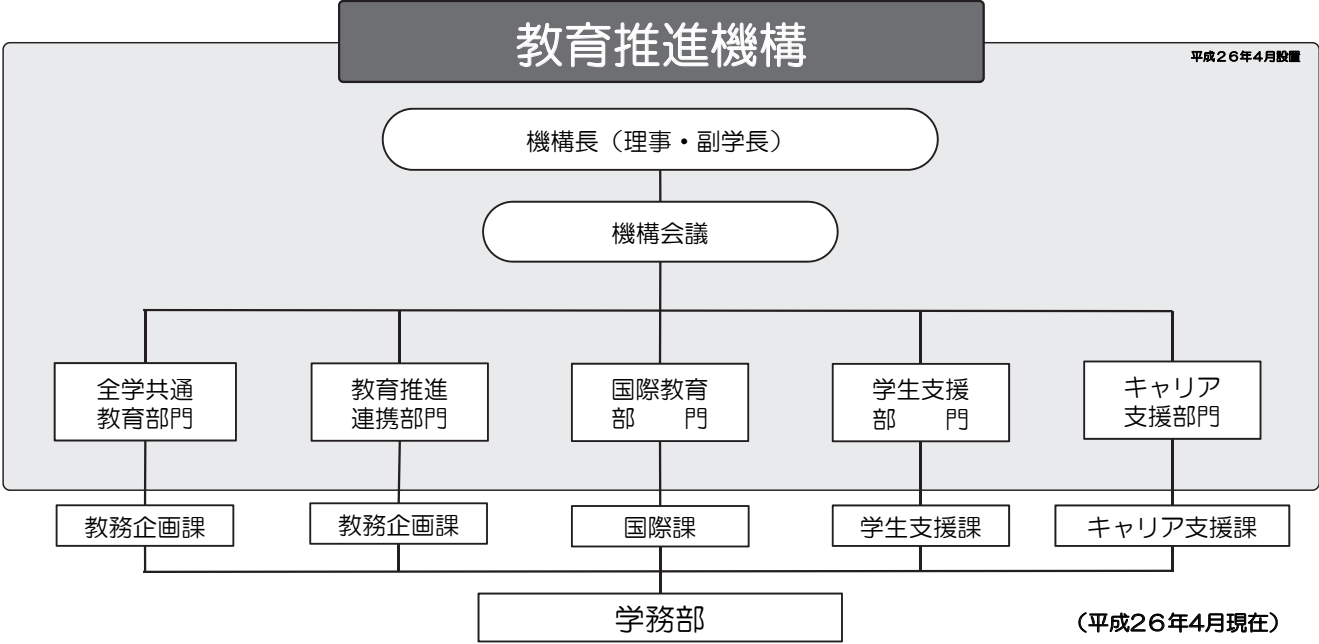
本報告書は大学教育推進機構の1年間の様々な活動を網羅したものです。ホームページ上での公開で十分であるという声もあるようです。確かに電子化された媒体は、ピンポイントで読んだり検索するには便利ですが、全体像を把握するには必ずしも便利とは言えません。このような冊子体の報告書は、全体像を包括的に把握する情報源として、また機構の適正な評価を受けるための、保存性の高い証拠資料として価値あるものと考えています。本報告書が多くに関係者に役立つことを願っています。

「市町村が消滅する可能性」に耳目が集まる今、地域が衰退する中で、地域の大学のみが繁栄することは不可能です。地域の大学は、地域社会の活性化にどこまで貢献できるのか、何ができるのか。この点がこれまで以上に厳しく問われる時代に入っていることを痛感しています。大学の知を地域へと還元し、また同時に地域の教育力を大学へと還元していくことが求められています。グローバルな視野から持続可能な地域社会を展望し、地域と共に学生を育てていく。教育推進機構長として、微力ながら「地（知）の拠点」の名に恥じない大学教育の実現、「地域に顕在化した諸課題を、グローバルな視点を持ち、多様な人との協働で解決できる人材＝いわて協創人材」の育成に努力したいと思っています。

最後になりますが、日頃から全学の学生の教育と支援のためにご尽力いただいている教育推進機構会議委員、各センター・部門のセンター長・部門長、兼務教員、機構の専任教員、そして事務職員の皆様に感謝申し上げますと共に、今後一層のご協力をお願い申し上げて、機構長からの挨拶とさせていただきます。

平成27年10月

教育推進機構 組織図



教育推進機構会議委員名簿

（平成27年1月1日）

	氏 名	担 当 部 局 等
機構長	丸 山 仁	理事（教育・学生担当）・副学長
副機構長	松 林 城 弘	人文社会科学部
全学共通教育部門長	松 林 城 弘	人文社会科学部
教育推進連携部門長	松 川 倫 明	工学部
国際教育部門長	藪 敏 裕	教育学部
学生支援部門長	栗 林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	喜 多 一 美	農学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	松 岡 洋 子	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
副学部長又は評議員	家 井 美千子	人文社会科学部
	遠 藤 孝 夫	教育学部
	吉 澤 正 人	工学部
	武 田 純 一	農学部
各学部選出教員	後 藤 尚 人	人文社会科学部
	菅 野 文 夫	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	板 垣 匡	農学部
学務部長	八 田 弘	学務部

全学共通教育部門会議委員名簿

(平成26年5月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	松 林 城 弘	人文社会科学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
兼務教員	齋 藤 博 次	人文社会科学部
分科会代表	齋 藤 博 次	外国語分科会
	清 水 茂 幸	健康・スポーツ分科会
	藤 本 忠 博	情報基礎分科会
	菅 野 文 夫	思想と文化分科会
	我 妻 則 明	心と表象分科会
	藤 本 幸 二	人間と社会分科会
	御 領 政 信	生物の世界分科会
	本 田 卓	自然と数理の世界分科会
	成 田 晋 也	科学技術分科会
	佐 野 宏 明	環境分科会
各学部教務委員会	白 倉 孝 行	人文社会科学部
	菅 野 文 夫	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	折 笠 貴 寛	農学部
学務課長	太 野 昭 彦	学務部
教務企画課長	山 崎 義 夫	学務部

教育推進連携部門会議委員名簿

(平成26年6月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	松 川 倫 明	工学部
副部門長	阿久津 洋 巳	教育学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
兼務教員	阿久津 洋 巳	教育学部
各学部選出教員	白 倉 孝 行	人文社会科学部
	清 水 茂 幸	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	國 崎 貴 嗣	農学部
学務課長	太 野 昭 彦	学務部
教務企画課長	山 崎 義 夫	学務部
部門長が必要と認めた者	菊 池 孝 美	人文社会科学部
	尾 臺 喜 孝	人文社会科学部
	小 林 悟	工学部
	山 田 美 和	農学部

国際教育部門会議委員名簿

(平成26年10月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	藪 敏 裕	教育学部
副部門長	松 岡 洋 子	教育推進機構
専任教員	尾 中 夏 美	教育推進機構
	松 岡 洋 子	教育推進機構
兼務教員	深 澤 泰 弘	人文社会科学部
	本 田 卓	教育学部
	佐 藤 淳	工学部
	木 崎 景一郎	農学部
	比屋根 哲	連合農学研究科
	石 松 弘 幸	国際連携室
各学部選出教員	家 井 美千子	人文社会科学部
	藁 谷 収	教育学部
	伊 藤 歩	工学部
	松 嶋 卯 月	農学部
国際課長	斎 藤 幸 代	学務部

学生支援部門会議委員名簿

(平成26年4月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	栗 林 徹	教育学部
専任教員	松 岡 洋 子	教育推進機構
兼務教員	山 本 昭 彦	人文社会科学部
	澤 村 省 逸	教育学部
	吉 原 信 人	工学部
	村 元 隆 行	農学部
各学部選出教員	松 岡 勝 実	人文社会科学部
	菊 地 悟	教育学部
	海 田 輝 之	工学部
	高 畑 義 人	農学部
学生支援課長	今 野 和 男	学務部

キャリア支援部門会議委員名簿

(平成26年4月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	喜 多 一 美	農学部
兼務教員	浅 沼 道 成	人文社会科学部
	重 松 公 司	教育学部
	山 口 昌 樹	工学部
	佐 野 宏 明	農学部
キャリア支援課長	佐 藤 祐 一	学務部

目 次

□機構長あいさつ

□組織構成図 名簿

□目次

□教育推進機構会議

教育推進機構会議報告	003
------------	-----

□全学共通教育部門

活動報告	009
平成26年度分科会メンバー表・開講科目一覧	011
平成26年度分科会F D担当責任者名簿等	028
分科会教育目標及び成績評価基準のガイドライン	029
オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン	042
「総合科目」の教育目標と成績評価のガイドライン	043
教養教育センター設置に関わる資料類	
教養教育センター（仮称）の設立について（学長室素案）	044
教養教育センターの設立について（教育推進機構会議）	049
教養教育科目一覧	054
岩手大学教育推進機構教養教育センター規則	057
分科会／科目委員会 新旧対照表	059
平成26年度授業アンケート実施状況報告	060
平成26年度前期授業アンケート集計結果	061
平成26年度前期授業アンケート集計結果（基礎ゼミナール）	064
平成26年度前期授業アンケート集計結果（健康・スポーツ科目）	067
平成26年度後期授業アンケート集計結果	069
平成26年度後期授業アンケート集計結果（初年次自由ゼミナール）	072
平成25年度優秀授業選出方針	075
平成25年度後期優秀授業科目一覧	077
平成26年度優秀授業選出方針	078
平成26年度前期優秀授業科目一覧	080
平成26年度全学共通教育授業公開のお知らせ	081
平成26年度前期全学共通教育授業公開実施報告	083
平成26年度後期全学共通教育授業公開実施報告	089

□教育推進連携部門

活動報告	099
専門基礎科目に関する懇談会（数学）メモ	106
専門基礎科目に関する懇談会（物理学・化学）メモ	109
平成26年度学習会等実施報告	112
平成26年度学外の研修等への参加状況一覧	113
平成26年度FD研修会実施報告	114
平成26年度入学前教育実施報告	118
平成26年度卒業生・修了生アンケート集計結果	128

□国際教育部門

活動報告	137
グローバル教育センター設置に関わる資料類	
グローバル教育センターの立ち上げに向けて	141
グローバル教育センターの設置について（教育推進機構会議）	142
岩手大学教育推進機構グローバル教育センター規則	153
岩手大学留学生数（平成26年5月1日現在）	155
岩手大学留学生数（平成26年11月1日現在）	156
大学間交流協定	157
部局間交流協定	158
平成26年度海外交流状況	160

□学生支援部門

活動報告	163
平成26年度岩手大学学生表彰者名簿（個人・団体）	167

□キャリア支援部門

活動報告	173
------	-----



教育推進機構会議

教育推進機構会議委員名簿

(平成27年1月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
機構長	丸 山 仁	理事（教育・学生担当）・副学長
副機構長	松 林 城 弘	人文社会科学部
全学共通教育部門長	松 林 城 弘	人文社会科学部
教育推進連携部門長	松 川 倫 明	工学部
国際教育部門長	藪 敏 裕	教育学部
学生支援部門長	栗 林 徹	教育学部
キャリア支援部門長	喜 多 一 美	農学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	松 岡 洋 子	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
副学部長又は評議員	家 井 美千子	人文社会科学部
	遠 藤 孝 夫	教育学部
	吉 澤 正 人	工学部
	武 田 純 一	農学部
各学部選出教員	後 藤 尚 人	人文社会科学部
	菅 野 文 夫	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	板 垣 匡	農学部
学務部長	八 田 弘	学務部



教育推進機構会議報告

機構長 丸山 仁

今年度は前期に4回、後期に7回、計11回の機構会議（前後期各1回はメール会議）が開催されました。以下に主な検討・実施項目を紹介します。

教育推進機構発足に伴う教員選考基準、各種規則等の整備

この4月から、全学的に教育研究支援施設が再編され、教育推進機構が発足しました。そこで旧大学教育総合センター教員選考基準及び旧国際交流センター教員選考基準を踏襲して岩手大学教育推進機構教員選考基準を制定し、旧両基準を廃止しました。また同じく教育研究支援施設の再編に伴い、機構の業務に関連する各種の規則、要項、申し合わせ等を一括して見直し、一部改正を行いました。

専任教員の採用について

旧国際交流センター専任教員一名がセンター専任担当から外れたことに伴い、昨年度末の組織検討委員会において、同教員の後任を教育推進機構の（国際教育部門を主担当とする）専任教員として採用することが承認されていました。そこで6月開催の教育推進機構会議において教員選考委員会を立ち上げ、公募による教員選考を進めることにしました。12月開催の機構会議において、教員選考委員会から岩手県立大学盛岡短期大学部講師のAnders Carlqvist（アンデス・カールキビスト）氏を最終候補者としたという報告があり、機構会議での審議、投票の結果、同氏の採用を了承しました。

学長室素案の検討体制について

28年度の全学改組と連動した「教育改革」と「COC事業（教育分野）」に関して、学長室（教育改革推進WG及びCOC事業推進WG）の素案が提示され、10月開催の機構会議において、各部門で具体的な検討を進めることになりました。学事暦の柔軟化、GPA制度、科目ナンバリング等、教育改革の大半は教育推進連携部門（全学共通教育の強化については次の項目を参照）に、COC事業に関しては全学共通教育部門を中心に、教育推進連携部門、キャリア支援部門、学生支援部門の各部門が担当になりました。

教養教育センターの設置について

上記「教育改革」の内、全学共通教育の強化に関しては、「教養教育センターの設置」に向けた学長室素案が提示され、機構会議の下に専門委員会を設けて具体的な検討を進めることになりました。12月開催の機構会議に最終案が提示され、一部修正の上で了承、同月開催の全学組織検討委員会の場で27年4月のセンター設置が決まりました。現在の全学共通教育部門は、拡充・強化され、機構内で独立性を高めた「教養教育センター」として生まれ変わります。また「全学共通教育」は、「教

養教育」へと名前を変え、「世界や地域の視点から課題を発見し解決できる能力を育成する」教育へと順次バージョンアップしていきます。

グローバル教育センターの設置について

「グローバル教育センターの設置」に向けた学長室（グローバル化推進に関するWG）の素案が提示され、同じく機構会議の下に専門委員会を設けて具体的な検討を進めることになりました。1月開催の機構会議に最終案が提示され、審議の上で了承、同月開催の全学組織検討委員会の場で27年4月の設置が決まりました。現在の国際教育部門が拡充・強化され、機構内で独立性を高めた「グローバル教育センター」が誕生します。同センターでは今後、地域に顕在化した諸課題を国際的視野から解決できる「グローバルな視点を持つ地域創生人材」の育成を目指していきます。

「英語発展」「英語基礎」の開設について

英語教育検討WGからの報告を受け、「2年次以降の全学共通教育の英語」及び「英語のリメディアル教育」の実施に関して検討しました。審議の結果、27年度から「英語発展（TOEIC初級・中級、科学英語、実践英語）」（開講は28年度）及び卒業要件外の科目として「英語基礎」を開設することになりました。

成績優秀者の授業料免除について

学生支援部門会議からの提案に基づき、「成績優秀者の授業料免除」について検討しました。調整が難航していた学部間の配分に関しては、工学部4名、他の3学部各2名（計10名）で決着しました。機構会議で審議の上、授業料免除の実施、それに伴う「岩手大学成績優秀者の授業料免除に関する規則」及び「成績優秀者の授業料免除に関する実施要項」の制定について了承しました。

震災復興に関する学修(被災地学修)の本実施について

「被災地学修（震災復興に関する学修）の本実施」に関する学長室素案（COC事業推進WG）が提示され、「転換教育（基礎ゼミナール）」の枠内で実施することの教育的意義（能動的な学習スタイルへの転換）を確認した上で、27年度からの本実施に向けて準備を進めることになりました。全学共通教育部門会議の審議を経て、1月開催の機構会議には、担当教員とCOC推進室の具体的な役割分担を示す「震災復興に関する学修に関するガイドライン」が提案され、一部修正の上で承認されました。27年度から同学修は、事前・事後の指導を含めて正式に授業（基礎ゼミナール）内で実施されることになります。

その他

今年度のFD合宿研修会（教育推進機構/いわて高等教育コンソーシアムFD・SD連携推進委員会共催）は、「地域と共に学生を育てる大学を目指して」をテーマに、8月21日（木）～22日（金）に実施されました。基調講演は、北九州市立大学の眞鍋和博教授にお願いしました（講演の表題は「北九州市立大学地域創生学群の挑戦」）。また今年度の高大連携ウィンター・セッションは、12月

25日（木）～27日（土）に実施しました。本学のプログラム名（テーマ）については、COC事業が本格的な実施段階に入っていることに配慮して、昨年度に引き続き「知（地）は力ー地域と大学ー」とし、学長の代理で機構長の私が全体講演（「大学で何を学ぶのか」）を行いました。



全学共通教育部門

全学共通教育部門会議委員名簿

(平成26年5月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	松 林 城 弘	人文社会科学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
兼務教員	齋 藤 博 次	人文社会科学部
分科会代表	齋 藤 博 次	外国語分科会
	清 水 茂 幸	健康・スポーツ分科会
	藤 本 忠 博	情報基礎分科会
	菅 野 文 夫	思想と文化分科会
	我 妻 則 明	心と表象分科会
	藤 本 幸 二	人間と社会分科会
	御 領 政 信	生物の世界分科会
	本 田 卓	自然と数理の世界分科会
	成 田 晋 也	科学技術分科会
	佐 野 宏 明	環境分科会
各学部教務委員会	白 倉 孝 行	人文社会科学部
	菅 野 文 夫	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	折 笠 貴 寛	農学部
学務課長	太 野 昭 彦	学務部
教務企画課長	山 崎 義 夫	学務部



活動報告

部門長 松林 城弘

COC 事業への対応

昨年8月に岩手大学は、平成25年度～平成29年度実施の文部科学省「地（知）の拠点整備事業」（COC 事業）に採択されました。同事業は、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援する事業であり、全学共通教育・専門教育については、地域を志向した体系化された地域志向教育プログラムの策定に取り組んでいます。

地域志向教育プログラムの全学共通教育に関する事項については本部門で検討を行っており、初年次における「震災復興に関する学修」の必修化、地域科目の拡充、地域課題に取り組むPBL型授業の導入等を軸にした新しい教養教育カリキュラム（平成28年度から実施）を策定しました。

大学組織改編と全学共通教育部門

大学組織改編によって、平成26年度から大学教育総合センターは「教育推進機構」になりました。これに伴って業務改善の観点から各部門の所掌業務の見直しを行いました。

また、本部門では全学共通教育の実施体制を見直し、全学共通教育を確実に実施するために、本部門を教養教育センターに改編し、分科会を科目委員会に再編するなど、新たな体制を平成27年度から実施することになりました。

「震災復興に関する学修」ガイドラインの作成

平成27年度から1年次「基礎ゼミナール」（必修科目）で震災復興に関する学修を実施するために、同学修のガイドラインを作成しました。また、同ゼミ担当者が円滑に同学修を実施できるよう支援するために、「震災復興に関する学修実施手引き（教員向け）」も作成しました。

総合科目の改廃

総合科目（履修区分）については、COC事業の地域志向教育プログラム構築に対応するため、総合科目を廃止し、新たに地域科目（履修区分）を新設して平成28年度から実施することになりました。この廃止と新設に際しては、総合科目を担当する教員の意向を踏まえ、総合科目のうち7つの授業科目が地域科目に移行し、3つが他の履修区分に移動、4つが廃止になりました。

FD活動について

全学共通教育のFD活動については各分科会がその実施主体として位置づけられています。各分科会のFD活動経費については、昨年度と同様に今年度も各分科会からのFD活動経費の請求に対して原則として10万円を上限として各分科会に配分することにしました。本年度は5分科会から申請があり、FD活動経費は講演会やFD関連資料・文献の購入等として使用されました。

大規模クラスの対応

全学共通教育科目では、毎年度、曜日・時間帯・科目区分等に着目しながら各授業の履修者数の動向を分析しています。特定の曜日・時間帯に受講者が集中しないように開講数の調整を行っていますが、残念ながら大規模クラスを解消するには至っていません。

この対応としては、開講数の調整をいっそう細やかにするとともに、開講数自体を増やすことが必要になっているため、引き続きこれらについて検討を行っていくことにしています。

今年度も大規模クラスについては、担当教員の希望によって、受講生が150名を越える場合は1名、200名を越える場合は2名のティーチング・アシスタントを配置しました。

日常的な業務について

全学共通教育のカリキュラムを円滑に実施するために、各分科会や学務部教務企画課と連携して以下の事項についての審議・策定を行いました。

①翌年度授業計画の策定、②時間割の変更、③非常勤講師の採用、④資格試験等による単位認定、⑤高大連携科目の選定、⑥北東北3大学単位互換集中講義の実施、⑦放送大学利用科目の選定、⑧学年歴の策定、⑨ガイドラインに基づく成績評価の検証、ガイドラインの見直し、⑩年度計画の把握、など。

全学共通教育分科会名簿

(平成27年 3月31日現在)

外国語分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	齋藤 博次	人文社会科学部
2		秋田 淳子	人文社会科学部
3		大友 展也	人文社会科学部
4		川村 和宏	人文社会科学部
5		北村 一親	人文社会科学部
6		GRAS Alexandre Jean	人文社会科学部
7		後藤 尚人	人文社会科学部
8		小林 葉子	人文社会科学部
9		齋藤 伸治	人文社会科学部
10		Schwamborn, Frank	人文社会科学部
11		中里 まき子	人文社会科学部
12		長野 俊一	人文社会科学部
13		西田 文信	人文社会科学部
14		橋本 学	人文社会科学部
15		松林 城弘	人文社会科学部
16		MULVEY Bern Martin	人文社会科学部
17		山本 昭彦	人文社会科学部
18		横井 雅明	人文社会科学部
19		梁 仁實	人文社会科学部
20		UNHER MICHEL	教育学部
21		犬塚 博彦	教育学部
22		大河原 清	教育学部
23		菊地 悟	教育学部
24		境野 直樹	教育学部
25		HALL JAMES	教育学部
26		山崎 友子	教育学部
27		加藤 大雅	工学部
28		呉（諸） 松竹	工学部
29		鈴木 忠彦	農学部
30		原科 幸爾	農学部
31		尾中 夏美	教育推進機構
32		松岡 洋子	教育推進機構

全学共通教育科目 開講一覧 (H26)

履修区分	授業科目名	備考
外国語科目	英語総合Ⅰ（上級）	
	英語総合Ⅱ（上級）	
	英語総合Ⅰ（中級）	
	英語総合Ⅱ（中級）	
	英語総合Ⅰ（初級）	
	英語総合Ⅱ（初級）	
	英語コミュニケーションⅠ（上級）	
	英語コミュニケーションⅡ（上級）	
	英語コミュニケーションⅠ（中級）	
	英語コミュニケーションⅡ（中級）	
	英語コミュニケーションⅠ（初級）	
	英語コミュニケーションⅡ（初級）	
	初級ドイツ語（入門）	
	初級ドイツ語（発展）	
	中級ドイツ語	
	初級フランス語（入門）	
	初級フランス語（発展）	
	中級フランス語	
	初級ロシア語（入門）	
	初級ロシア語（発展）	
	中級ロシア語	
	初級中国語（入門）	
	初級中国語（発展）	
	中級中国語	
	初級韓国語（入門）	
	初級韓国語（発展）	
	中級韓国語	
	上級日本語A	
	上級日本語B	
	上級日本語C	
	上級日本語D	
	上級日本語E	
	上級日本語F	
	上級日本語G	
	上級日本語H	

健康・スポーツ分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	清水 茂幸	教育学部
2		浅沼 道成	人文社会科学部
3		鎌田 安久	教育学部
4		上濱 龍也	教育学部
5		栗林 徹	教育学部
6		澤村 省逸	教育学部
7		清水 将	教育学部
8		大川井 宏明	工学部
9		北條 智彦	工学部
10		立原 聖子	保健管理センター
11		立身 政信	保健管理センター
12		早坂 浩志	保健管理センター

全学共通教育科目 開講一覧（H26）

履修区分	授業科目名	備考
健康・スポーツ科目	健康・スポーツ A	
	健康・スポーツ B	
	健康・スポーツ C（シーズン）	集中講義

情報基礎分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	藤本 忠博	工学部
2		遠藤 教昭	人文社会科学部
3		五味 壮平	人文社会科学部
4		白倉 孝行	人文社会科学部
5		天木 桂子	教育学部
6		宮川 洋一	教育学部
7		吉田 等明	教育学部
8		明石 卓也	工学部
9		小栗栖 太郎	工学部
10		小山 猛	工学部
11		清水 友治	工学部
12		関本 英弘	工学部
13		大坊 真洋	工学部
14		出戸 秀明	工学部
15		中谷 直司	工学部
16		平山 貴司	工学部
17		本間 尚樹	工学部
18		松山 克胤	工学部
19		山口 明	工学部
20		伊藤 幸男	農学部
21		伊藤 芳明	農学部
22		折笠 貴寛	農学部
23		佐藤 至	農学部
24		鈴木 忠彦	農学部
25		関野 登	農学部
26		立川 史郎	農学部
27		築城 幹典	農学部
28		塚本 知玄	農学部
29		三浦 靖	農学部
30		三宅 諭	農学部
31		中西 貴裕	情報基盤センター
32		今井 潤	地域連携推進機構

全学共通教育科目 開講一覧（H26）

履修区分	授業科目名	備考
情報科目	情報基礎	

思想と文化分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	菅野 文夫	教育学部
2		池田 成一	人文社会科学部
3		音喜多 信博	人文社会科学部
4		海妻 径子	人文社会科学部
5		梶 さやか	人文社会科学部
6		中村 安宏	人文社会科学部
7		樋口 知志	人文社会科学部
8		開 龍美	人文社会科学部
9		藤本 幸二	人文社会科学部
10		宇佐美 公生	教育学部
11		今野 日出晴	教育学部
12		佐藤 由紀男	教育学部
13		武田 京子	教育学部
14		室井 麗子	教育学部
15		安井 もゆる	教育学部
16		藪 敏裕	教育学部
17		古賀 潔	農学部
18		江本 理恵	教育推進機構

全学共通教育科目 開講一覧（H26）

履修区分	授業科目名	備考
人間と文化	哲学の世界	
	倫理学の世界	
	日本の思想と文化	
	アジアの思想と文化	
	欧米の思想と文化	
	日本の歴史と文化	
	アジアの歴史と文化	
	欧米の歴史と文化	
	ジェンダーの歴史と文化	
	女性と科学の関係史	
	大学の歴史と現在	
	岩手大学ミュージアム学	
	人類の歴史と地球の現在	
	日本事情A	
	日本事情B	
	思想と文化	

心と表象分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	我妻 則明	教育学部
2		家井 美千子	人文社会科学部
3		奥野 雅子	人文社会科学部
4		織田 信男	人文社会科学部
5		小島 聡子	人文社会科学部
6		中里 まき子	人文社会科学部
7		松岡 和生	人文社会科学部
8		山口 浩	人文社会科学部
9		山本 昭彦	人文社会科学部
10		阿久津 洋巳	教育学部
11		阿部 裕之	教育学部
12		岩木 信喜	教育学部
13		牛渡 克之	教育学部
14		大河原 清	教育学部
15		大野 眞男	教育学部
16		川口 明子	教育学部
17		菊地 悟	教育学部
18		木村 直弘	教育学部
19		近藤 克義	教育学部
20		境野 直樹	教育学部
21		佐々木 正利	教育学部
22		重野 和彦	教育学部
23		白石 文子	教育学部
24		煤孫 康二	教育学部
25		田中 隆充	教育学部
26		玉澤 友基	教育学部
27		平田 光彦	教育学部
28		宮崎 眞	教育学部
29		本村 健太	教育学部
30		山崎 浩二	教育学部
31		山本 奨	教育学部
32		藁谷 収	教育学部
33		立原 聖子	保健管理センター
34		早坂 浩志	保健管理センター

全学共通教育科目 開講一覧 (H26)

履修区分	授業科目名	備考
人間と文化	心の理解	
	日本の文学	
	言葉の世界	
	中国の文学	
	欧米の文学	
	欧米の言語論	
	芸術の世界	
	日本語表現技術入門	
	心と表象	

人間と社会分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	藤本 幸二	人文社会科学部
2		井上 博夫	人文社会科学部
3		内田 浩	人文社会科学部
4		江原 勝行	人文社会科学部
5		小野澤 章子	人文社会科学部
6		海妻 径子	人文社会科学部
7		河合 墨	人文社会科学部
8		川崎 秀二	人文社会科学部
9		菊池 孝美	人文社会科学部
10		杭田 俊之	人文社会科学部
11		齊藤 彰一	人文社会科学部
12		笹尾 俊明	人文社会科学部
13		鈴木 護	人文社会科学部
14		高橋 宏一	人文社会科学部
15		田口 典男	人文社会科学部
16		竹村 祥子	人文社会科学部
17		塚本 善弘	人文社会科学部
18		中島 清隆	人文社会科学部
19		西牧 正義	人文社会科学部
20		深澤 泰弘	人文社会科学部
21		松岡 勝実	人文社会科学部
22		丸山 仁	人文社会科学部
23		宮本 ともみ	人文社会科学部
24		横山 英信	人文社会科学部
25		遠藤 孝夫	教育学部
26		遠藤 匡俊	教育学部
27		菊地 洋	教育学部
28		佐藤 眞	教育学部
29		滝吉 美知香	教育学部
30		田代 高章	教育学部
31		立花 正男	教育学部
32		塚野 弘明	教育学部
33		土屋 明広	教育学部
34		土屋 直人	教育学部
35		土井 宣夫	教育学部
36		名古屋 恒彦	教育学部
37		新妻 二男	教育学部
38		藤井 知弘	教育学部
39		HALL JAMES	教育学部
40		三井 隆弘	教育学部
41		麦倉 哲	教育学部
42		渡瀬 典子	教育学部
43		小山 猛	工学部
44		平井 寛	工学部
45		岡田 啓司	農学部
46		佐藤 和憲	農学部
47		鈴木 忠彦	農学部
48		越野 修三	地域防災研究センター

		氏 名	専任担当
49		小野寺 純治	地域連携推進機構
50		松岡 洋子	教育推進機構
51		大川 一毅	評価室
52		堀 久美	男女共同参画推進室
53		島田 佳憲	人文社会科学部

全学共通教育科目 開講一覧（H26）

履修区分	授業科目名	備考
人間と社会	市民生活と法	
	憲法	
	経済のしくみ	
	現代社会と経済	
	市民と政治	
	現代政治を見る眼	
	社会的人間論	
	現代社会の社会学	
	地域と生活	
	地域と社会	
	対人関係の心理学	
	知的財産入門	集中講義
	著作権法概論	
	知財ワークショップ	集中講義
	キャリアを考える	
	多文化コミュニケーションA	
	多文化コミュニケーションB	
	持続可能なコミュニティづくり実践学	
	地元の企業に学ぶESD	
	地場産業・企業論	集中講義
	社会と知的財産	
	ボランティアとリーダーシップ	集中講義
	科学・技術と現代社会	
	公共社会	
	現代の諸問題	

生物の世界分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	御領 政信	農学部
2		安川 洋生	教育学部
3		荒木 功人	工学部
4		一ノ瀬 充行	工学部
5		坂田 和実	工学部
6		富田 浩史	工学部
7		松浦 哲也	工学部
8		山口 昌樹	工学部
9		若林 篤光	工学部
10		居在家 義昭	農学部
11		磯貝 雅道	農学部
12		板垣 匡	農学部
13		今井 正樹	農学部
14		上村 松生	農学部
15		宇塚 雄次	農学部
16		岡村 泰彦	農学部
17		片山 泰章	農学部
18		加藤 一幾	農学部
19		鎌田 洋一	農学部
20		河村 幸男	農学部
21		木村 賢一	農学部
22		黒田 榮喜	農学部
23		小森 貞男	農学部
24		斎藤 靖史	農学部
25		佐川 了	農学部
26		佐々木 淳	農学部
27		佐藤 繁	農学部
28		佐藤 れえ子	農学部
29		佐原 健	農学部
30		澤井 健	農学部
31		下野 裕之	農学部
32		白旗 学	農学部
33		関 まどか	農学部
34		高橋 透	農学部
35		高橋 正弘	農学部
36		高畑 義人	農学部
37		立澤 文見	農学部
38		立石 貴浩	農学部
39		長澤 孝志	農学部
40		中牟田 信明	農学部
41		西向 めぐみ	農学部
42		西山 賢一	農学部
43		橋爪 力	農学部
44		平田 統一	農学部
45		古市 達哉	農学部
46		古濱 和久	農学部
47		松原 和衛	農学部
48		宮崎 雅雄	農学部
49		村上 賢二	農学部

		氏 名	専任担当
50		村元 隆行	農学部
51		安田 準	農学部
52		山岸 則夫	農学部
53		山田 美鈴	農学部
54		山田 美和	農学部
55		山本 欣郎	農学部
56		横井 修司	農学部
57		RAHMAN ABIDUR	農学部
58		渡邊 学	農学部
59		落合 謙爾	農学部
60		山崎 真大	農学部

全学共通教育科目 開講一覧（H26）

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	生命のしくみ	
	生物の世界	

自然と数理の世界分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	本田 卓	教育学部
2		石垣 剛	人文社会科学部
3		尾臺 喜孝	人文社会科学部
4		川崎 秀二	人文社会科学部
5		北爪 英一	人文社会科学部
6		奈良 光紀	人文社会科学部
7		西崎 滋	人文社会科学部
8		花見 仁史	人文社会科学部
9		押切 源一	教育学部
10		川田 浩一	教育学部
11		重松 公司	教育学部
12		武井 隆明	教育学部
13		土井 宣夫	教育学部
14		土谷 信高	教育学部
15		中村 好則	教育学部
16		藤井 義久	教育学部
17		八木 一正	教育学部
18		山崎 浩二	教育学部
19		吉井 洋二	教育学部
20		宇井 幸一	工学部
21		小笠原 敏記	工学部
22		長田 洋	工学部
23		鎌田 康寛	工学部
24		小林 宏一郎	工学部
25		小林 悟	工学部
26		是永 敏伸	工学部
27		坂田 和実	工学部
28		嶋田 和明	工学部
29		白井 誠之	工学部
30		鈴木 映一	工学部
31		高木 浩一	工学部
32		谷口 晴香	工学部
33		田野崎 真司	工学部
34		内藤 智之	工学部
35		中村 満	工学部
36		成田 晋也	工学部
37		萩原 義裕	工学部
38		北條 智彦	工学部
39		三好 扶	工学部
40		三輪 譲二	工学部
41		向川 政治	工学部
42		八代 仁	工学部
43		吉澤 正人	工学部
44		鈴木 忠彦	農学部
45		寺崎 正紀	農学部
46		小川 薫	研究推進機構
47		木村 毅	研究推進機構

全学共通教育科目 開講一覧（H26）

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	自然のしくみ	
	自然と数理	
	数理のひろがり	
	宇宙のしくみ	
	物質の世界	
	自然と法則	
	自然と数理の世界	

科学技術分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	成田 晋也	工学部
2		山崎 浩二	教育学部
3		會澤 純雄	工学部
4		安倍 正人	工学部
5		叶 榮彬	工学部
6		伊藤 歩	工学部
7		岩崎 正二	工学部
8		上野 和之	工学部
9		内館 道正	工学部
10		瓜生 誠司	工学部
11		大石 好行	工学部
12		大西 弘志	工学部
13		小川 智	工学部
14		小山田 哲也	工学部
15		門磨 義浩	工学部
16		菊池 弘昭	工学部
17		木村 彰男	工学部
18		金 天海	工学部
19		越谷 信	工学部
20		今野 晃市	工学部
21		佐々木 誠	工学部
22		佐藤 淳	工学部
23		佐藤 宏明	工学部
24		佐藤 信	工学部
25		芝崎 祐二	工学部
26		嶋田 和明	工学部
27		白井 誠之	工学部
28		末永 陽介	工学部
29		関本 英弘	工学部
30		竹口 竜弥	工学部
31		谷口 英夫	工学部
32		千葉 則茂	工学部
33		恒川 佳隆	工学部
34		土岐 規仁	工学部
35		永田 仁史	工学部
36		中西 良樹	工学部
37		七尾 英孝	工学部
38		西川 尚宏	工学部
39		西館 数芽	工学部
40		西谷 泰昭	工学部
41		西村 文仁	工学部
42		西山 清	工学部
43		羽原 俊祐	工学部
44		晴山 巧	工学部
45		平塚 貞人	工学部
46		平原 英俊	工学部
47		廣瀬 宏一	工学部
48		福江 高志	工学部

		氏 名	専任担当
49		藤岡 豊太	工学部
50		藤代 博之	工学部
51		藤本 忠博	工学部
52		船崎 健一	工学部
53		松川 倫明	工学部
54		三浦 健司	工学部
55		水野 雅裕	工学部
56		水本 将之	工学部
57		村岡 宏樹	工学部
58		柳岡 英樹	工学部
59		山口 明	工学部
60		山口 勉功	工学部
61		山中 克久	工学部
62		山本 英和	工学部
63		湯川 俊浩	工学部
64		横田 政晶	工学部
65		吉野 泰弘	工学部
66		吉原 信人	工学部
67		吉本 則之	工学部
68		吉森 久	工学部
69		盧 忻	工学部
70		脇 裕之	工学部
71		下飯 仁	農学部
72		武田 純一	農学部
73		山下 哲郎	農学部
74		比屋根 哲	連合農学研究科
75		対馬 正秋	研究推進機構

全学共通教育科目 開講一覧 (H26)

履修区分	授業科目名	備考
人間と自然	科学と技術の歴史	
	暮らしと科学技術	
	科学技術	

環境分科会名簿

		氏 名	専任担当
1	代表者	佐野 宏明	農学部
2		井上 博夫	人文社会科学部
3		竹原 明秀	人文社会科学部
4		中島 清隆	人文社会科学部
5		西崎 滋	人文社会科学部
6		開 龍美	人文社会科学部
7		松岡 勝実	人文社会科学部
8		丸山 仁	人文社会科学部
9		宇佐美 公生	教育学部
10		梶原 昌五	教育学部
11		金澤 俊成	教育学部
12		菊地 洋一	教育学部
13		菅原 悦子	教育学部
14		土谷 信高	教育学部
15		長澤 由喜子	教育学部
16		中村 一基	教育学部
17		名越 利幸	教育学部
18		三井 隆弘	教育学部
19		山崎 浩二	教育学部
20		石川 奈緒	工学部
21		海田 輝之	工学部
22		大河原 正文	工学部
23		大塚 尚寛	工学部
24		鴨志田 直人	工学部
25		齊藤 貢	工学部
26		清水 健司	工学部
27		白井 誠之	工学部
28		中澤 廣	工学部
29		晴山 渉	工学部
30		松林 由里子	工学部
31		南 正昭	工学部
32		青井 俊樹	農学部
33		東 淳樹	農学部
34		安 嬰	農学部
35		伊藤 菊一	農学部
36		井良沢 道也	農学部
37		岡田 秀二	農学部
38		小田 伸一	農学部
39		金山 素平	農学部
40		鎌田 洋一	農学部
41		河合 成直	農学部
42		木崎 景一郎	農学部
43		喜多 一美	農学部
44		木下 幸雄	農学部
45		國崎 貴嗣	農学部
46		倉島 栄一	農学部
47		小出 章二	農学部
48		小林 沙織	農学部

		氏 名	専任担当
49		小藤田 久義	農学部
50		颯田 尚哉	農学部
51		澤口 勇雄	農学部
52		庄野 浩資	農学部
53		関野 登	農学部
54		出口 善隆	農学部
55		橋本 良二	農学部
56		濱上 邦彦	農学部
57		廣田 純一	農学部
58		前田 武己	農学部
59		松木 佐和子	農学部
60		松嶋 卯月	農学部
61		三宅 諭	農学部
62		武藤 由子	農学部
63		山本 清龍	農学部
64		山本 信次	農学部
65		山本 清仁	農学部
66		吉川 信幸	農学部
67		阿部 久幸	教員養成支援センター

全学共通教育科目 開講一覧（H26）

履修区分	授業科目名	備考
環境教育科目	「環境」を考える	
	生活と環境	
	都市と環境	
	地域の環境保全を考える	
	地球環境と社会	
	水と環境	
	廃棄物と環境	
	植物栽培と環境テクノロジー	
	森林と環境	
	動物と環境	
	人の暮らしと生物環境	
	環境マネジメントと岩手大学	

総合科目

全学共通教育科目 開講一覧 (H26)

履修区分	授業科目名	備考
総合科目	文化の伝統と現在	
	コミュニケーションの現在	
	現代社会をみる視角	
	岩手の研究	
	これからの健康科学	
	現代職業選択論	
	岩手大学論	
	図書館への招待	
	宮沢賢治の思想と文学	
	環境マネジメント実践学	
	いわて学Ⅰ	集中講義
	いわて学Ⅱ	集中講義
	国際研修－エネルギーと持続可能な社会－	集中講義
	危機管理と復興	集中講義
	総合科目特別講義	

高年次課題科目

全学共通教育科目 開講一覧 (H26)

履修区分	授業科目名	備考
高年次課題科目	男女共同参画の実践を学ぶ	集中講義
	都市の自然再生プランニング	
	北上川流域学実習	集中講義
	津波の実際から防災を考える	集中講義
	環境都市盛岡づくりプロジェクト	
	社会のなかの法律問題を考える	
	日本と文化・社会と国際ボランティア	
	異文化理解と実践	
	高年次課題科目特別講義Ⅰ	
	高年次課題科目特別講義Ⅱ	

平成26年度 分科会FD担当責任者名簿

外国語分科会	齋 藤 博 次
健康・スポーツ分科会	清 水 茂 幸
情報基礎分科会	藤 本 忠 博
思想と文化分科会	開 龍 美
心と表象分科会	佐々木 正 利
人間と社会分科会	三 井 隆 弘
生物の世界分科会	佐 原 健
自然と数理の世界分科会	本 田 卓
科学技術分科会	成 田 晋 也
環境分科会	梶 原 昌 五

平成26年度 総合科目企画・実施委員会委員名簿

全学共通教育部門長 (分科会からの代表)	松 林 城 弘
外国語分科会	齋 藤 博 次
健康・スポーツ分科会	澤 村 省 逸
情報基礎分科会	藤 本 忠 博
思想と文化分科会	江 本 理 恵
心と表象分科会	煤 孫 康 二
人間と社会分科会	齊 藤 彰 一
生物の世界分科会	立 石 貴 浩
自然と数理の世界分科会	本 田 卓
科学技術分科会	山 本 英 和
環境分科会 (授業担当者 (代表))	木 崎 景一郎
文化の伝統と現代	後 藤 尚 人
コミュニケーションの現在	橋 本 学
現代社会をみる視角	内 田 浩
岩手の研究	横 山 英 信
岩手の研究	名古屋 恒 彦
これからの健康科学	澤 村 省 逸
岩手大学論	江 本 理 恵
図書館への招待	武 井 隆 明
宮沢賢治の思想と文学	山 本 昭 彦
環境マネジメント実践学	中 島 清 隆
いわて学Ⅰ・Ⅱ	(岩手県立大学が実施)
国際研修－エネルギーと持続可能な社会－	尾 中 夏 美
危機管理と復興	後 藤 尚 人

〈平成26年度検証後〉

分科会教育目標及び成績評価基準のガイドライン

「外国語」分科会

(1) 教育目標

1) 英語

「英語」は、学生の習熟度に応じ、a) 十分な英語力を身につけていない学生に対しては、英文法や基礎的表現の復習を通して、読み書きの基礎的な能力、および簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力を育成し、b) 基礎的な運用能力を身につけている学生に対しては、各学問分野の入門的な書物を十分に読みこなせる読解力、平易な英語を使って正しく書ける作文力、身近な話題について説明したり意見を述べたりすることができる能力を養い、c) 高度な学力を有する学生に対しては、各学問分野のより精緻な英文や時事英語を早く正しく読める読解力、様々なトピックについて、明確な英語を用いて自分の意見を書くことができる作文力、さらには自分の意思や意見を十分に表現できるスピーチ能力やプレゼンテーション能力の育成を図る。また、全ての授業を通して異文化理解の促進を図る。

2) 英語以外の外国語

「英語以外の外国語」は、

- a) 日常生活に必要な簡単な会話ができるようにすること
- b) 外国語の基礎的な文法を習得し、簡単な文章を読むことができるようにすること
- c) 日常生活で使う簡単な文章を書けるようにすること
- d) 外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること

の4点を身につけることを教育目標とする。具体的には、初級では「入門・発展」を修めることにより各語学検定試験の4級程度、また中級では3級程度をマスターしたと認められる程度のレベルをめざす。

3) 日本語

「日本語」は、受講学生（外国人留学生）が既に初中級レベルの日本語をマスターしていることを前提に、上級レベルの会話・読解・作文等の指導を行うこととしております。日本人学生や教師、一般市民等と十分な会話を交わすことができ、日本語の新聞・雑誌・教科書等を概ね読むことができ、作文やレポートも日本人学生にあまり劣らない程度に書くことができるという日本語力を修得させることを教育目標としてめざします。

(2) 授業科目の位置づけと到達目標

1) 英語

- ・英語総合Ⅰ（初級）、英語総合Ⅱ（初級）
→ 十分な英語力を身に付けていない学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心にして英語力の向上を図る。
- ・英語コミュニケーションⅠ（初級）、英語コミュニケーションⅡ（初級）
→ 十分な英語力を身に付けていない学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心にして英語力の向上を図る。
- ・英語総合Ⅰ（中級）、英語総合Ⅱ（中級）
→ 基礎的な英語力を身に付けている学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心にして英語力の更なる向上を図る。
- ・英語コミュニケーションⅠ（中級）、英語コミュニケーションⅡ（中級）
→ 基礎的な英語力を身に付けている学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心にして更なる英語力の向上を図る。
- ・英語総合Ⅰ（上級）、英語総合Ⅱ（上級）
→ 高度な英語力を身に付けている学生を対象にして、「読むこと」と「書くこと」を中心にして英語力の更なる向上を図る。
- ・英語コミュニケーションⅠ（上級）、英語コミュニケーションⅡ（上級）
→ 高度な英語力を身に付けている学生を対象にして、「聞くこと」と「話すこと」を中心にして更なる英語力の向上を図る。

2) 英語以外の外国語

- ・初級ドイツ語（入門）、初級フランス語（入門）、初級ロシア語（入門）、初級中国語（入門）、初級韓国語（入門）
→ それぞれの言語について、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を養う。
- ・初級ドイツ語（発展）、初級フランス語（発展）、初級ロシア語（発展）、初級中国語（発展）、初級韓国語（発展）
→ それぞれの言語について、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を発展させ、各語学検定試験の4級程度の力を養う。
- ・中級ドイツ語、中級フランス語、中級ロシア語、中級中国語、中級韓国語
→ それぞれの言語において基礎的な能力を身に付けた者に対して、文法と発音、および「読む」「書く」「聞く」「話す」の基本的な力を発展させ、各語学検定試験の3級程度の力を養う。

3) 日本語

- ・上級日本語A、上級日本語E
→ 口頭表現（プレゼンテーション、討論、高度な会話）の能力を養う。
- ・上級日本語B、上級日本語F

- アカデミックリーディング（論文、資料読解）の能力を養う。
- ・上級日本語C、上級日本語G
 - 文系・理系別専門日本語（基礎専門用語）の能力を養う。
- ・上級日本語D、上級日本語H
 - アカデミックライティング（論文、レポート作成）の能力を養う。
- ・各授業は技能別に編成され、それぞれ日本語能力試験1級合格以上の知識、技能と基礎的なアカデミックジャパニーズ（専門日本語）の習得を到達目標とする。すなわち、高度の文法・漢字（2,000字以上）、語彙（10,000語以上）を習得し、大学生活を送る上で必要な総合的な日本語の知識・技能を習得させることを到達目標とする。

（3）成績評価基準のガイドライン

1）英語

出席、授業中の言語活動（積極的な参加）、課題、試験（ミニテストなども含む）の結果を総合的に判断し、上級、中級、初級のレベルごとに設定された目標（下記参照）に照らし合わせて成績を付ける。

- ・英語総合Ⅰ（初級）、英語総合Ⅱ（初級）
 - 英文法の知識や基礎的表現力が身に付き、基礎的な読み書き能力が身に付く。
- ・英語コミュニケーションⅠ（初級）、英語コミュニケーションⅡ（初級）
 - 英語を使って簡単な日常会話ができる程度のコミュニケーション能力が身に付く。
- ・英語総合Ⅰ（中級）、英語総合Ⅱ（中級）
 - 各学問分野の入門的な書物など比較的高いレベルのテキストを読みこなせる読解力があり、また平易な英語を使って正しく書ける作文力がある。
- ・英語コミュニケーションⅠ（中級）、英語コミュニケーションⅡ（中級）
 - 英語を使って、身近な話題について説明したり意見を述べたりできる能力がある。
- ・英語総合Ⅰ（上級）、英語総合Ⅱ（上級）
 - 各学問分野のより精緻な英文や時事英語などのテキストを早く正しく読める読解力、様々なトピックについて、明確な英語を用いて自分の意見を書くことができる作文力が身に付く。
- ・英語コミュニケーションⅠ（上級）、英語コミュニケーションⅡ（上級）
 - 英語を使って自分の意思や意見を十分に表現できるスピーチ能力やプレゼンテーション能力が身に付く。

2）英語以外の外国語

それぞれの段階で、定期試験、小テスト、出席、それ以外の平常点などの中から2つ以上の基準をもって多角的に判断する。

3) 日本語

出席、授業参加態度、課題の3つの観点から総合的に評価する。教員の意見を一方的に聞くだけでなく、授業に積極的に参加し、課される課題に対して十分に取り組み、成果を示すことに対して評価を行う。

成績評価は以下のように行う。

「秀」：出席の基準を満たし、授業に積極的に関与し、課題に対して授業を通じて得た知識を生かして自らの知見を十分に表現した

「優」：出席、授業態度が優秀で、授業中に得た知識を十分に活用して課題に取り組んだ。

「良」：出席、授業態度が良好で、授業内容を十分理解し、課題に取り組んだ。

「可」：出席、授業態度に問題がなく、授業内容をある程度理解し、課題に取り組んだ。

「健康・スポーツ」分科会

(1) 教育目標

健康・スポーツ科目は、スポーツの実践を通して、健康と体力の保持増進を図るとともにコミュニケーション能力を高め、スポーツの科学的方法やスポーツ文化についても理解を深め、生涯スポーツ社会の実現に対応できる実践力を育てることを教育目標とします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

評価方法		割合	評価の観点				評価の具体的な基準
			関心・意欲・態度	知識・理解	技能・表現	志向・判断	
健康・スポーツA	平常点	75%	◎	○	○	○	S：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 B：授業に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 C：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが全く不足している。
	課題	25%		◎	○	○	S：課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A：課題・レポートの内容が秀でている。 B：課題・レポートの内容が普通である。 C：課題・レポートの内容が低い。 D：課題・レポートの内容がかなり低い。
健康・スポーツB	平常点	75%	◎	○	○	○	S：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A：授業に積極的に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 B：授業に参加し協力してスポーツの実践に取り組んでいる。 C：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D：授業に参加し協力してスポーツを実践する取り組みが全く不足している。
	課題	25%		◎	○	○	S：課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A：課題・レポートの内容が秀でている。 B：課題・レポートの内容が普通である。 C：課題・レポートの内容が低い。 D：課題・レポートの内容がかなり低い。
健康・スポーツC	平常点	75%	◎	○	○	○	S：集中講義に積極的に参加し協力して冬季スポーツの実践に大いに取り組んでいる。 A：集中講義に積極的に参加し協力して冬季スポーツの実践に取り組んでいる。 B：集中講義に参加し協力して冬季スポーツの実践に取り組んでいる。 C：集中講義に参加し協力して冬季スポーツを実践する取り組みが少し不足している。 D：集中講義に参加し協力して冬季スポーツを実践する取り組みが全く不足している。
	課題	25%		◎	○	○	S：課題・レポートの内容がかなり秀でている。 A：課題・レポートの内容が秀でている。 B：課題・レポートの内容が普通である。 C：課題・レポートの内容が低い。 D：課題・レポートの内容がかなり低い。

平常点・課題のうち、「D」がある場合は不可とする。

「情報基礎」分科会

(1) 教育目標

「情報基礎」は、高度情報通信社会において主体的に学生生活、社会生活を送る上で必要とされる基礎・基本的な能力を育成するために開設された科目です。

この科目は、情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得することを通して、情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な見方や考え方を身につけること、さらには、情報化の進展が人間や社会に及ぼす影響を理解して今後の情報社会に参画する上で望ましい態度を身につけることを教育目標としています。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 授業の目的

授業の目的にあたっては、分科会の教育目標に従って、この授業科目を学ぶ目的を、授業を行う側の視点から明記する。

全学共通教育の基礎としての部分で、「情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得すること」「情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な科学的な見方や考え方を身につけること」「今後の情報社会を参画する上で望ましい能力と態度を身につけること」は共通する授業の目的であると考えられる。

しかし、同時に専門教育の基礎として、最終的にどのようなことができるようになって欲しいのか（「実験データを分析し、レポートを作成する」という場面において、エクセルやワード等を適切に選択し利用して、目的を達成できるようになって欲しいのか、「授業で用いる教材を作成する」という場面において、ワードやパワーポイント等を適切に選択し利用して目的を達成できるようになって欲しいのか、など）については、各学部、学科ごとに今後の専門教育との関連を明らかにし、検討した上で決定し、明記することとする。

2) 到達目標

授業の目的に沿って、今度は、具体的に「学生が何をできるようになるのかを自分自身で確認できるような形で」到達目標を記述する。授業の目的が、授業をする側（教員側）からの視点で書かれたものであれば、到達目標は、学生側の視点で書かれたものとなる。その意味では、学生自身の自主学習に対する指針ともなるべき部分である。

上記の「授業の目的」と関連して、「情報及び情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得」でどの程度の知識や技能を習得しなければならないのか（ワード、エクセルを使える、UNIXの基本的なコマンドが使える、など）、「情報や情報手段を適切に取捨選択し意思決定するために必要な見方や考え方を身につける」ために、どのような題材を学習し、どこまでできるようにならなければいけないのか（「実験データを分析し、レポートを作成する」という課題において、エクセルやワード等を適切に選択し利用して時間内に目的を達成できる、「授業で用いる教材を作成する」という課題において、ワードやパワーポイント等を適切に選択し利用して時間内に目的を達成できる、など）、「情報化の進展が人間や社会に及ぼす影響を理解」でどのよう

な理解を求めるのか（開発者の立場から人間や社会に及ぼす影響を考えるのか、ユーザ（消費者）の立場から考えるのか、など）など、具体的な到達点として何を要求するのかについては、各学部、学科ごとに今後の専門教育との関連を明らかにし、検討した上で具体的に示すようにする。

情報基礎分科会においては、この「到達目標」を明確にすることが要求されている。少なくとも、同じ学部もしくは学科内では、一定の到達目標を持つ必要がある。

3) 成績評価の方法と基準

○成績評価方法

出席点（授業に出席したことによる点数）は不可だが、平常点として、授業中に実施した課題（指示されたことができたかどうか）による評価を加えることは十分に考えられる。また、実践的な能力を身につけることを目指す意味より、最終テストによる評価だけではなく、できる限り、通常の授業及び授業時間以外に学生が行う課題を評価方法として加えるようにする。

○観点

- ・それぞれの評価方法に対して、複数の観点からの評価を行うことを意識する。
（人間の身体を測定するのに、身長（長さ）を測定したり、体重（重さ）を測定したりするように、できるだけ色々な観点で測定した方が実態に近づく、という考え方に基づく。）
- ・4つの観点（「関心・意欲」「知識・理解」「技能・表現」「思考・判断」）をバランス良く含むこと。
- ・「知識・理解」もしくは「技能・表現」だけに偏らないように配慮すること。
- ・情報基礎では、特に「思考・判断」（自分で選択できる）の観点を取り入れ、そのような実習を行わせるようにする。

○基準

- ・それぞれの「方法」において、具体的に何をどのように評価するのかを明記すること。
- ・それぞれの「方法」において、全体（100%）に対して、どのぐらいの割合（例えば30%など）を占めるものなのかを明記すること。

○秀、優、良、可

設定した到達目標に照らし合わせて、「秀」「優」「良」「可」の基準を明記すること。例えば、「秀：与えられた課題に対して、使うソフトウェアを自分で選択して時間内に解決できる」、「優：与えられた課題に対して、使うソフトウェアの候補を指示すれば、その中から選択して、時間内に解決できる」など、それぞれの「到達目標」に照らし合わせておおよその「像」を示すこと。

特に「可」の学生は最低限どの程度の能力が身についているのかについては、できる限り明記すること。

情報基礎分科会では、「到達目標への達成度を基準とした絶対評価」を行うことを基本とするが、秀、優、良、可のバランスが極端にならないよう（ほぼ全員が秀、ほぼ全員が不可など）、常に到達目標及び評価の基準を見直すこととする。

「思想と文化」分科会

(1) 教育目標

「思想と文化」は、人間と思想・文化との関係を主題とする教養科目です。

すなわち、これは、主として思想・文化・歴史の観点から、人間の生み出す思想と文化およびその歴史をめぐるさまざまな問題を主題として扱う科目です。この科目では、学生の皆さんが現代の思想や文化に特徴的な課題や、それを理解するために必要な歴史的な課題にふれるとともに、あわせて思想・歴史・文化にかかわる学問分野に特有の「ものの見方・考え方」にもふれることを通じて、教養科目全体としての教育目標〔特に①と②〕の達成をめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 到達目標

- ・学生の皆さんが、思想・文化・歴史にかかわる学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことができるようになる。
- ・学生の皆さんが、あらゆる学問分野の基盤になっている各種の常識・通念を根底的に深く問い直すための、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、思想・文化・歴史との関係において、創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら培うことができるようになる。

2) 成績評価基準

(A) 成績評価の方法について

- ・現行のシラバス手引き等にある評価項目をふまえて評価を行うが、個々の授業科目において評価方法の選択の余地が実質的に残されるよう配慮する。
- ・評価項目としては、出席、テスト、レポート、レスポンスカードなど、共通の評価項目を踏まえて評価していく。
- ・各評価項目の重みづけについては、授業担当者が自身で決定できるものとする。

(B) 成績評価の基準について

- ・シラバスで定めた「到達目標」の達成度を基準として成績評価を行う。

評価

基準

- | | |
|----|---|
| 秀 | 所期の「到達目標」にほぼ完全に達しているか、または傑出した水準に達している。 |
| 優 | やや問題はあるが、所期の「到達目標」に十分に達している。80～89点に対応。 |
| 良 | 誤りや不十分な点があるが、所期の「到達目標」にかなりの程度まで達している。
70～79点に対応。 |
| 可 | 所期の「到達目標」に最低限ではあるが達している。60～69点に対応。 |
| 不可 | 単位を与えるためにはさらに勉強が必要である。60点未満に対応。 |

「心と表象」分科会

(1) 教育目標

「心と表象」は、人間の心の世界とその具体的な表れ（表象）としての言葉・文学・芸術の世界を主題とする教養科目です。すなわち、これは心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界の諸相とその背景にある諸問題を主題として扱う科目です。

この科目では、学生の皆さんが、人間の心に関する諸問題と人間の表象（表現）活動としての言葉、文学および芸術の諸相を理解するとともに、あわせて心、言葉、文学、芸術にかかわる学問分野に特有の「ものの見方・考え方」にもふれることを通じて、教養科目全体としての教育目標〔特に①と②〕の達成をめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 到達目標

- a) 学生の皆さんが、心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界にかかわる学問分野の「ものの見方・考え方」や知識を幅広く習得することにより、自分自身の専門分野の仕事の全体的な意味や役割を知り、その専門的な知識を生かすことのできるような幅広い教養を自ら培うことができるようにする。
- b) 学生の皆さんが、あらゆる学問分野の基盤となっている各種の常識・通念を根底的に深く問い直すための、深い「ものの見方・考え方」や知識を習得することにより、心の世界、言葉と文学の世界、芸術の世界との関係において、創造的・個性的に生きるうえで必要な深い教養を自ら養うことができるようにする。

2) 成績評価基準のガイドライン

- a) 科目間の不均衡をさけるため、各授業担当者は、成績評価が（ほぼ全員がAとかDなど）極端に偏らないよう配慮する（この点はシラバス等には記載しない）。
- b) 各授業担当者は、担当科目の成績評価の方法と基準をあらかじめシラバスに明示する。〔シラバスに入力する成績評価の方法と基準は、基本的にアイアシスタントでのシラバス入力の枠組みに準拠する。〕
- c) 評価方法の項目としては、①試験、②レポート、③講義への貢献度（出席回数、課題発表、質疑・討論等）、④その他講義内容に応じ各担当教官が指示した事項、が挙げられるが、これらの中から各授業担当者が授業の内容に応じて、できるだけ複数の評価方法を適宜選択し、シラバスに明示する。

「人間と社会」分科会

(1) 教育目標

「人間と社会」分科会は、単なる個々人の集合ではなく、人と人との関係を含んだ概念である「社会」について、そこで生じている様々な問題を主題として取り上げる科目を担当します。

「人間と社会」分科会は、混沌としているように見える複雑な社会問題について、受講生がその表層部分にのみ注目するのではなく、広い視野をもって個々の社会現象間の連関を認識することを通して、社会を科学的に把握するための知識や「ものの見方・考え方」を修得し、もって現代社会に適切に対応し、これからの社会を形成していく市民としての基礎的素養を身につけることを教育目標とします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) 成績評価の方法

成績評価は出席点（授業に出席したことによる点数）のみでは行わない。最終試験・最終レポートだけではなく、出席状況やレスポンスカードの内容、中間試験・中間レポートなども評価の対象とする。

2) 成績評価の基準

- ・秀 — 授業の内容を十分に理解するとともに、到達目標に照らして学修成果がとくに高い水準に達している（100点～90点）。
- ・優 — 授業の内容を十分に理解するとともに、到達目標に照らして学修成果が高い水準に達している（89点～80点）。
- ・良 — 授業の内容を十分に理解するとともに、到達目標に照らして学修成果が一定程度の水準に達している（79点～70点）。
- ・可 — 授業の内容をだいたいにおいて理解するとともに、到達目標に照らして学修成果が合格水準を超えている（69点～60点）。

「生物の世界」分科会

(1) 教育目標

「生物の世界」は現代社会に生きている人、すなわちこれから社会にでて生きていこうとしている理科系、文科系を問わず全ての学生に教養としての現代生物学あるいは生命科学を様々な角度から複眼的、鳥瞰的かつ総合的に概説することによって、学生が生命のしくみを日常生活と関連づけて理解し、いのちのあり方を見つめ、改めて自分を知ることができるような講義内容とし、科学的な生命観を養うことを目標とする。

(2) 成績評価基準のガイドライン

「生物の世界」の分科会は以下に示した成績評価基準と成績評価方法を採用。本分科会の教育目標に従い、生命のしくみに対する科学的な「ものの見方・考え方」の習得を測定するために多様な評価方法を採用。

1) ガイドライン

秀：生命のしくみについて十分に理解し、自分なりの観点で生命現象を科学的に分析し、十分に理解する能力を身につけていること。(90点)

優：生命のしくみについて十分に理解し、一定の観点で生命現象を科学的に分析し、理解する能力を身につけていること。(80点)

良：生命のしくみについて理解し、一定の観点で生命現象を科学的に分析し、理解する能力を身につけていること。(70点)

可：生命のしくみについて理解し、科学的に思考する能力を身につけていること。(60点)

不可：上記「可」の到達目標を達していない。

2) 成績評価法

平常点、小テスト、レポート、期末試験等により評価する。これらの成績評価の比重については、担当教員の総合判断による。

「自然と数理の世界」分科会

(1) 教育目標

「自然と数理の世界」分科会は、自然科学的な自然認識の到達点を踏まえつつ、自然科学における各学問分野、とりわけ、数学・物理学・化学の分野を中心として、それぞれの学問分野に特有な基礎的概念と「ものの見方・考え方」の理解を図り、論理的な思考力を養成することを目標とする。

(2) 成績評価基準のガイドライン

「自然と数理の世界」分科会は、以下に示した範囲内で成績評価基準と成績評価方法を作成する。本分科会の教育目標に照らし、基礎的概念と「ものの見方・考え方」の理解や論理的な思考力を測定するために多様な評価方法を採用のものとする。

- ※ 到達目標に対応した基準を設定する。どのような到達目標に到達すれば、「秀」、「優」、「良」、「可」なのかを明記する。
- ※ 成績評価の方法を示す。平常点、小テスト、レポート、期末試験など。
- ※ 複数の方法で評価する場合には、それぞれの方法でどのような基準で判定し、およそどのくらいの割合で集計するかを明示する。

「科学技術」分科会

(1) 教育目標

科学技術と人間社会の関わりをテーマに、現代社会の繁栄を担う様々な科学技術開発の歴史と現状そして将来を、社会や経済との関連も含めて理解し、幅広い教養とものの見方・考え方を習得することを目指します。

(2) 成績評価基準のガイドライン

- 1) 到達目標……中世・近世以降の科学と技術の歴史と、先端科学技術（例えば、ロボット、コンピュータ、エレクトロニクス、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、新材料など）の現状を、講義と自宅学習を通じて理解する。さらに、人間社会との関わりの中から科学技術の将来のあるべき姿について、自らの考えをまとめることが出来る能力を習得する。

2) 成績評価の基準

本分科会では以下に示す評価基準で評価する。

- ・これまでの科学と技術の歴史と、先端科学技術のいくつかの分野の歴史と現状を理解出来ているか。（「可」、「良」の評価基準とする）
- ・科学技術の歴史と現状の理解に基づき、将来のあるべき姿について自らの考えをまとめることが出来るか。（「優」、「秀」の評価基準とする）
- ・成績は平常点（レスポンスカードの提出や授業中の発言など）20%、レポートや期末テスト80%で総合評価する。
- ・関連する内容に関する書籍や論文を自ら読んでまとめるレポートを課し、評価に加える。

「環境」分科会

(1) 教育目標

「環境教育科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられる教育科目です。

この科目では、教育科目全体としての上記の教育目標に沿い、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことをめざします。

(2) 成績評価基準のガイドライン

1) ガイドライン

秀：到達目標（各教官が定める）のほぼすべてにおいて特に高い水準に達している。(90点)

優：到達目標のほぼすべてにおいて高い水準に達している。(80点)

良：到達目標をある程度達成している。(70点)

可：到達目標の一部を達成しているが、学習成果が十分でない。(60点)

不可：到達目標を達成していない。

2) 成績評価方法

平常点 20%

レスポンスカード 40%

学期末試験 40%

なお、教員の判断により、レポートを課し、レスポンスカードの得点に含めても良い。

平成20年3月3日

オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン

複数の教員が一つの授業科目を担当するいわゆるオムニバス授業は、多角的・学際的視野を学生に提供できるなど長所が多い反面、一つの授業科目としての統一性に欠けるという欠点も指摘されてきた。事実、各講義担当者が自分の担当分以外には無関心で、受講者の立場からすると前後に脈絡のないバラバラな話を聞かされたという印象しか残らない授業科目も皆無ではなかったと思われる。

こうした反省を踏まえて、平成17年に大学教育センター全学共通教育企画・実施部門では、総合科目担当者を対象にしたアンケート調査や当時の「総合科目分科会」の検討を経て、「オムニバス方式の学際的な授業科目における講義間の密接な連携について」（平成17年9月）を策定し、総合科目の授業方法の改善に活用してきた。

以下に箇条書きされている新たなガイドラインは、旧「総合科目分科会」に替る「総合科目企画・実施委員会」が従来の指針を再検討するとともに、課題として残された点にも検討を加えて策定したものであり、平成20年度開講科目から活用することとする。

- 1 オムニバス方式授業科目の講義間の連携は以下のような方法で当該科目の代表者を通じて達成を図る。
 - (1) 各授業科目の担当代表者は科目の責任者及びコーディネーターの役割を担い、各科目は、原則として、一人の担当者による通常の科目と同じように担当代表者の科目として扱う。なお、代表者及び授業担当者の教育貢献度等については別途検討する。
 - (2) 担当代表者は授業の目的・到達目標・授業の概要・成績評価基準などについて講義担当者間で共通理解を図り、シラバス記載や成績提出等に責任を持つ。
 - (3) 担当代表者は初回のオリエンテーション等により受講者に対して授業の目的等について周知を図る。
 - (4) 担当代表者は原則として2回程度講義担当者全員を招集して授業の趣旨・内容等について検討会など（授業に組み入れることも可）を開催し、講義担当者全員が授業科目全体の把握に努める。講義担当者に学外者がいる場合も何らかの方法で相互理解を図る。
 - (5) その他、担当代表者は可能な範囲内で他の担当者の講義に出席するなど連携に必要と思われる措置を講ずる。
- 2 各講義担当者は上記の役割を担う代表者に協力するとともに、以下の点に留意する。
 - (1) 各講義担当者は授業科目全体における自分の担当分の位置と意義を十分理解する。
 - (2) アイアシスタントなどの有効活用により、講義内容や学生への配付資料等を担当者間で共有する。
 - (3) その他連携に必要と思われる措置を講じる。
- 3 大学教育総合センターは担当代表者が円滑に役割を果たせるように協力する。
 - (1) 大学教育総合センターは「総合科目企画・実施委員会」を通じてオムニバス方式授業の実施状況を把握する。
 - (2) その他連携に必要と思われる措置を講じる。

平成20年3月3日

「総合科目」の教育目標と成績評価のガイドライン

(1) 教育目標

多角的な「ものの見方・考え方」や学際的な知識を習得することにより、激しく変動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を学生が自ら培うことを支援する。（『履修の手引き』より）

(2) 成績評価のガイドライン

1) 授業科目の目的

上記の「総合科目」全体の教育目標を踏まえて、授業科目ごとに目的を設定する。

2) 授業科目の到達目標

授業の目的に沿って、「具体的に何を出来るようになるのかを学生自らが確認できる形で」到達目標を記述する。言い換えれば、教員が設定した目的に対して学生は何か出来れば到達したことになるのかを具体的に記述して、自主的な学習の指針を与える。

3) 成績評価の方法と基準

- ・到達目標を踏まえた絶対評価とする。
- ・期末試験だけでなく、複数の方法で評価する。
- ・平常点については出席回数だけではなく、レスポンスカード、iカード等も利用する。
- ・レポートやテストなども複数の観点（関心・意欲、知識・理解、技能・表現、思考・判断など）から評価する。
- ・上記の評価方法について何（平常点、テストなど）をどの程度の割合（例えば平常点30%など）で評価するかを明示する。

4) 授業担当者間の確認

オムニバス形式授業科目では「オムニバス方式授業科目の講義間の連携のためのガイドライン」を踏まえて、成績評価についても一つの授業科目としての統一を図れるよう成績評価基準等を確認する。

＜学長室素案＞

教養教育センター（仮称）の設立について

平成26年9月2日

1. 現在の全学共通教育実施体制の問題点と課題

現在の実施体制は、全学共通教育に理解のある一部教員によって科目運営がなされているのが実態で、それら教員が退職、転出した場合など科目運営が困難になるため、その影響で近年科目開講数が減少傾向にあり、科目数減少や開講科目のクラスサイズの大規模化など、本学の教育目標を達成するために必要な全学共通教育を実施することが困難な状況が生まれてきている。

このような状態が続けば、地域と世界で活躍できるグローバル市民を育てる高度教養教育としての「21 世紀の教養」（日本学術会議の提言）を身につける教養教育が十分に実施できず、岩手大学の教育目標実現やグローバル化推進を妨げる恐れもあるため、平成 28 年度の大規模大学改革に向けて、全学共通教育においても抜本的な強化が必要である。

2. 全学共通教育の強化について

全学共通教育の強化とは次の 2 点である。

- ① グローバル市民を育てる高度教養教育を実施するために、持続的に質の高い全学共通教育科目を安定的に提供できる（現状を維持するだけでなく、絶えず検証を行いながら教育の質を発展させる）。
- ② 高度教養教育を実現するために必要な諸業務を確実・安定的に実施できる。

3. 全学共通教育強化のための教育組織（以下、組織）の目標、実施体制

（1）目標

「世界で・地域で活躍できるグローバル市民を育てる高度教養教育」

平成 22（2010）年 4 月、日本学術会議は提言「21 世紀の教養と教養教育」を公表し、21 世紀に期待される教養は「現代世界が経験している諸変化の特性を理解し、突きつけられている問題や課題について考え探究し、それらの問題や課題の解明・解決に取り組んでいくことのできる知性・智慧・実践的能力である」と定義し、「21 世紀型市民」の「市民的教養」（中教審答申「我が国の高等教育の将来像」平成 17 年）と言えるものの再構築と形成を目指した、**技法知・学問知・実践知**を養い培う新しい教養教育の構築を要請した。

岩手大学は、この要請を受けて、「21 世紀の教養」を身につけた市民の育成、即ち世界で・地域で活躍できるグローバル市民を育てるために、これまでの教養教育を内容・実施体制において強化して、新たな高度教養教育を構築する。

＊ただし人材像については、学長室グローバル化推進WG（「グローバルな視点を持つ地域創生人材」）等と調整が必要である。

（２）新しい全学共通教育のカリキュラム

「世界で・地域で活躍できるグローバル市民を育てる高度教養教育」を達成するために**技法知・学問知・実践知**を培い、**世界と地域の課題**にも対応した全学共通教育カリキュラムを構築する。

I. 技法知を培う共通基礎科目群

- ①現代社会を生きるための確実な基礎教育である外国語科目（英語、英語以外の外国語）、情報科目、健康・スポーツ科目
- ②英語力を強化する科目 ＊具体化に際してグローバル教育センターとの連携が必要

II. 学問知を培うリベラル・アーツを中心とした講義科目群

- ①ディスプリンに基づいたリベラル・アーツ&サイエンスである人間と文化、人間と社会、人間と自然の各科目
- ②現代的課題に対応した課題を扱う地域科目や環境教育科目とテーマ別の特設プログラム科目
 - ・ 現在の文化、社会、自然の枠組みや修得単位数なども再検討する。
 - ・ 現行の科目、担当者に関するデータを整理する。



III. 実践知を培うアクティブ・ラーニング型（PBL）科目群

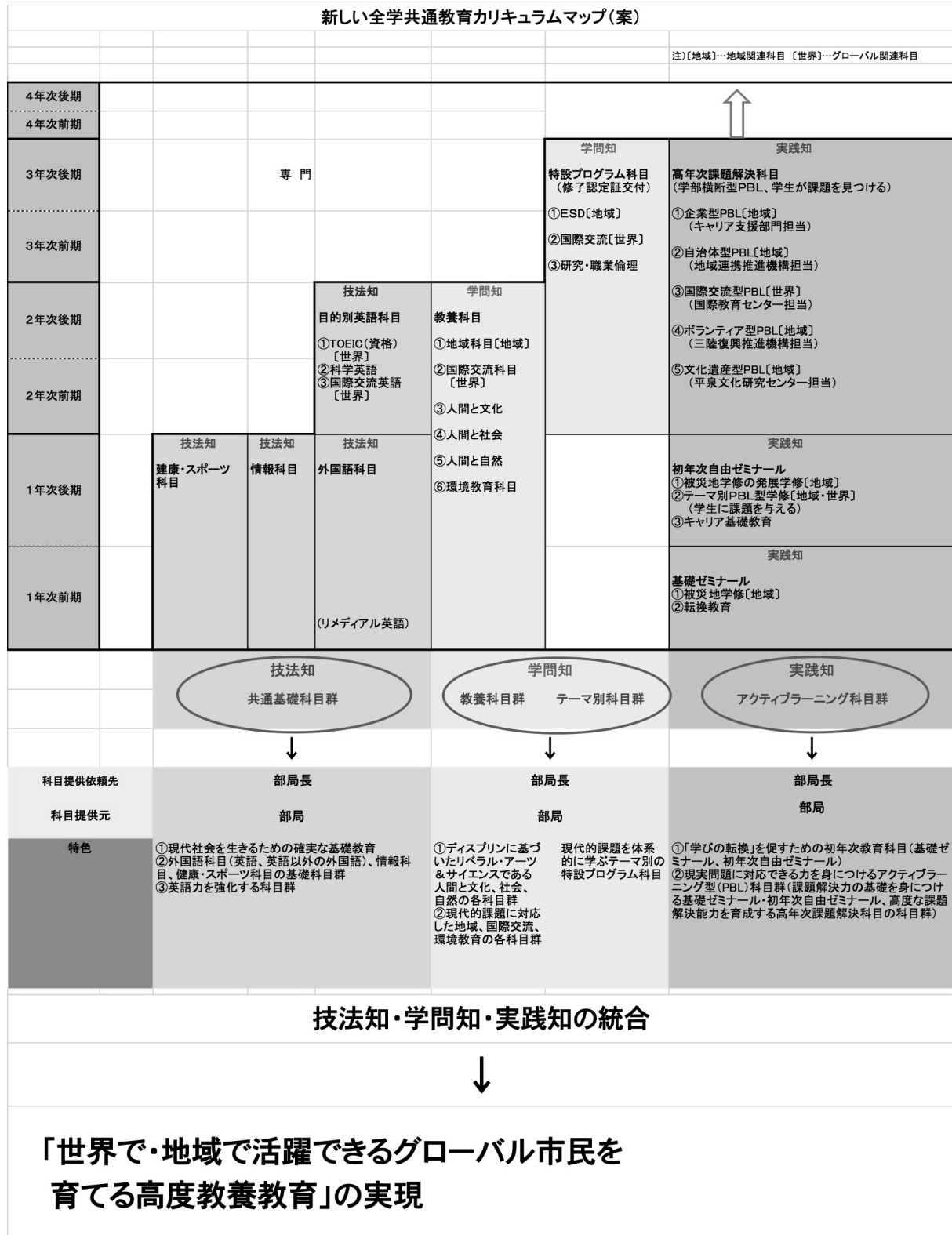
- ① 1年次学生を対象にした初年次教育として、「学びの転換」を促し、課題解決力の基礎を身につけるための**基礎ゼミナール**、**初年次自由ゼミナール**
- ② 2年次以上の学生を対象とした、現実の問題に対応できる力を身につけるために、高度な課題解決能力を育成する**高年次課題解決科目**
 - ・ 図中の5つの高年次課題解決科目は例示であり、今後担当部局等と協議して増やす必要がある。
 - ・ 現行科目も全学共通教育の目標に合致するように見直しを行う。
 - ・ 新しい科目の立ち上げについても計画的に実施できるように検討する。

＊充実に伴う全学共通科目の必要単位数の増加は可能な限り抑え、PBL科目群の新設に伴う他分野の単位数の減少や、教育内容の充実を中心にした改革を模索する。基本的な考え方を確認した後、各学部での単位数や科目群の履修方法など特徴を出す方向で検討する必要がある。全体として「量的拡大」よりも「質的拡充」を重視する。

＊英語以外の（理系分野の）リメディアル教育（図中では英語のみ明示）の必要性、学部との関係（学部主導/センター主導）についても検討する必要がある。

＊（理系）専門基礎の全学的な位置づけに関して、センターが関与することが望ましいか否か（新センターと教育推進連携部門との関係）についても検討する必要がある。

☆ 新しい全学共通教育カリキュラムマップ（案）



（３）組織の実施体制 ― 教養教育センター（仮称）の設立 ―

全学共通教育実施体制強化のために、全学共通教育実施の権限・責任を明確化して新たな実施組織を創設する。

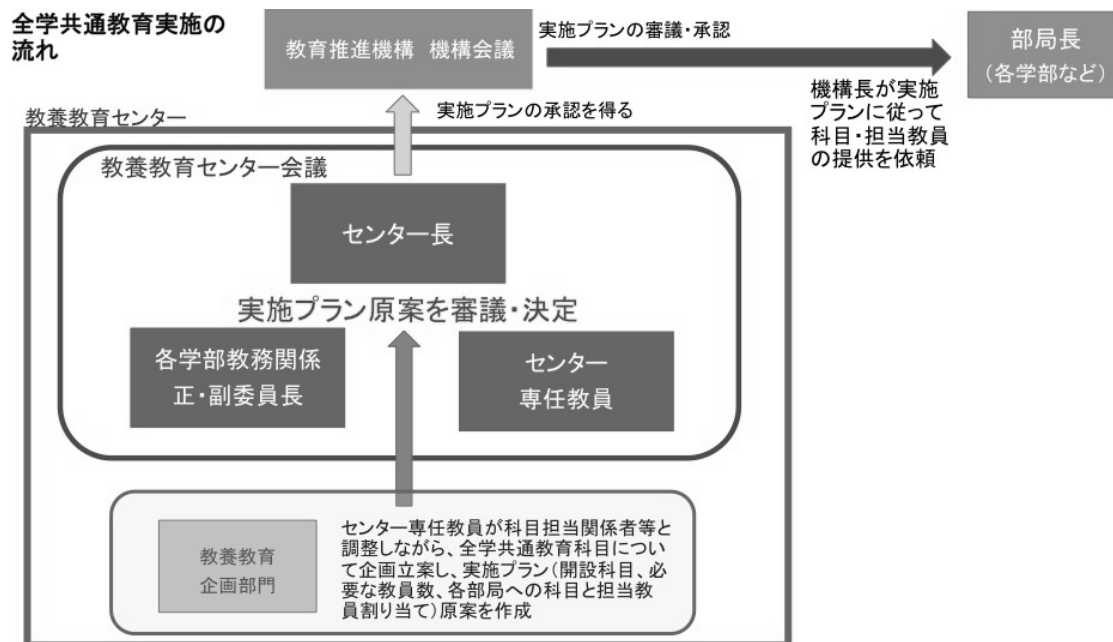
実施組織の新設とその役割

- ①現在の教育推進機構の全学共通教育部門を独立させた「**教養教育センター（仮称）**」（以下、センターと称す）を設立し、教育推進機構の独立性の高い下部組織とする。
センターには、**教養教育センター会議**（以下、センター会議と称す）と**教養教育企画部門**を置く。
- ②センター長には学部教員のうちから一名を宛て、センターには専任教員を置く。また、センター会議はセンター長、各学部教務関係正・副委員長、センター専任教員をもって構成員とする。なお、センターには、教養教育企画部門の業務を遂行するに十分な専任教員（５名程度）を配置する必要がある。
 - ・ 本センター専任教員の増員が難しい場合、他部門の専任教員との密接な連携や、任期付きで学部から（センター業務を優先する）教員を配置する可能性も検討する（学部からの任期付き教員を配置する場合は、学部での組織運営に関する duty を免除するなどの仕組みの導入を検討する）。
 - ・ PBL 担当可能な教員の拡充や PBL 科目の拡充を検討する（将来的に PBL 科目を維持運営する組織体制と教員への指導を行う人材の補充を検討する）。
- ③**センターの業務は全学共通教育の企画・立案とし**、教育推進機構が全学共通教育を実施するための**全学共通教育実施プラン**（以下、**実施プラン**と称す）を策定する。そのために、**実施プランについてはセンター会議で審議し決定する**。
- ④**教養教育企画部門は実施プラン原案を作成する**。そのために、センター専任教員が科目担当関係者等と調整しながら、実施プラン（開設科目、必要な教員数、各部局への科目と担当教員割り当て）の原案を作成する。

全学共通教育実施の過程

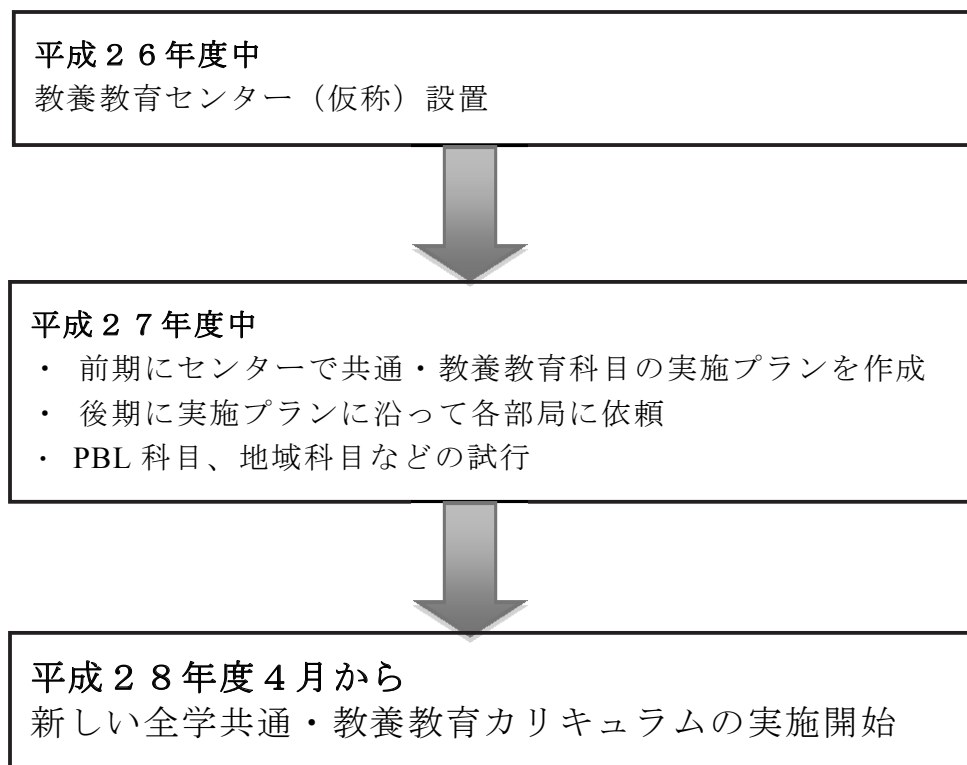
- ①センターの教養教育企画部門は、実施プラン原案を作成する。
↓
- ②センター会議は実施プラン原案を審議（調整）し、実施プランを決定する。
↓
- ③教育推進機構会議はセンターが決定した実施プランを審議し承認する。
↓
- ④教育推進機構長は実施プランに従い、各部局に割り当てた科目とその担当教員の提供を、各部局長に依頼する。
↓
- ⑤各部局長は実施プランの割り当てに従い、責任を持って科目とその担当教員を提供する。（学部が講義に対する責任を持つ体制と全学的な意識改革が必要）

☆ 全学共通教育実施の流れ



* 現在の分科会の位置づけや教養教育センターとの協力関係、関連して「授業担当教員間の連携・調整」のあり方（組織）については、今後の検討事項とする。

(4) 教養教育センター（仮称）設立に向けてのロードマップ



＜教養教育センター設置検討専門委員会(案)＞ 教養教育センターの設立について

平成26年12月10日
教育推進機構会議了承

1. 現在の全学共通教育実施体制の問題点と課題

現在の実施体制は、全学共通教育に理解のある教員を中心に科目運営がなされているのが実態で、それら教員が退職、転出した場合など科目運営に支障を来している。そのため、近年科目開講数が減少傾向にあり、科目数減少や開講科目のクラスサイズの大規模化（例えば、平均受講生数が自然分野では26年度前期147人・後期124人、科学技術分野では同年後期138人）が生じている。それゆえ、本学教育目標を達成するために必要な質の高い全学共通教育の実施が困難になってきている。

このような状態が続けば、今後学生に質の高い全学共通教育科目を保障していくことがさらに困難になるため、世界や地域で活躍できる人材の育成を目指す岩手大学の教育目標を実現するには、平成28年度の大規模大学改革に向けて、全学共通教育においても抜本的な強化が必要である。

2. 全学共通教育の強化について

全学共通教育の強化とは次の2点である。

- ①世界や地域で活躍できる人材を育成するために、質の高い全学共通教育科目を安定的に持続的に提供できる（現状を維持するだけでなく、絶えず検証を行いながら教育の質を発展させる）。
- ②安定した質の高い全学共通教育を実現するために、教員を確保して必要な諸業務を確実に実施できる。

3. 全学共通教育強化のための教育組織（以下、組織）の目標、実施体制

（1）目標

中教審答申（「我が国の高等教育の将来像」2005年）は、21世紀市民の教養形成を目指して、**技法知・学問知・実践知**を培う新しい教養教育の構築を大学に要請した。この要請を受けて日本学術会議は、現代世界の問題や課題の解明・解決に取り組んでいくことのできる知性・智慧・実践的能力の育成を目指すとして定義した「21世紀の教養」を「**21世紀の教養と教養教育**」（2010年）として提言した。

岩手大学においても、世界や地域の視点から自ら課題を発見し解決することができるだけでなく、地域の持続的な発展に貢献することができる能力の育成を目指す必要がある。その実現のために、これまでの全学共通教育を教養教育とあらため、技法知・学問知・実践知に基づく新たな教育内容・実施体制を構築する。特にPBL型科目を中心とした実践知（高年次課題解決科目・初年次自由ゼミナール）を強化し、次の目標の達成に努める。

「世界や地域の視点から課題を発見し解決できる能力を育成する教養教育」

（２）新しい教養教育のカリキュラム

「世界や地域の視点から課題を発見し解決できる能力を育成する教養教育」を達成するために技法知・学問知・実践知を培い、世界や地域の課題にも対応した教養教育カリキュラムを構築する。

I. 技法知科目群

①現代社会を生きるために必要な基礎を確実に身につける外国語科目（英語、英語以外の外国語）、情報科目、健康・スポーツ科目

②英語力を強化する科目

＜科目群＞

・健康・スポーツ科目 ・情報科目 ・外国語科目（目的別英語を含む）

II. 学問知科目群

主体をあらわす「成り立ち」「しくみ」と客体をあらわす「働き」「社会」「文化」というキーワードによって構成され、自分自身や自己が生活する地域を理解することを通じて自らの主体性を培うとともに、自己が働きかける客体である社会や文化、世界、自然の在り方や両者の取り結ぶ関係を理解することができる科目群

＜科目群＞

- ・人間の成り立ちと文化（文化）
- ・国際社会の成り立ちと文化（国際）
- ・社会のしくみと働き（社会）
- ・自然の成り立ちと働き（自然）
- ・科学技術の成り立ちと働き（科学技術）
- ・環境の成り立ちと社会（環境）
- ・地域のしくみと文化（地域）

教養教育科目の修得すべき単位
数例は別紙参照

III. 実践知科目群

技法知・学問知で培った主体性を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を実践化する科目群

＜科目群＞

- ・基礎ゼミナール、初年次自由ゼミナール
1年次学生を対象にした初年次教育として「学びの転換」を促し、課題解決力の基礎を身につけるための科目
- ・高年次課題科目
2年次以上の学生を対象とした、現実の問題に対応できる力を身につけるために、高度な課題発見・解決能力を育成する科目

IV. 特設プログラム

現代的な課題に関わる特定の分野から一つのテーマにアプローチし、そのテーマを深く掘り下げることで学生が体系的な知識を修得し、現代社会を生きるために必要な問題意識を育むことを目的とする、技法知・学問知・実践知の科目群から一定の科目を履修すれば修了認定書が交付される特設プログラム

＜科目群＞

- ・地域とボランティア
- ・キャリアデベロップメント
- ・健康・安全リテラシー
- ・環境リテラシー
- ・岩手と文化
- ・国際社会と文化

＜例＞地域とボランティア 10単位以上

区分			対象科目名	修得すべき単位数
技法知科目	健康・スポーツ科目		〇〇〇、△△△、×××	1単位以上
学問知科目	文化&国際		〇〇〇、△△△、×××	2単位以上
学問知科目	社会		〇〇〇、△△△、×××	2単位以上
学問知科目	地域関連科目	地域	〇〇〇、△△△、×××	2単位以上
実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	□□□	1単位
実践知科目	地域関連科目	初年次ゼミナール	□□□	1単位
実践知科目	地域関連科目	高年次課題科目	ボランティア型PBL	2単位

（３）組織の実施体制 ― 教養教育センターの設立 ―

教養教育を確実に実施するために、教養教育実施の権限・責任を明確化して新たな実施組織を創設する。

実施組織の新設とその役割

- ① 現在の教育推進機構の全学共通教育部門を独立させた「**教養教育センター**」（以下、センターと称す）を設立し、教育推進機構の独立性の高い下部組織とする。センターでは、**教養教育センター会議**（以下、センター会議と称す）を開催する。また、センターには**教養教育科目企画会議**、**科目分野毎に科目委員会**を置く。
- ② センターの業務は教養教育の企画・立案とし、教育推進機構が教養教育を実施するための教養教育実施プラン（年度毎の開設科目、担当教員、時間割を示した計画。以下、実施プランと称す）を策定する。実施プランはセンター会議で審議し決定する。また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）にしたがって本学の教育目標を達成するために、教養教育の評価・改善に関わる業務も遂行し、教養教育の改善に努める。
- ③ センター長には学部教員のうちから一名を宛て、センターには専任教員を置く。
- ④ センター会議はセンター長、各学部教務関係正・副委員長、センター専任教員をもって構成員とする。
- ⑤ 教養教育科目企画会議は、センター長、科目委員会委員長等により構成し、各科目委員会が検討・策定した案を統合・調整して、実施プランの原案を作成する。
- ⑥ 科目委員会は科目群毎に設置し、センター専任教員を委員長として各科目群に属する教員により構成する。科目委員会は科目を編成し、開設科目の担当教員を調整して割当て、時間割編成について検討する。また、科目の教育目標、成績評価基準、到達目標を検討・策定する。
- ⑦ センター専任教員は、科目委員会の委員長、実践知の初年次・高年次 PBL 科目の代表を勤め、以下の業務を担当する。なお、センターには、業務を遂行するに十分な専任教員（少なくとも５名）を配置する必要がある。

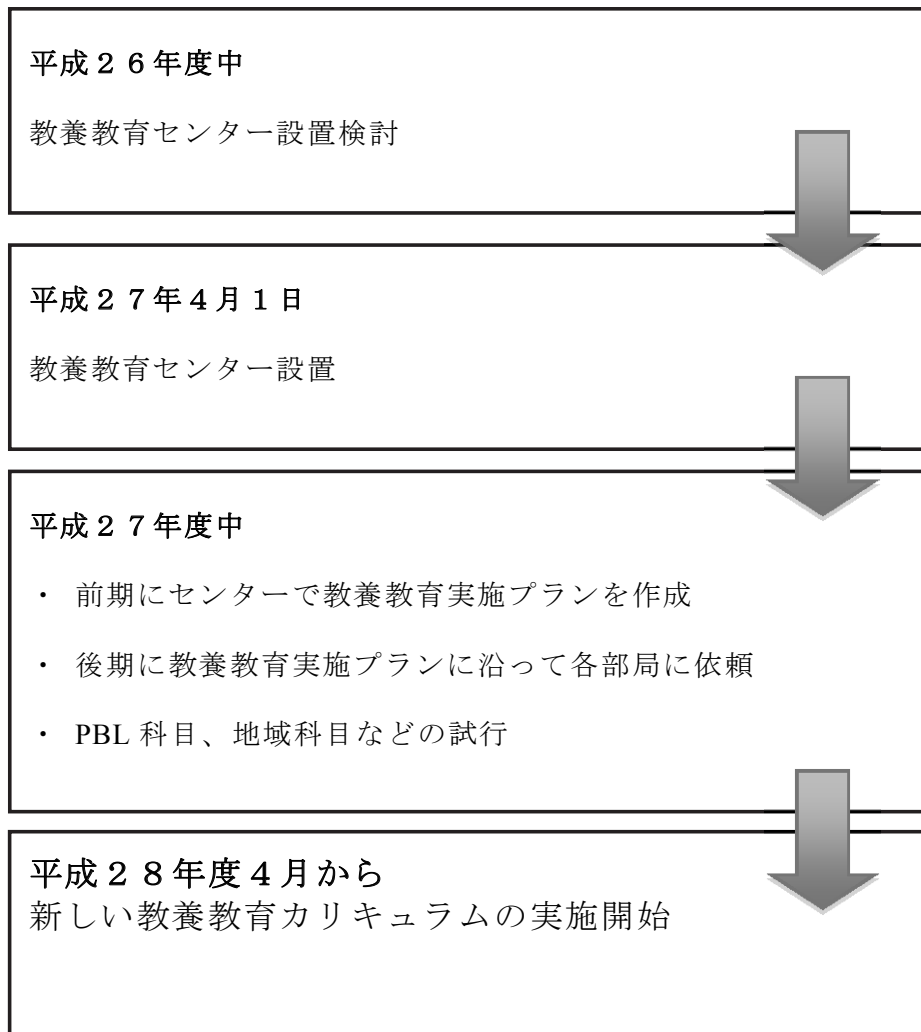
＜教養教育センターにおけるセンター専任教員の業務＞

- （１）センター専任教員は、実施プラン原案作成のため以下の業務を行う。
 - （a）技法知科目・学問知科目については、科目委員会委員長として、科目を編成し、開設科目の担当教員を調整して割当て、時間割編成について検討する。また、科目の教育目標、成績評価基準、到達目標を検討・策定する。さらに、教養教育科目企画会議において、各科目委員会が検討・策定した案を統合・調整して、実施プランの原案を作成する。
 - （b）実践知科目（基礎ゼミナールを除く）については、各 PBL 科目（初年次・高年次）の代表者となり、PBL 科目開講に向け関係部局との調整を行うとともに、成績評価基準等の検討も含めて担当した科目の運営に携わる。なお、センター専任教員１名あたり２～３つの PBL 科目を担当する。
 - （c）特設プログラムについては、各プログラムを構成する科目のコーディネートを行う。
- （２）センター専任教員は、教養教育の評価・改善に関わる業務を行う。
- （３）COC 事業終了後も、引き継ぐ必要のある事業を継続するため、将来的に COC で構築した事業を担当する。

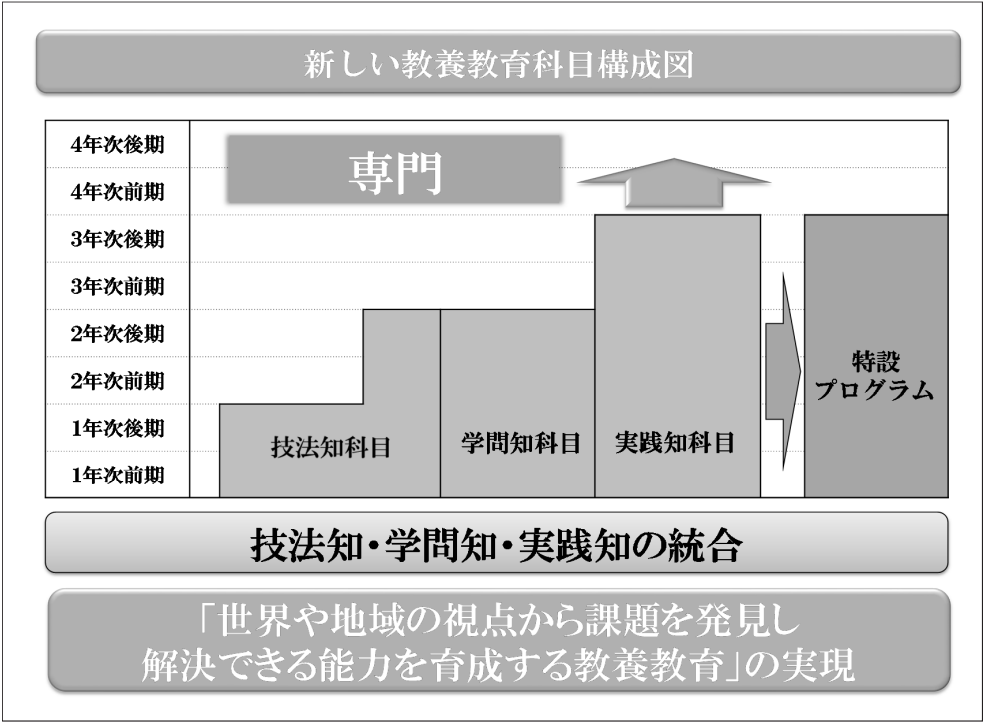
＜センター専任教員の配置方法について＞

- （１）学長枠による純増を含めた５名を配置
 - （２）平成２８年度改組を見据えた学部からの移籍者を含めた５名を配置
 - （３）学部から任期付きで配置される者（準専任）を含めた８名を配置
（センター業務を優先し、配置教員の学部での組織運営に関する業務を免除する仕組みの導入を検討する）
 - （４）（１）～（３）を複合的に組み合わせた場合は５～７名を配置
- ※ PBL 担当可能な教員の拡充や PBL 科目の拡充を検討する（将来的に PBL 科目を維持運営する組織体制と教員への指導を行う人材の補充を検討する）。

(4) 教養教育センター設立に向けてのロードマップ



※専門基礎科目については、教育推進連携部門会議が新たにワーキング・グループを設置して検討することになっている。



平成28年度からの教養教育科目の修得すべき単位数

人文社会科学部

区分			必修	選択	
				上限	単位
実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1	—	
転換教育科目修得単位数計			1		
技法知科目	外国語	英語	8	2	
		英語以外		—	
		日本語		—	
	健康スポーツ		2	1	
	情報科目		2	—	
技法知科目修得単位数計			12		
学問知科目	文化		6	4	
	社会		6	4	
	自然＆科学技術		4	4	
	環境		2	—	
	地域関連科目		2	2	
実践知科目	初年次ゼミナール 地域課題演習		2	4	
学問知＆実践知科目（基礎ゼミのぞく）取得単位数合計			20		
教養教育科目取得単位数計				43	

理工学部

区分			必修	選択	
				上限	単位
実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1	-	5
転換教育科目修得単位数計			1		
技法知科目	外国語	英語	8	2	
		英語以外		-	
		日本語		-	
	健康スポーツ		1	1	
	情報科目		2	-	
技法知科目修得単位数計			11		
学問知科目	文化		4	2	
	社会		4	2	
	自然＆科学技術		2	2	
	環境		2	-	
	地域関連科目	地域		2	
実践知科目		初年次ゼミナール	2	2	
学問知＆実践知科目（基礎ゼミのぞく）取得単位数合計			14		
教養教育科目取得単位数計				31	

教育学部

区分			必修	選択	
				上限	単位
実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1	—	
転換教育科目修得単位数計			1	—	
技法知科目	外国語	英語	4	2	
		英語以外	4	—	
		日本語	—	—	
	健康スポーツ		2	1	
	情報科目		2	—	
技法知科目修得単位数計			12	—	2
学問知科目	文化		2	2	
	社会		4	2	
	自然・科学技術		2	2	
	環境		2	—	
	地域関連科目		2	2	
実践知科目	地域関連科目	初年次ゼミナール	2	2	
		地域課題演習	—	—	
学問知・実践知科目（基礎ゼミのぞく）取得単位数合計			12	—	
教養教育科目取得単位数計			—	27	

農学部

区分			必修	選択	
				上限	単位
実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	1	－	
転換教育科目修得単位数計			1		
技法知科目	外国語	英語	8	2	
		英語以外		－	
		日本語		－	
		健康スポーツ	2	1	
		情報科目	2	－	
技法知科目修得単位数計			12		
学問知科目	文化		6	2	
	社会		6	2	
	自然＆科学技術		2	2	
	環境		2	2	
	地域関連科目	地域	2	2	
初年次ゼミナール 地域課題演習		2	2		
実践知科目			18		
学問知＆実践知科目（基礎ゼミのぞく）取得単位数合計			18		
教養教育科目取得単位数計				35	

教養教育科目一覧

履修区分		科目名	科目委員会
実践知科目	転換教育科目	基礎ゼミナール	
技法知科目	外国語科目	英語総合Ⅰ（初級）	外国語科目委員会
		英語総合Ⅱ（初級）	
		英語総合Ⅰ（中級）	
		英語総合Ⅱ（中級）	
		英語総合Ⅰ（上級）	
		英語総合Ⅱ（上級）	
		英語コミュニケーションⅠ（初級）	
		英語コミュニケーションⅡ（初級）	
		英語コミュニケーションⅠ（中級）	
		英語コミュニケーションⅡ（中級）	
		英語コミュニケーションⅠ（上級）	
		英語コミュニケーションⅡ（上級）	
		英語基礎	
		英語発展A（TOEIC初級）	
		英語発展B（TOEIC初級）	
		英語発展C（TOEIC中級）	
		英語発展D（TOEIC中級）	
		英語発展E（実践英語）	
		英語発展F（実践英語）	
		英語発展G（科学英語）	
		英語発展H（科学英語）	
		初級ドイツ語（入門）	
		初級ドイツ語（発展）	
		中級ドイツ語	
		初級フランス語（入門）	
		初級フランス語（発展）	
		中級フランス語	
		初級ロシア語（入門）	
		初級ロシア語（発展）	
		中級ロシア語	
		初級中国語（入門）	
		初級中国語（発展）	
		中級中国語	
		初級韓国語（入門）	
		初級韓国語（発展）	
		中級韓国語	
		上級日本語A	
		上級日本語B	
		上級日本語C	
		上級日本語D	
		上級日本語E	
		上級日本語F	
		上級日本語G	
		上級日本語H	
	健康・スポーツ科目	健康・スポーツA	健康・スポーツ科目委員会
		健康・スポーツB	
		健康・スポーツC（シーズン）	
	情報科目	情報基礎	情報科目委員会

履修区分		科目名	科目委員会
学問知科目	文化科目	哲学の世界	文化科目委員会
		倫理学の世界	
		日本の思想と文化	
		アジアの思想と文化	
		欧米の思想と文化	
		日本の歴史と文化	
		アジアの歴史と文化	
		欧米の歴史と文化	
		ジェンダーの歴史と文化	
		女性と科学の関係史	
		大学の歴史と現在	
		岩手大学ミュージアム学	
		心の理解	
		日本の文学	
		言葉の世界	
		中国の文学	
		欧米の文学	
		欧米の言語論	
		芸術の世界	
		日本語表現技術入門	
		図書館への招待	
		コミュニケーションの現在	
		心と表象	
		日本事情A	
		日本事情B	
		英語で学ぶ日本の文化	
	社会科目	市民生活と法	社会科目委員会
		憲法	
		経済のしくみ	
		現代社会と経済	
		市民と政治	
		現代政治を見る眼	
		社会的人間論	
		現代社会の社会学	
		地域と生活	
		地域と社会	
		対人関係の心理学	
		知的財産入門	
		知財ワークショップ	
		キャリアを考える	
		ボランティアとリーダーシップ	
		科学・技術と現代社会	
		現代の諸問題	
		公共社会	
		多文化コミュニケーションA	
		多文化コミュニケーションB	
	自然&科学技術科目	生命のしくみ	自然科目委員会
		自然のしくみ	
		自然と数理	

履修区分			科目名	科目委員会
学問知科目	自然 & 科学技術科目		数理のひろがり	自然科目委員会
			宇宙のしくみ	
			物質の世界	
			自然と法則	
			自然と数理の世界	
			自然の科学	
			科学と技術の歴史	科学技術科目委員会
			くらしと科学技術	
			科学技術	
	環境科目		「環境」を考える	環境科目委員会
			生活と環境	
			都市と環境	
			地域の環境保全を考える	
			地球環境と社会	
			水と環境	
			廃棄物と環境	
			植物栽培と環境テクノロジー	
			森林と環境	
			動物と環境	
			人の暮らしと生物環境	
			環境マネジメントと岩手大学	
			環境の科学	
	地域関連科目	地域科目	現代社会をみる視角	地域科目委員会
			岩手の研究	
			環境マネジメント実践学	
			いわて学Ⅰ	
			いわて学Ⅱ	
			宮沢賢治の世界	
			危機管理と復興	
			持続可能なコミュニティづくり実践学	
			地元の企業に学ぶE S D	
			地場産業・企業論	
			三陸の研究	
			自然災害と社会	
			東北の歴史	
			地域を考える	
			地域と国際社会	
			海外研修－世界から地域を考える－	
実践知科目		地域課題演習科目	初年次自由ゼミナール	
			地域課題演習A	
			地域課題演習B	
			地域課題演習C	
			地域課題演習D	
			地域課題演習E	
			地域課題演習F	
			地域課題演習G	
			地域課題演習H	

(平成27年3月26日制定)

岩手大学教育推進機構教養教育センター規則

(趣旨)

第1条 この規則は、岩手大学教育推進機構規則第4条の規定に基づき、岩手大学教育推進機構教養教育センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、岩手大学（以下「本学」という。）の教育理念に基づき、世界や地域で活躍できる人材を育成する上で必要となる多様な学問領域の基礎的知識及び基本的思考力、幅広く深い教養と総合的な判断力、地域の発展に貢献できる豊かな人間性と高い倫理観並びにコミュニケーション能力を涵養する教養教育について、全学的企画と実施を中心的に担い、その充実に資することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 教養教育の企画・運営に関すること。
- 二 開講科目の大規模クラスサイズの改善に関すること。
- 三 質の高い教養教育科目の安定的供給に関すること。
- 四 教養教育の評価及び改善に関すること。
- 五 その他第2条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 センターの業務を行う際には、他部局と連携・協力を図るものとする。

(組織)

第4条 センターに、岩手大学教育推進機構規則第9条及び第10条に定める者の他、次の職員（以下「センター職員」という。）を置く。

- 一 専任教員
- 二 兼務教員
- 三 その他センター長が必要と認めた者

(兼務教員)

第5条 兼務教員は、専任教員と協力しセンターの業務を処理する。

- 2 兼務教員は、岩手大学教育推進機構教養教育センター会議（以下「センター会議」という。）が候補者を推薦し、機構長の申請に基づき学長が任命する。
- 3 機構長は、前項の申請に当たっては、当該教員の所属する学部等の長の同意を得るものとする。

(センター会議)

第6条 センターに、第3条に掲げる業務に関する事項及びセンターの運営に関する事項を審議するため、センター会議を置く。

- 2 センター会議に関する規則は、別に定める。

(教養教育科目企画会議)

第7条 センターに、開設科目、担当教員及び時間割編成（教養教育実施プランという。）の原案を策定のため、教養教育科目企画会議を置く。

2 教養教育科目企画会議に関する規則は、別に定める。

(科目委員会)

第8条 センターに、教養教育の運営を円滑に処理するため、次に掲げる科目委員会を置く。

- 一 外国語科目委員会
- 二 健康・スポーツ科目委員会
- 三 情報科目委員会
- 四 文化科目委員会
- 五 社会科目委員会
- 六 自然科目委員会
- 七 科学技術科目委員会
- 八 環境科目委員会
- 九 地域科目委員会

2 科目委員会に委員長を置き、専任教員又は兼務教員のうちから、当該教員が所属する学部等の長の同意を得て、機構長が指名する。

3 本学の全ての専任教員は、一つ又は複数の科目委員会に所属するものとする。

4 科目委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第9条 センターの庶務は、教務企画課において処理する。

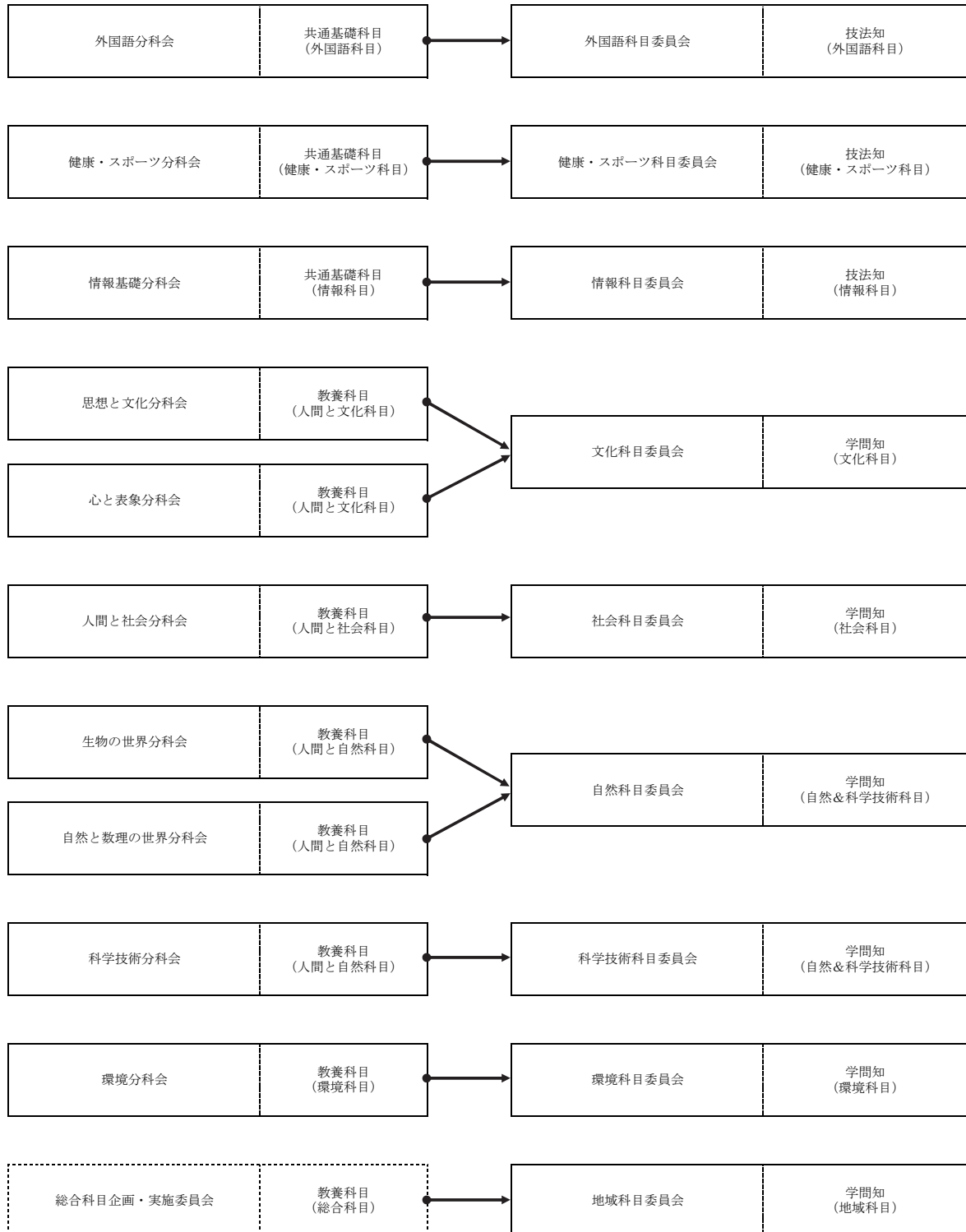
(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

分科会／科目委員会 新旧対応表



平成26年度 全学共通教育「学生による授業アンケート」実施状況報告

平成26年度は、前期はすべての開講科目、後期は初年次自由ゼミナールと新規開講科目・希望科目のみを対象とした授業アンケートの実施でした。授業アンケートの実施状況は以下の通りです。

平成26年度 授業アンケート実施率

【前期】

区分	実施科目数	対象科目数	実施率
人間と文化	22	23	96%
人間と社会	28	30	93%
人間と自然	11	12	92%
高年次	1	1	100%
健康・スポーツ	6	6	100%
情報	18	20	90%
外国語（英語）	73	76	96%
外国語（英語以外）	32	34	94%
基礎ゼミナール	49	53	92%

【後期】

区分	実施科目数	対象科目数	実施率
人間と文化	3	3	100%
人間と社会	6	6	100%
人間と自然	3	3	100%
総合	1	4	25%
環境	5	5	100%
健康・スポーツ	0	0	-
外国語（英語）	8	8	100%
外国語（英語以外）	7	7	100%
初年次自由ゼミナール	3	5	60%

平成26年度の授業アンケートの結果は、平成26年度の教育推進機構全学共通教育部門で検討される予定です。

平成26年度前期 全学共通教育授業アンケート 学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
指定(指導)されたから	2.2%	9.3%	3.1%	94.9%	69.7%	13.9%
単位がとりやすそうだったから	18.2%	16.6%	22.0%	1.3%	5.0%	6.8%
自分の専門と関係がなさそうだから	7.8%	7.9%	6.0%	0.3%	0.6%	1.6%
先輩などからすすめられたから	15.4%	10.6%	14.8%	0.3%	0.6%	9.1%
他にやりたい外国語がなかったから	11.4%	12.4%	15.1%	0.4%	11.0%	16.9%
シラバスを読んで興味を持ったから	27.1%	25.5%	22.8%	0.6%	2.3%	24.0%
友達が選択するから	7.7%	8.4%	6.0%	0.2%	0.7%	2.9%
自分の専門に関係が深そうだから	6.7%	5.6%	8.1%	1.5%	5.4%	11.3%
他の外国語で人数制限を受けたから	1.3%	1.1%	0.7%	0.0%	0.3%	2.1%
その他(具体的に:)	2.1%	2.5%	1.5%	0.5%	4.3%	11.5%
合計(集計枚数)	3050	3306	1647	953	2833	1020

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
0回	67.5%	64.0%	60.6%	86.5%	77.3%	64.4%
1回	18.0%	18.0%	21.1%	10.1%	14.2%	18.9%
2回	9.7%	10.4%	9.5%	2.4%	5.8%	9.3%
3回以上	4.7%	7.6%	8.8%	1.0%	2.7%	7.4%
合計(回答数)	2067	2444	1206	909	2519	784

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
わかった	21.5%	21.8%	17.3%	19.8%	15.8%	21.8%
だいたいわかった	51.2%	53.6%	52.4%	33.7%	37.9%	46.2%
あまりわからなかった	12.0%	10.1%	13.4%	6.7%	10.0%	6.8%
わからなかった	1.5%	1.0%	1.9%	1.2%	1.8%	1.4%
読まなかった	13.9%	13.5%	15.1%	38.6%	34.5%	23.8%
合計(回答数)	2092	2469	1222	920	2536	790

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
ほとんどしなかった	80.5%	77.5%	74.4%	79.0%	26.8%	32.3%
30分ぐらい	16.0%	19.0%	20.7%	15.5%	35.8%	44.9%
1時間ぐらい	2.8%	3.0%	3.5%	3.8%	26.8%	18.8%
2時間ぐらい	0.2%	0.3%	0.7%	1.2%	6.8%	3.5%
3時間ぐらい	0.2%	0.1%	0.2%	0.1%	2.4%	0.3%
4時間以上	0.2%	0.2%	0.5%	0.4%	1.3%	0.3%
合計(回答数)	2090	2468	1223	918	2536	789

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
よく利用した	13.2%	16.4%	9.6%	33.0%	7.9%	2.4%
たまに利用した	18.4%	19.4%	14.1%	29.4%	12.3%	17.0%
ほとんど利用しなかった	16.6%	13.3%	13.6%	9.0%	14.3%	19.2%
まったく利用しなかった	51.7%	50.9%	62.8%	28.6%	65.5%	61.4%
合計(回答数)	2091	2471	1225	921	2536	790

e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
授業記録	27.4%	34.4%	56.0%	11.4%	53.3%	52.0%
i カード	31.3%	42.2%	3.4%	37.2%	8.7%	3.1%
課題・レポート	28.7%	5.5%	10.1%	45.2%	13.0%	9.3%
学習記録	3.4%	9.5%	10.1%	2.6%	8.7%	16.2%
その他()	9.3%	8.3%	20.4%	3.6%	16.4%	19.3%
合計(回答数)	1186	1408	466	919	899	321

f. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
そう思う	36.4%	32.5%	29.3%	49.9%	44.1%	39.3%
すこしそう思う	29.7%	35.3%	38.4%	32.7%	34.3%	37.8%
あまりそう思わない	8.2%	10.5%	10.0%	4.7%	7.5%	8.8%
そう思わない	3.1%	3.7%	4.2%	2.0%	2.1%	2.7%
機会がなかった	22.5%	18.1%	18.2%	10.8%	12.0%	11.4%
合計(回答数)	2088	2463	1226	920	2533	788

g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
そう思う	23.4%	19.9%	34.9%	49.1%	38.3%	29.9%
すこしそう思う	28.1%	28.8%	38.6%	38.8%	39.0%	34.6%
あまりそう思わない	9.2%	11.5%	13.4%	5.6%	9.5%	10.8%
そう思わない	2.4%	3.3%	3.8%	1.5%	1.9%	2.4%
機会がなかった	36.9%	36.5%	9.3%	4.9%	11.4%	22.4%
合計(回答数)	2091	2467	1226	922	2538	790

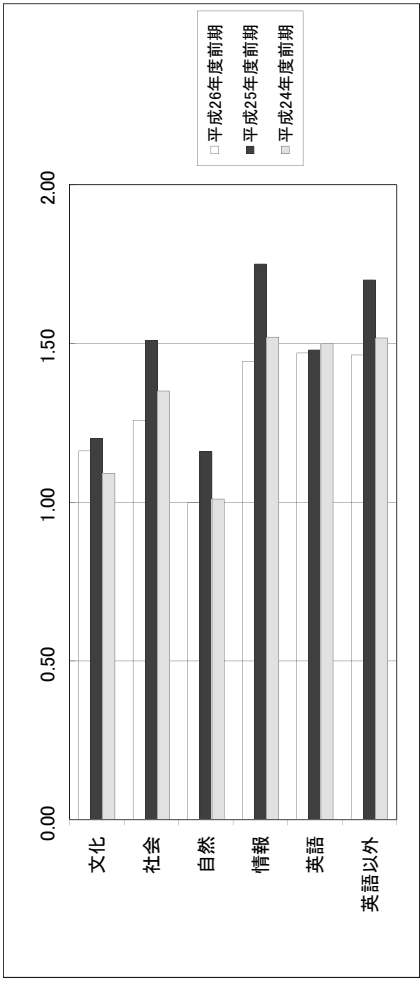
h. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
そう思う	28.3%	25.8%	21.4%	42.2%	38.3%	28.6%
すこしそう思う	46.0%	47.9%	47.3%	48.1%	46.1%	47.0%
あまりそう思わない	20.0%	21.3%	24.9%	6.9%	13.1%	19.7%
そう思わない	5.7%	4.9%	6.4%	2.7%	2.4%	4.7%
合計(回答数)	2090	2465	1225	921	2535	790

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
a. 教員はこの授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.09	1.24	0.93	1.31	1.34	1.34
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.14	1.33	0.99	1.43	1.36	1.40
c. 教員は、この授業の成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.07	1.24	1.03	1.27	1.36	1.32
d. この授業の内容、進修は、およそシラバスに沿ったものでしたか？	1.24	1.29	1.20	1.27	1.19	1.27
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.08	1.28	0.90	1.17	1.26	1.36
f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提出されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.04	1.09	0.87	1.30	1.18	1.13
g. 教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？	1.18	1.31	1.17	1.24	1.20	1.54
h. 教員は、毎回の授業で、その回の学ぶべきポイントを示していましたか？	0.95	1.07	0.81	1.36	1.08	1.44
i. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか？	0.15	0.23	0.18	1.30	1.60	1.55
j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業に反映させていましたか？	0.56	0.76	0.63	0.91	1.05	1.26
k. この授業では、アイアシスタントが授業時間外や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	0.58	0.66	0.89	1.23	1.33	1.22
l. この授業では、アイアシスタントが授業時間外や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.33	-0.68	-0.61	0.69	-0.65	-0.83
m. この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.62	-0.25	-0.19	-0.62	-0.57	-0.77
n. 授業開始時間、終了時間も守られていましたか？	1.40	1.51	1.49	1.49	1.57	1.61
o. 授業はよく準備されていると思いますか？	1.44	1.50	1.36	1.50	1.46	1.52
p. 授業に対する教員の熱意を感じますか？	1.40	1.44	1.26	1.33	1.53	1.52
q. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？	0.57	0.67	0.79	1.25		
r. 授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	0.93	0.94	0.97	1.02		
s. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会はありましたか？	0.49	0.61	0.50	0.89		
t. 授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	0.90	1.22	0.74	1.55	1.40	1.32
u. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	0.61	0.70	0.43	1.04	1.15	1.14
平均	0.80	0.91	0.78	1.14	1.10	1.13

E 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？



平成26年度前期					
文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
1.16	1.26	1.00	1.44	1.47	1.46

平成25年度前期					
文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
1.20	1.51	1.16	1.75	1.48	1.70

平成24年度前期					
文化	社会	自然	情報	英語	英語以外
1.09	1.35	1.01	1.52	1.50	1.52

平成26年度前期 全学共通教育授業アンケート(基礎ゼミナール)

学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	全体	人社	教育	工	農
0回	87.3%	86.6%	79.9%	90.8%	89.2%
1回	10.2%	11.5%	15.1%	7.1%	9.5%
2回	1.7%	0.9%	3.7%	1.3%	1.4%
3回以上	0.8%	0.9%	1.4%	0.8%	0.0%
合計(回答数)	1051	217	219	393	222

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	全体	人社	教育	工	農
わかった	16.0%	28.0%	17.6%	8.8%	15.4%
だいたいわかった	44.8%	64.2%	35.7%	38.2%	46.6%
あまりわからなかった	8.6%	5.0%	6.8%	10.8%	10.0%
わからなかった	0.8%	0.5%	0.0%	1.8%	0.0%
読まなかった	29.9%	2.3%	39.8%	40.5%	28.1%
合計(回答数)	1058	218	221	398	221

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	全体	人社	教育	工	農
ほとんどしなかった	63.2%	50.0%	69.7%	65.2%	66.1%
30分ぐらい	18.7%	19.4%	17.2%	19.2%	18.6%
1時間ぐらい	11.2%	18.5%	9.0%	9.3%	9.5%
2時間ぐらい	4.4%	6.5%	2.7%	4.5%	3.6%
3時間ぐらい	1.0%	1.4%	1.4%	0.8%	0.9%
4時間以上	1.5%	4.2%	0.0%	1.0%	1.4%
合計(回答数)	1054	216	221	396	221

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	全体	人社	教育	工	農
よく利用した	6.7%	4.1%	1.4%	2.0%	23.0%
たまに利用した	15.0%	22.5%	12.7%	14.6%	10.8%
ほとんど利用しなかった	12.7%	11.5%	12.7%	11.6%	16.2%
まったく利用しなかった	65.5%	61.9%	73.3%	71.9%	50.0%
合計(回答数)	1059	218	221	398	222

e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	全体	人社	教育	工	農
授業記録	33.8%	26.9%	31.7%	41.4%	32.2%
iカード	8.9%	7.5%	4.8%	7.0%	14.0%
課題・レポート	31.1%	40.9%	39.7%	31.3%	19.0%
学習記録	6.9%	2.2%	12.7%	10.2%	4.1%
その他()	19.3%	22.6%	11.1%	10.2%	30.6%
合計(回答数)	405	93	63	128	121

f. 基礎ゼミナール用のテキスト『学びのはじめ』はこの授業におけるあなたの学習に役に立ちましたか？

	全体	人社	教育	工	農
とても役に立った	9.8%	12.4%	12.2%	9.8%	5.0%
役に立った	24.2%	32.6%	22.2%	24.8%	16.7%
少し役に立った	32.4%	24.3%	39.8%	35.1%	28.1%
役に立たなかった	4.2%	4.1%	5.9%	3.5%	3.6%
使わなかった	29.5%	26.6%	19.9%	26.8%	46.6%
合計(回答数)	1059	2060	221	399	221

- g. 授業の中で、図書館やミュージアムなど、学内の施設について見学する機会がありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	67.1%	65.1%	53.7%	64.7%	86.4%
なかった	25.5%	32.6%	39.0%	24.9%	6.3%
はっきり憶えていない	7.4%	2.3%	7.3%	10.3%	7.2%
合計(回答数)	1054	218	218	397	221

- h. 授業の中で、図書館の使い方(本の借り方、蔵書の検索方法など)を学ぶ機会がありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	52.7%	61.5%	40.7%	48.7%	63.1%
なかった	37.2%	33.5%	49.8%	38.2%	26.6%
はっきり憶えていない	10.1%	5.0%	9.5%	13.1%	10.4%
合計(回答数)	1059	218	221	398	222

- i. 授業の中で、大学での授業の受け方(講義の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方など)を学ぶ機会がありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	54.4%	67.7%	56.6%	58.8%	30.9%
なかった	26.3%	22.1%	28.5%	25.1%	30.5%
はっきり憶えていない	19.3%	10.1%	14.9%	16.1%	38.6%
合計(回答数)	1056	217	221	398	220

- j. 授業を受ける中で、高校までの学習と大学での学習の違いに気づかされる機会がありましたか？

	全体	人社	教育	工	農
あった	82.5%	88.0%	86.0%	80.4%	77.4%
なかった	6.7%	4.6%	5.9%	8.1%	7.2%
はっきり憶えていない	10.8%	7.4%	8.1%	11.6%	15.4%
合計(回答数)	1056	217	221	397	221

- k. 班活動を行う機会がありましたか？また、(班活動に限らず)何らかの学習活動の成果をみんなの前で発表する機会がありましたか？(複数回答可)

	全体	人社	教育	工	農
班活動を行う機会があった	46.9%	18.7%	45.6%	51.6%	62.6%
発表する機会があった	47.7%	78.0%	45.6%	42.9%	33.8%
両方ともなかった	3.6%	2.8%	5.7%	3.5%	2.3%
はっきり憶えていない	1.8%	0.4%	3.0%	2.0%	1.3%
合計(回答数)	1388	246	298	539	305

- l. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	全体	人社	教育	工	農
そう思う	38.8%	37.2%	36.2%	32.7%	54.3%
すこし思う	26.7%	21.1%	26.2%	26.6%	33.0%
あまりそう思わない	6.1%	3.2%	5.0%	8.8%	5.4%
そう思う思わない	1.0%	0.5%	0.9%	1.0%	1.8%
機会がなかった	27.2%	38.1%	31.7%	30.9%	5.4%
合計(回答数)	1058	218	221	398	221

- m. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	全体	人社	教育	工	農
そう思う	37.7%	40.7%	42.1%	33.9%	37.4%
すこし思う	39.2%	36.1%	33.0%	39.4%	47.7%
あまりそう思わない	8.6%	9.7%	5.4%	10.1%	8.1%
そう思う思わない	2.0%	0.9%	1.4%	2.3%	3.2%
機会がなかった	12.5%	12.5%	18.1%	14.3%	3.6%
合計(回答数)	1057	216	221	398	222

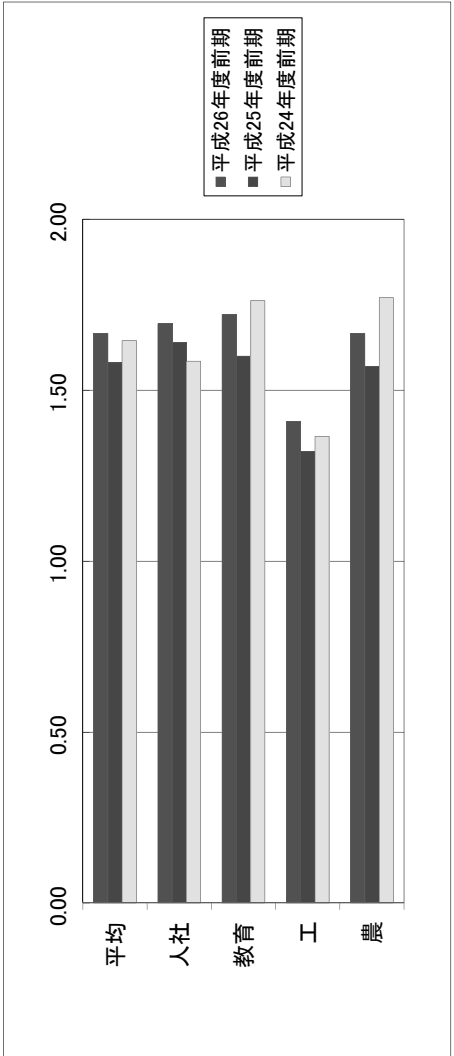
- n. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	全体	人社	教育	工	農
そう思う	44.2%	44.5%	56.1%	38.1%	42.8%
すこし思う	45.5%	44.0%	38.9%	49.4%	46.4%
あまりそう思わない	8.5%	7.8%	4.5%	10.3%	9.9%
そう思う思わない	1.9%	3.7%	0.5%	2.3%	0.9%
合計(回答数)	1060	218	221	399	222

C この授業に関して、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	平均	人 社	教 育	工	農
a. この授業全体に対する目的や到達目標についての説明はありましたか？	1.22	1.32	1.24	1.06	0.96
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.39	1.44	1.41	1.17	1.34
c. この授業の成績評価の方法や基準などについての説明はありましたか？	0.65	0.82	0.53	0.35	0.77
d. この授業の内容、進修は、およそシラバスに沿ったものでしたか？	1.19	1.38	1.03	0.96	1.36
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.55	1.60	1.56	1.28	1.63
f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.35	1.28	1.40	1.25	1.51
g. 教科書や参考書、配付資料等は、学習の助けになりましたか？	1.22	1.36	1.26	0.88	0.91
h. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか？	1.65	1.72	1.62	1.54	1.70
i. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていませんか？	1.27	1.44	1.18	0.99	1.35
j. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていませんか？	-0.85	-0.78	-1.07	-0.68	-0.48
k. 授業中及び授業時間外の学習中で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	0.11	-0.38	0.36	0.33	0.75
l. 授業中及び授業時間外の学習中で、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会はありましたか？	1.39	1.55	1.31	1.22	1.29
m. 授業中及び授業時間以外の学習中で、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	1.37	1.40	1.39	1.20	1.40
n. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会はありましたか？	1.20	1.28	1.18	1.01	1.27
o. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.55	1.60	1.57	1.31	1.56
p. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	1.11	1.11	1.14	0.98	1.17
平均	1.09	1.13	1.07	0.93	1.16

D 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？



平成26年度前期

平均	人 社	教 育	工	農
1.67	1.69	1.72	1.41	1.67

平成25年度前期

平均	人 社	教 育	工	農
1.58	1.64	1.60	1.32	1.57

平成24年度前期

平均	人 社	教 育	工	農
1.65	1.58	1.76	1.36	1.77

平成26年度前期 全学共通教育授業アンケート(健康・スポーツ科目)

学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

楽しそうな種目だと思ったから	64.2%
経験のない種目だったから	10.6%
あまり動かなくてもすみそうな種目だったから	5.9%
他にやりたい種目がなかったから	5.4%
先輩などからすすめられたから	1.0%
友達が選択するから	4.2%
他の種目で人数制限を受けたから	4.9%
その他(具体的に:)	3.9%
合計(回収枚数)	1549

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

0回	80.8%
1回	15.9%
2回	2.0%
3回以上	1.2%
合計	1135

b. あなたが履修した種目は第一希望のものでしたか？

はい	91.2%
いいえ	8.8%
合計	1120

c. あなたは、体を動かすことが好きな方だと思いますか？

そう思う	52.8%
少しそう思う	26.3%
あまりそう思わない	15.1%
そう思わない	5.7%
合計	1136

d. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？
その内容はわかりましたか？

わかった	14.6%
だいたいわかった	27.0%
あまりわからなかった	4.1%
わからなかった	0.5%
読まなかった	53.8%
合計	1134

e. この授業の学習において、あなたはどのぐらい
アイアシスタントを利用しましたか？

よく利用した	2.8%
たまに利用した	4.3%
ほとんど利用しなかった	12.9%
まったく利用しなかった	95.0%
合計	1126

f. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて
予習・復習をしましたか？

ほとんどしなかった	95.0%
30分ぐらい	2.1%
1時間ぐらい	0.9%
2時間ぐらい	0.5%
3時間ぐらい	0.6%
4時間以上	0.9%
合計	1114

g. 体を動かすことの大切さについて、授業中に説明がありましたか？

あった	46.4%
あったと思う	36.6%
なかったと思う	13.3%
なかった	3.7%
合計	1136

h. この授業における自分自身の学習状況は、満足できる
ものだと思いますか？

そう思う	58.7%
すこしそう思う	35.1%
あまりそう思わない	5.5%
そう思わない	0.8%
合計	1135

D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んでください。

a. 教員は、授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.48
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだったと思いますか？	1.54
c. 教員は、成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.33
d. 授業の内容、進行は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか？	1.29
e. 安全に運動を行うための指導(準備運動、道具の使い方など)がありましたか？	1.57
f. 教員の技能に関する指導はわかりやすいものでしたか？	1.40
g. 教員は、授業時間外にやるべきことを、わかりやすく説明していましたか？	0.64
h. 教員は、毎回、学生が学ぶべきポイントを示していましたか？	1.13
i. 学生が授業に参加しやすくなるための働きかけはありましたか？	1.54
j. 教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業中に対応していましたか？	1.28
k. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.89
l. 授業中及び授業時間外の学習で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.92
m. 授業開始時間・終了時間は守られていましたか？	1.69
n. 授業はよく準備されていたと思いますか？	1.52
o. 授業に対する教員の熱意を感じましたか？	1.60
p. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.47
q. この授業で学んだ種目を、さらに続けたいと思いますか？	1.37
平均	1.12

平成26年度後期 全学共通教育授業アンケート 学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業を選択した最も強い動機を、下記の中から3つ以内を選んで番号にマークしてください。

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
必修科目／指定(指導)されたから	3.0%	5.6%	1.4%	3.2%	34.6%	78.6%	19.1%
単位がとりやすそうだったから	18.5%	16.4%	18.5%	14.5%	14.2%	1.4%	5.2%
自分の専門と関係がなさそうだから	8.0%	10.7%	5.2%	11.3%	5.2%	0.3%	0.4%
先輩などからすすめられたから	7.3%	6.1%	14.9%	1.6%	9.8%	0.7%	6.1%
他にやりたい外国語がなかったから	9.5%	9.7%	6.2%	8.1%	3.4%	11.7%	18.3%
シラバスを読んで興味を持ったから	38.8%	27.9%	35.3%	46.8%	20.0%	2.8%	20.9%
友達が選択するから	7.8%	8.7%	9.5%	8.1%	6.1%	0.7%	5.7%
自分の専門と関係が深そうだから	5.0%	10.5%	7.6%	6.5%	5.1%	2.1%	12.6%
他の外国語で人数制限を受けたから	0.8%	0.8%	0.2%	0.0%	0.4%	0.0%	1.7%
その他(具体的に:)	1.3%	3.6%	1.2%	0.0%	1.3%	1.7%	10.0%
合計(集計枚数)	399	391	422	62	769	290	230

C この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
0回	56.9%	39.4%	60.9%	43.9%	56.7%	67.0%	63.3%
1回	23.4%	25.2%	22.2%	14.6%	25.3%	18.7%	20.9%
2回	12.6%	17.0%	7.0%	26.8%	11.8%	8.8%	8.9%
3回以上	7.1%	18.4%	9.9%	14.6%	6.3%	5.5%	7.0%
合計(回答数)	269	282	284	41	526	273	158

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
わかった	29.3%	21.2%	27.0%	26.8%	21.1%	22.1%	20.3%
だいたいわかった	57.8%	63.6%	57.9%	65.9%	56.5%	43.8%	40.5%
あまりわからなかった	4.4%	4.9%	7.0%	4.9%	8.6%	6.6%	5.7%
わからなかった	0.7%	0.4%	0.0%	0.0%	1.0%	1.8%	1.9%
読まなかった	7.8%	9.9%	8.1%	2.4%	12.9%	25.7%	31.6%
合計(回答数)	270	283	285	41	526	272	158

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
ほとんどしなかった	65.8%	55.6%	80.8%	75.6%	74.5%	17.9%	10.7%
30分ぐらい	30.5%	34.2%	17.5%	22.0%	15.8%	42.9%	47.8%
1時間ぐらい	3.3%	9.2%	1.0%	2.4%	6.5%	32.6%	35.2%
2時間ぐらい	0.4%	0.7%	0.3%	0.0%	2.9%	6.2%	3.8%
3時間ぐらい	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.9%
4時間以上	0.0%	0.4%	0.3%	0.0%	0.4%	0.0%	0.6%
合計(回答数)	269	284	286	41	526	273	159

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
よく利用した	3.7%	53.7%	4.2%	2.4%	6.8%	3.3%	0.6%
たまに利用した	11.2%	18.9%	19.6%	4.9%	26.1%	16.2%	12.0%
ほとんど利用しなかった	19.3%	9.1%	22.0%	19.5%	18.0%	17.6%	22.2%
まったく利用しなかった	65.8%	18.2%	54.2%	73.2%	49.1%	62.9%	65.2%
合計(回答数)	269	285	286	41	529	272	158

- e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
授業記録	58.7%	17.2%	56.8%	81.8%	46.7%	61.1%	51.8%
i カード	1.1%	52.5%	1.5%	0.0%	23.7%	2.8%	0.0%
課題・レポート	9.8%	18.2%	15.9%	0.0%	16.1%	7.4%	19.6%
学習記録	13.0%	5.7%	18.9%	9.1%	7.2%	16.7%	17.9%
その他()	17.4%	6.4%	6.8%	9.1%	6.3%	12.0%	10.7%
合計(回答数)	92	297	132	11	304	108	56

- f. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	31.1%	39.6%	49.7%	39.0%	47.2%	45.2%	56.3%
すこしそう思う	25.9%	44.6%	36.0%	43.9%	34.5%	36.4%	32.3%
あまりそう思わない	3.3%	10.9%	7.0%	12.2%	7.2%	5.1%	5.1%
そう思わない	1.9%	0.7%	2.1%	2.4%	2.3%	2.2%	1.3%
機会がなかった	37.8%	4.2%	5.2%	2.4%	8.9%	11.0%	5.1%
合計(回答数)	270	285	286	41	528	272	158

- g. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	20.0%	22.1%	44.9%	2.4%	21.6%	38.1%	36.7%
すこしそう思う	25.6%	45.3%	40.4%	24.4%	28.0%	41.4%	36.7%
あまりそう思わない	4.8%	17.2%	8.4%	17.1%	11.9%	9.2%	8.2%
そう思わない	1.5%	2.8%	3.2%	2.4%	9.6%	1.8%	0.6%
機会がなかった	48.1%	12.6%	3.2%	53.7%	28.9%	9.5%	17.7%
合計(回答数)	270	285	285	41	529	273	158

- h. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
そう思う	31.5%	22.1%	34.6%	14.6%	29.1%	33.1%	40.9%
すこしそう思う	49.6%	50.5%	47.9%	63.4%	52.4%	51.5%	40.9%
あまりそう思わない	15.6%	23.2%	14.7%	17.1%	14.6%	12.9%	15.7%
そう思わない	3.3%	4.2%	2.8%	4.9%	4.0%	2.6%	2.5%
合計(回答数)	270	285	286	41	529	272	159

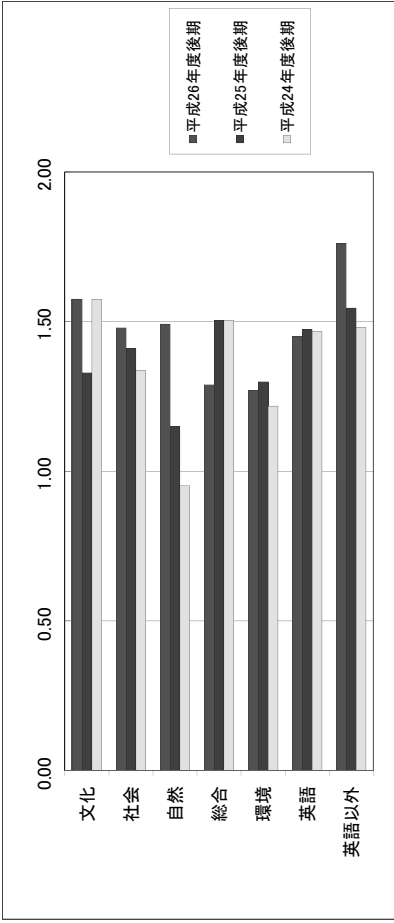
D この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

		文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
a.	教員はこの授業の目的や到達目標についてわかりやすく説明していましたか？	1.51	1.48	1.47	1.08	0.83	1.34	1.64
b.	この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	1.52	1.58	1.52	1.10	1.15	1.23	1.66
c.	教員は、この授業の成績評価の方法や基準などについて、わかるように説明していましたか？	1.50	1.51	1.44	1.28	1.09	1.31	1.44
d.	この授業の内容、進修は、およそシラバスに沿ったものでしたか？	1.58	1.52	1.55	1.33	1.37	1.31	1.45
e.	授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.61	1.48	1.50	—	—	1.24	1.54
f.	板書・ビデオ・プロジェクター等で提出されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.61	1.34	1.50	—	—	1.29	1.50
g.	教科書や参考書、配布資料等は、学習の助けになりましたか？	1.56	1.53	1.41	—	—	0.71	1.69
h.	教員は、毎回の授業で、その回の学ぶべきポイントを示していましたか？	1.36	1.43	1.44	0.97	1.10	1.03	1.63
i.	授業の中で、学生が参加して活動するような機会はありましたか？	0.60	1.10	0.58	—	—	1.23	1.68
j.	教員は、学生の疑問点や意向をくみ取り、授業に反映させていましたか？	0.87	1.58	0.86	—	—	0.85	1.43
k.	この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？	0.85	1.49	1.32	0.28	0.89	1.36	1.54
l.	この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	-0.14	0.47	-0.50	-1.15	0.08	-0.52	-0.60
m.	この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	-0.70	0.41	-0.01	0.74	1.02	-0.34	-0.71
n.	授業開始時間・終了時間も守られていましたか？	0.97	1.65	1.59	—	—	1.07	1.47
o.	授業はよく準備されていると思いますか？	1.69	1.70	1.70	—	—	1.35	1.60
p.	授業に対する教員の熱意を感じますか？	1.71	1.64	1.59	—	—	1.42	1.70
q.	授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会はありましたか？	0.95	1.31	1.15	0.33	0.46	—	—
r.	授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	1.19	1.15	1.29	0.90	1.16	—	—
s.	授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会はありましたか？	0.92	1.01	1.00	0.64	0.89	—	—
t.	この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうですか？	1.12	1.45	1.34	1.31	1.28	1.28	1.61
u.	この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思えますか？	1.11	0.89	1.11	0.97	0.43	0.95	1.46
平均		1.11	1.32	1.18	0.75	0.90	1.01	1.32

※アンケート種別(共通・外国語・総合環境等)ごとに、質問項目が異なる為、上記比較表のアルファベットは「共通」のものを基準にしています。

また、「共通」にない質問項目は、上記比較表には含まれていません。

E 結果として、この授業を履修してよかったと思いますか？



平成26年度後期

文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
1.57	1.48	1.49	1.29	1.27	1.45	1.76

平成25年度後期

文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
1.33	1.41	1.15	1.50	1.30	1.47	1.54

平成24年度後期

文化	社会	自然	総合	環境	英語	英語以外
1.57	1.34	0.95	1.50	1.22	1.47	1.48

平成26年度後期 全学共通教育授業アンケート(初年次自由ゼミナール)

学生の学習状況集計結果

教育推進機構

B この授業に関し、下記の事項について該当する選択肢を1つ選んで、番号をマークしてください。

a. あなたがこの授業を休んだ回数は？

	全体
0回	75.0%
1回	16.7%
2回	8.3%
3回以上	0.0%
合計(回答数)	12

b. この科目を履修する前にシラバスを読みましたか？その内容はわかりましたか？

	全体
わかった	25.0%
だいたいわかった	75.0%
あまりわからなかった	0.0%
わからなかった	0.0%
読まなかった	0.0%
合計(回答数)	12

c. 1回の授業に対して、平均してどのぐらいの時間をかけて予習・復習をしましたか？

	全体
ほとんどしなかった	8.3%
30分ぐらい	66.7%
1時間ぐらい	8.3%
2時間ぐらい	16.7%
3時間ぐらい	0.0%
4時間以上	0.0%
合計(回答数)	12

d. この授業の学習において、あなたはどのぐらいアイアシスタントを利用しましたか？

	全体
よく利用した	41.7%
たまに利用した	25.0%
ほとんど利用しなかった	16.7%
まったく利用しなかった	16.7%
合計(回答数)	12

e. (上記の回答が①～③の場合)アイアシスタントの何の機能を利用しましたか？(複数回答可)

	全体
授業記録	38.5%
i カード	38.5%
課題・レポート	15.4%
学習記録	0.0%
その他()	7.7%
合計(回答数)	13

f. 基礎ゼミナール用のテキスト『学びのはじめ』はこの授業におけるあなたの学習に役に立ちましたか？

	全体
とても役に立った	0.0%
役に立った	8.3%
少し役に立った	41.7%
役に立たなかった	8.3%
使わなかった	41.7%
合計(回答数)	12

- g. 授業の中で、図書館やミュージアムなど、学内の施設について見学する機械はありましたか？

	全体
あった	33.3%
なかった	66.7%
はっきり憶えていない	0.0%
合計(回答数)	12

- h. 授業の中で、図書館の使い方(本の借り方、蔵書の検索方法など)を学ぶ機会がありましたか？

	全体
あった	8.3%
なかった	75.0%
はっきり憶えていない	16.7%
合計(回答数)	12

- i. 授業の中で、大学での授業の受け方(講義の聴き方、ノートの取り方、レポートの書き方など)を学ぶ機会がありましたか？

	全体
あった	66.7%
なかった	25.0%
はっきり憶えていない	8.3%
合計(回答数)	12

- j. 授業を受ける中で、高校までの学習と大学での学習の違いに気づかされる機会がありましたか？

	全体
あった	100.0%
なかった	0.0%
はっきり憶えていない	0.0%
合計(回答数)	12

- k. 班活動を行う機会がありましたか？また、(班活動に限らず)何らかの学習活動の成果をみんなの前で発表する機会がありましたか？(複数回答可)

	全体
班活動を行う機会があった	57.1%
発表する機会があった	42.9%
両方ともなかった	0.0%
はっきり憶えていない	0.0%
合計(回答数)	14

- l. レスポンスカード(iカード、電子メール等も含む)の作成や授業中の課題、小テスト等に積極的に取り組みましたか？

	全体
そう思う	58.3%
すこしそう思う	41.7%
あまりそう思わない	0.0%
そう思う思わない	0.0%
機会がなかった	0.0%
合計(回答数)	12

- m. 提出物(宿題・レポート等)に対し、納得いくまで取り組みましたか？

	全体
そう思う	50.0%
すこしそう思う	41.7%
あまりそう思わない	8.3%
そう思う思わない	0.0%
機会がなかった	0.0%
合計(回答数)	12

- n. この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？

	全体
そう思う	75.0%
すこしそう思う	16.7%
あまりそう思わない	8.3%
そう思う思わない	0.0%
合計(回答数)	12

C この授業に関し、下記の事項の回答として、下の①～④の中から最もあてはまると思うものを1つ選んで、番号をマーク(●)してください。

	平均
a. この授業全体に対する目的や到達目標についての説明はありましたか？	1.93
b. この授業の内容は、授業の目的、到達目標の達成に役に立つものだと思いますか？	2.00
c. この授業の成績評価の方法や基準などについての説明はありましたか？	1.77
d. この授業の内容、進捗は、おおよそシラバスに沿ったものでしたか？	1.13
e. 授業中の教員の説明や指示はわかりやすいものでしたか？	1.87
f. 板書・ビデオ・プロジェクター等で提示されたものは、わかりやすいものでしたか？	1.50
g. 教科書や参考書、配付資料等は、学習の助けになりましたか？	1.70
h. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会がありましたか？	1.93
i. この授業では、授業時間以外に行う学習(予習・復習・宿題・レポートなど)について、わかりやすく指示が出されていましたか？	1.57
j. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？	0.70
k. 授業中及び授業時間外の学習中で、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？	1.13
l. 授業中及び授業時間外の学習で、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？	2.00
m. 授業中及び授業時間以外の学習中で、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？	1.87
n. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会がありましたか？	1.80
o. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？	1.87
p. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？	1.80
平均	1.66

優秀授業選出方針(平成25年度)

教育推進機構
全学共通教育部門

■優秀授業選出方針

- 1：アンケート実施授業科目を対象として、授業科目区分ごとに「優秀授業」を決定します。
- 2：履修人数の少ない授業科目については対象から外します。授業科目区分毎に履修登録人数の平均を出し、明らかに履修登録人数が少ない授業（履修登録人数の平均の30%以下）については、対象から外します。
- 3：履修登録人数に比べて、アンケート回答者（回収枚数）が少ない授業科目については、対象から外します。回答者数が履修登録人数の70%未満の授業科目については、対象から外します。
- 4：各授業科目区分での優秀授業対象科目（アンケートを実施している、履修者数が規定を満たしている、回収率が70%以上）の20%の科目数（四捨五入）が選出されることを基準とします。ただし、区切りとなる科目の集計値とそれ以前、もしくは以降の集計値に差があまりない場合には、対象科目数の15%（四捨五入）～25%（四捨五入）範囲内の科目で、集計値の区切りの良いところまでを選出することとします。また、対象科目数が5科目未満の場合は、その区分からは選出しないこととします。
- 5：設問Dの各項目について、評点を定め、平均値を算出します。選択肢の「そう思う」を2点、「まあそう思う」を1点、「あまりそう思わない」を-1点、「全くそう思わない」を-2点と評点を決めました。これを、各項目について、 $(\text{「そう思う」と回答した人数} \times 2 + \text{「まあそう思う」と回答した人数} \times 1 + \text{「あまりそう思わない」と回答した人数} \times -1 + \text{「全くそう思わない」と回答した人数} \times -2) \div (\text{「そう思う」と回答した人数} + \text{「まあそう思う」と回答した人数} + \text{「あまりそう思わない」と回答した人数} + \text{「全くそう思わない」と回答した人数})$ という式にあてはめ、点数を計算します。
- 6：5で算出した設問Dの各項目の値の平均をとります。
ここでいくつかの項目を集計よりはずしました。集計除外項目（候補）とその理由は裏面の通りです。
- 7：設問Eについても、5の方法で評定値を算出します。
- 8：6で出した値と7で出した値とを合計します。
- 9：8で算出した値について、上位から並べ、実施授業科目数の20%を基準とし、15%～25%の範囲以内に収まる範囲で「上位群」を判定し、それらの科目を抽出します。
- 10：1～9で抽出された授業科目を「優秀授業科目」候補科目とします。その後、自由記述項目等を加味して、全学共通教育部門会議での審議の結果、「優秀授業科目」を決定します。

集計除外項目

f. 板書、ビデオ、プロジェクター等で指示されたものは、わかりやすいものでしたか？
→板書やビデオ、プロジェクターは、「わかりやすい解説」を行うための「手段」であったり、もしくは教室の「環境」に左右されたりするので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

g. 教科書や参考書、配付資料は、学習の助けになりましたか？
→教科書や参考書、配布資料は、「わかりやすい解説」を行うための「手段」の1つなので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

i. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会がありましたか？
→「学生が参加して活動するような機会」がある授業が好ましい授業形態の1つであることは確かですが、履修人数等の関係上、「やりたくてもできない」場合もあるので、参考情報の1つとして扱いました。（健康・スポーツ科目：i）

l. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？
→アイアシスタント関連項目はデータ収集を目的に導入された項目なので、今回は、参考情報の1つとして扱います。来年度以降、FDプランの1つとして、集計項目になる可能性はあります。（健康・スポーツ科目：k）

m. この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？
→上記はGPの成果測定のためのデータ収集を目的に導入された項目なので、参考情報の1つとして扱います。（健康・スポーツ科目：l）

q. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？
→問題解決活動を授業中もしくは授業時間外学習（自習）で行ったかどうかについての項目です。今後、「問題解決活動」を取り入れた授業は目指すべき授業の1つですが、大人数講義科目等では実施が難しい面もあるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

r. 授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？
→教養教育の目標の1つでもある、常識・通念を問い直すことができたかどうかについての項目です。今後、これらの目標を達成することも目指すべき授業の1つですが、授業の題材などにもよるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

s. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会があったと思いますか？
→課題探求活動を授業中もしくは授業時間外学習（自習）で行ったかどうかについての項目です。今後、「課題探求」を取り入れた授業は目指すべき授業の1つですが、大人数講義科目等では実施が難しい面もあるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

t. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？
→授業科目によっては、必ずしも「学生が役に立つと思う授業」＝「いい授業」ではないので、今回は参考情報の1つとして扱いました。（外国語科目：q）（健康・スポーツ科目：p）

u. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？
→その授業科目で扱う題材や履修学生の所属学部などによって今後に対する意識も変わってくるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。（外国語科目：r）（健康・スポーツ科目：q）

平成25年度後期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目の選出

全学共通教育部門では、全学共通教育科目を対象に2年に1回のペースで学生による「授業アンケート」を実施しています。平成25年度は後期開講科目、平成26年度は前期開講科目が授業アンケートの対象科目となります。

授業アンケートの結果は、個々の授業担当者に返却する他、部門会議で作成した基準にしたがって「全学共通教育優秀授業科目」を選出しています。

平成25年度後期の優秀授業科目は以下の通りです。

平成26年7月30日には、全学共通教育優秀授業科目の表彰状の授与を行いました。（江本理恵）

平成25年度後期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目一覧

人間と文化

0008	心の理解	立原聖子
0015	芸術の世界	煤孫康二
0005	心の理解	早坂浩志

人間と社会

0029	経済のしくみ	杭田俊之
0044	対人関係の心理学	川原正広

人間と自然

0059	自然と法則	八木一正
------	-------	------

環境教育科目

0076	人の暮らしと生物環境	小田伸一
0067	生活と環境	菅原悦子

外国語科目：英語総合

0301	英語総合Ⅰ（上級）	Gavin Young
0318	英語総合Ⅱ（上級）	Asano Robert Ken
0317	英語総合Ⅱ（上級）	Ishikawa Peggy Marrie
0303	英語総合Ⅰ（中級）	小林葉子
0320	英語総合Ⅱ（中級）	佐藤智子
0319	英語総合Ⅱ（中級）	伊東栄志郎
0305	英語総合Ⅱ（上級）	三浦勲夫
0361	英語総合Ⅱ（中級）	筑後勝彦

外国語科目：英語コミュニケーション

0313	英語コミュニケーションⅡ（上級）	Blair Benjamin Reed
0370	英語コミュニケーションⅡ（中級）	Blair Benjamin Reed
0312	英語コミュニケーションⅠ（初級）	Blair Benjamin Reed
0343	英語コミュニケーションⅠ（上級）	Blair Benjamin Reed
0329	英語コミュニケーションⅡ（初級）	William Oscar Lewis IV
0327	英語コミュニケーションⅡ（中級）	FARR Alan
0342	英語コミュニケーションⅠ（上級）	Gavin Young
0315	英語コミュニケーションⅡ（中級）	Gavin Young

外国語科目：英語以外の外国語

0409	初級ドイツ語（発展）	遠藤スサanne
0478	上級日本語F	加藤理恵
0460	初級中国語（発展）	西田文信
0445	中級フランス語	横井雅明
0448	中級フランス語	グラアレクサンドル
0451	中級ロシア語	長野俊一
0446	中級フランス語	中里まき子

健康・スポーツ科目

01030	体力トレーニング	澤村省逸
01031	ニュースポーツ	浅沼道成
01042	バレーボール	小笠原義文
01045	バスケットボール	岩井恵理
01063	バトミントン	吉田実



平成25年度 後期全学共通教育優秀授業科目表彰式にて

優秀授業選出方針(平成26年度)

教育推進機構
全学共通教育部門

■優秀授業選出方針

- 1：アンケート実施授業科目を対象として、授業科目区分ごとに「優秀授業」を決定します。
- 2：履修人数の少ない授業科目については対象から外します。授業科目区分毎に履修登録人数の平均を出し、明らかに履修登録人数が少ない授業（履修登録人数の平均の30%以下）については、対象から外します。
- 3：履修登録人数に比べて、アンケート回答者（回収枚数）が少ない授業科目については、対象から外します。回答者数が履修登録人数の70%未満の授業科目については、対象から外します。
- 4：各授業科目区分での優秀授業対象科目（アンケートを実施している、履修者数が規定を満たしている、回収率が70%以上）の20%の科目数（四捨五入）が選出されることを基準とします。ただし、区切りとなる科目の集計値とそれ以前、もしくは以降の集計値に差があまりない場合には、対象科目数の15%（四捨五入）～25%（四捨五入）範囲内の科目で、集計値の区切りの良いところまでを選出することとします。また、対象科目数が5科目未満の場合は、その区分からは選出しないこととします。
- 5：設問Dの各項目について、評点を定め、平均値を算出します。選択肢の「そう思う」を2点、「まあそう思う」を1点、「あまりそう思わない」を-1点、「全くそう思わない」を-2点と評点を決めました。これを、各項目について、 $(\text{「そう思う」と回答した人数} \times 2 + \text{「まあそう思う」と回答した人数} \times 1 + \text{「あまりそう思わない」と回答した人数} \times -1 + \text{「全くそう思わない」と回答した人数} \times -2) \div (\text{「そう思う」と回答した人数} + \text{「まあそう思う」と回答した人数} + \text{「あまりそう思わない」と回答した人数} + \text{「全くそう思わない」と回答した人数})$ という式にあてはめ、点数を計算します。
- 6：5で算出した設問Dの各項目の値の平均をとります。
ここでいくつかの項目を集計よりはずしました。集計除外項目（候補）とその理由は裏面の通りです。
- 7：設問Eについても、5の方法で評定値を算出します。
- 8：6で出した値と7で出した値とを合計します。
- 9：8で算出した値について、上位から並べ、実施授業科目数の20%を基準とし、15%～25%の範囲以内に収まる範囲で「上位群」を判定し、それらの科目を抽出します。
- 10：1～9で抽出された授業科目を「優秀授業科目」候補科目とします。その後、自由記述項目等を加味して、全学共通教育部門会議での審議の結果、「優秀授業科目」を決定します。

集計除外項目

f. 板書、ビデオ、プロジェクター等で指示されたものは、わかりやすいものでしたか？

→板書やビデオ、プロジェクターは、「わかりやすい解説」を行うための「手段」であったり、もしくは教室の「環境」に左右されたりするので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

g. 教科書や参考書、配付資料は、学習の助けになりましたか？

→教科書や参考書、配布資料は、「わかりやすい解説」を行うための「手段」の1つなので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

i. 授業の中で、学生が参加して活動するような機会がありましたか？

→「学生が参加して活動するような機会」がある授業が好ましい授業形態の1つであることは確かですが、履修人数等の関係上、「やりたくてもできない」場合もあるので、参考情報の1つとして扱いました。（健康・スポーツ科目：i）

l. この授業では、アイアシスタントが授業中や授業時間以外の学習に活用されていましたか？

→アイアシスタント関連項目はデータ収集を目的に導入された項目なので、今回は、参考情報の1つとして扱います。来年度以降、FDプランの1つとして、集計項目になる可能性はあります。（健康・スポーツ科目：k）

m. この授業及び授業時間外の学習中に、持続可能な社会や環境等について考える機会がありましたか？

→上記はGPの成果測定のためのデータ収集を目的に導入された項目なので、参考情報の1つとして扱います。（健康・スポーツ科目：l）

q. 授業中及び授業時間外の学習中に、あなた自身が考え、工夫しながら問題に取り組む機会がありましたか？

→問題解決活動を授業中もしくは授業時間外学習（自習）で行ったかどうかについての項目です。今後、「問題解決活動」を取り入れた授業は目指すべき授業の1つですが、大人数講義科目等では実施が難しい面もあるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

r. 授業中及び授業時間以外の学習中に、新鮮な驚きを感じる瞬間がありましたか？

→教養教育の目標の1つでもある、常識・通念を問い直すことができたかどうかについての項目です。今後、これらの目標を達成することも目指すべき授業の1つですが、授業の題材などにもよるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

s. 授業中及び授業時間以外の学習中に、自分で探求すべき課題を見つけることの大切さに気づく機会があったと思いますか？

→課題探求活動を授業中もしくは授業時間外学習（自習）で行ったかどうかについての項目です。今後、「課題探求」を取り入れた授業は目指すべき授業の1つですが、大人数講義科目等では実施が難しい面もあるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。

t. この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？

→授業科目によっては、必ずしも「学生が役に立つと思う授業」＝「いい授業」ではないので、今回は参考情報の1つとして扱いました。（外国語科目：q）（健康・スポーツ科目：p）

u. この授業で学んだことを、さらに勉強したいと思いますか？

→その授業科目で扱う題材や履修学生の所属学部などによって今後に対する意識も変わってくるので、今回は参考情報の1つとして扱いました。（外国語科目：r）（健康・スポーツ科目：q）

平成26年度前期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目の選出

全学共通教育部門では、全学共通教育科目を対象に2年に1回のペースで学生による「授業アンケート」を実施しています。この授業アンケートの結果は、個々の授業担当者に返却する他、部門会議で作成した基準にしたがって「全学共通教育優秀授業科目」を選出しています。

平成26年度前期の優秀授業科目は以下の通りです。

平成27年2月4日には、全学共通教育優秀授業科目の表彰状の授与を行いました。（江本理恵）

平成26年度前期 学生による授業アンケートに基づく全学共通教育優秀授業科目一覧

外国語科目：英語総合

0317	英語総合Ⅰ（上級）	Hareyama James Franciscus
0318	英語総合Ⅰ（上級）	Newbury Daniel Copeland
0305	英語総合Ⅱ（上級）	HALL JAMES MERIWETHER
0321	英語総合Ⅰ（中級）	William Oscar Lewis IV
0320	英語総合Ⅰ（中級）	伊 東 栄志郎
0322	英語総合Ⅰ（初級）	星 野 勝 利
0337	英語総合Ⅱ（中級）	松 林 城 弘

外国語科目：英語コミュニケーション

0327	英語コミュニケーションⅠ（中級）	Asano Robert Ken
0316	英語コミュニケーションⅡ（初級）	Blair Benjamin Reed
0310	英語コミュニケーションⅠ（中級）	Ishikawa Peggy Marrie
0372	英語コミュニケーションⅠ（中級）	Hareyama James Franciscus
0375	英語コミュニケーションⅠ（初級）	William Oscar Lewis IV
0309	英語コミュニケーションⅠ（上級）	Blair Benjamin Reed
0371	英語コミュニケーションⅠ（中級）	Asano Robert Ken

外国語科目：英語以外の外国語

0456	初級中国語（入門）	西 田 文 信
0470	上級日本語A	松 岡 洋 子
0471	上級日本語B	加 藤 理 恵
0415	初級ドイツ語（入門）	川 村 和 宏
0423	初級フランス語（入門）	横 井 雅 明
0462	初級韓国語（入門）	崔 在 繕

健康・スポーツ科目

01032	サッカー	鳴 尾 直 軌
01030	ソフトボール	澤 村 省 逸
01023	テニス	本 多 好 郎
01060	体力トレーニング	栗 林 徹
01031	バレーボール	小笠原 義 文
01042	バレーボール	小笠原 義 文
01051	ニュースポーツ	上 濱 龍 也

01066	サッカー	久 保 田 豪
01020	ニュースポーツ	上 濱 龍 也

情報科目

0120	情報基礎	松 館 敦 子
0119	情報基礎	宮 川 洋 一
0118	情報基礎	松 館 敦 子

人間と文化

0007	心の理解	奥 野 雅 子
0009	心の理解	山 口 浩
0019	大学の歴史と現在	江 本 理 恵
0008	心の理解	早 坂 浩 志

人間と社会

0027	多文化コミュニケーションA	松 岡 洋 子
0029	憲法	菊 地 洋
0030	経済のしくみ	笹 尾 俊 明
0031	対人関係の心理学	川 原 正 広

人間と文化

0068	自然と法則	河 田 裕 樹
0065	生命のしくみ	西 山 賢 一



平成26年度 前期全学共通教育優秀授業科目表彰式にて

岩手大学の授業を受けてみませんか？

平成26年度

「全学共通教育科目授業公開ご案内」

岩手大学では、下記の期間中、全学共通教育科目の全ての科目を一般に公開いたします。この授業公開は、広く一般市民の方々に授業をご参観いただき、岩手大学の全学共通教育へのご理解を深めて頂くとともに、今後さらに授業を良くするためのご意見やご助言をいただく機会になればと、実施するものです。

お忙しいこととは存じますが、この機会にぜひ岩手大学へお越しいただき、全学共通教育の授業をご参観くださいますようお願い申し上げます。

記

期 間：【前期】 6月 2日（月） ～ 6月 6日（金）

【後期】 11月10日（月） ～ 11月14日（金）

対 象 者：高校生、一般市民（制約はありません）

参観方法：期間中、全学共通教育科目の授業科目を自由にご参観頂けます。

事前登録は必要ありません。お好きな時間に授業をご参観下さい。

期間中は、学生センターA棟1階の受付にお立ち寄り下さい。

以上

■連絡先

教育推進機構 （10時～17時受付）

TEL：019-621-6554 / FAX：019-621-6928 / e-mail：uec@iwate-u.ac.jp



交通案内（盛岡駅から）

- バス利用
（盛岡駅前バスターミナル11番のりば）
 - ・岩手県交通バス上田線
乗車—「松園バスターミナル行き」
下車—「岩手大学前」
 - ・岩手県交通バス桜台団地線
乗車—「桜台団地行き」
下車—「岩手大学前」
- タクシー利用
盛岡駅から約2km 約10分
- 徒歩
盛岡駅から約25分
- 自家用車
入り口にて「授業公開」にいらしたことを教えてください。

平成26年4月7日

保護者 各位

教育推進機構

機構長 丸山 仁

授業モニター登録のお願い

「授業公開のご案内」の通り、岩手大学では、下記の日程で、全学共通教育科目の全ての科目を一般に公開いたします。

【前期： 6月 2日（月） ～ 6月 6日（金）】

【後期：11月10日（月） ～ 11月14日（金）】

例年、保護者の方々には、授業改善の観点から、教育推進機構へ忌憚のないご意見をお寄せ頂く「授業モニター」（ボランティア）を募集しております。

このモニターは大学が認定するもので、正規の登録証を発行するほか、お引き受け頂ける授業モニターの方々とは、昼食会なども予定しております。

＜ 授業モニターの業務 ＞

- * 時間のとれる可能な曜日・時間で授業をご覧頂く
- * その授業について、モニター用アンケートにお答え頂く

といった簡単なものです。それ以外の義務・負担などはありません。

モニターの方々も一般の方々と同じように授業をご参観して頂くこととなりますが、ご参観後に、モニターとして様々なご意見・ご感想をお聞かせ願うという点が一般の方々とは異なります。

皆さまのご意見・ご感想を今後の授業改善へ役立てたいと思いますので、ぜひ授業モニターへご登録頂きますよう、よろしくお願いします。

【授業モニター登録】

***登録方法：** 教育推進機構（10時～17時受付）にお電話いただくか、ご芳名、ご連絡先、在学生の所属学部をご記入頂き、FAX、e-mail でお申込み下さい。

電話 （019-621-6554）

FAX （019-621-6928）

e-mail（uec@iwate-u.ac.jp）

***締め切り：**

＜前期モニター＞ 平成26年5月30日（金）

＜後期モニター＞ 平成26年11月7日（金）



平成26年度前期 全学共通教育授業公開実施報告

2014年6月10日

教育推進機構

■実施日程

平成26年6月2日（月）～6月6日（金）

■参加者数（のべ人数）

	月	火	水	木	金	合計
モニター	0	1	1	0	0	2
一般	16	5	6	9	9	47

※受付通過人数

- ・ 在校生の家族 7 人
- ・ 高校生 4 人
- ・ 卒業生 3 人
- ・ 一般市民 9 人
- ・ 附属中学校の保護者 8 人
- ・ 元高校教員 5 人
- ・ 科目等履修生 2 人
- ・ 学習塾の経営者 2 人
- ・ 中学生 1 人
- ・ アンケート未提出 6 人

■授業公開を知ったきっかけ

- ・ 入学式で配布されたチラシ 6 人
- ・ 岩手大学から送付された案内 5 人
- ・ 岩大の Web ページ 5 人
- ・ 附属中学校保護者へのチラシ 11 人
- ・ 図書館のポスター 5 人
- ・ 大学入口の掲示板 5 人
- ・ 駅のポスター 3 人
- ・ 大学に来てみて 1 人
- ・ アンケート未提出 6 人

■参観した授業についての感想等

【 教養科目（人間と文化） 】

◎ 日本の文学 （月9・10）

- ・ 賢治について知ることができて大変よかった。

◎ 中国の文学 （火 3・4）

- ・唐代の宮廷詩人、沈佺期和宋元問についての授業でしたが、今まで学んだことのない詩人の作品に触れることができ興味深かったです。資料もいただき受講できました。90分の内容としては、聞きのがすとどんどん進んでしまうので、ちょっと多いように思いましたが、様々な面から、二人の作品を紹介してくださったので、改めて学び直したいと思う時間になりました。（漢文に返り点やふりがなをつけるのに忙しかったので、プリントの文字と余白がもう少し大きかったら良かったです）

◎ 日本の思想と文化 （水 1・2）

- ・高校の授業の内容を更に専門的に解説されてあるので、機会を見て、公開授業講座で受講したいと思った。

◎ 心の理解 （月 3・4）

- ・将来、聴講を希望しているので、講義を聞きとても参考になった。社会人を経験してからのリターン受講を可能にすることで、学生の頃より、聞きたい科目がはっきりしてきているので、とても身近で、実感のもてる話が聞けた。

◎ 日本の歴史と文化 （水 9・10）

- ・とても興味深かったです。初めは漢文を読むのかと思いましたが、アテルイのお話でした。

◎ 芸術の世界 （木 3・4）

- ・音楽と言語（語源）に興味があるので、むずかしいところもあったが、楽しく聴講できました。ありがとうございました。

【 教養科目（人間と社会） 】

◎ 現代社会の社会学 （月 1・2）

- ・ホームレスの実態を学術的に調査された内容で、盛岡の身近の所にいるホームレス状態の人の生活が思いやられ、涙すら出てきた。機会をみて、公開授業講座で受講したいと思った。

◎ 地域と生活 （火 1・2）

- ・アメリカンインディアンのスライド上映と説明でとてもおもしろかった。公開授業講座で今後受講していきたいと思った。担当の遠藤氏がご自身の人生経験をおりこみながら講義されており、青年期の学生に有益な話になっていると感じるが、学生自身はどう感じているか・・・。

◎ 対人関係の心理学 （月 9・10）

- ・“3人いれば興奮する”という議題は、現在のタイで起こっているデモやクーデタを見てて分かりやすかったです。高校の授業よりも自分のペースで学習ができると思いました。
- ・高校と大学の雰囲気を感じることができた。なかなか楽しく、大学へ行きたい気持ちが高まった。また機会があれば参加してみたい。

◎ 憲法 （木 1・2）

- ・先生から受講生の多くが教育学部の学生さんだというお話がありましたが、今日のテーマの「表現の自由」について卒業後に教職に就く人や芸術系のコースで真に日々、「表現」する活動をしている人に対して、実はこの問題は身近であると説明で、講義がより具体性を持って感じられたように思います。映像（25分）を用いての授業だったので、資料を読んでの時間が少々不足していたように思います。先生から学生に直接問いかけ、応答があり、そのような形態で問題提起するのはいいと思いました。
- ・同じテーマでも担当者に各々特徴があり、色々の見方を知る機会を今回の「公開授業」で確認できた。学生が授業最初、騒がしいのは是正される必要がある。授業内容聴取の邪魔をしていることへの自覚を持たせる必要がある。

◎ 経済のしくみ （木 3・4）

- ・初めて授業公開に参加させて頂きました。世の中の経済のしくみがすこしだけでありますが理解でき、有意義に受講しました。次回も参加させて頂きたいと思います。ありがとうございました。

【 教養科目（人間と自然） 】

◎ 宇宙のしくみ （月 3・4）

- ・理系の授業にはあまりなじみがないので、聴講しました。平素は興味のある分野だけ専門雑誌などで、見聞きする程度ですが、宇宙のしくみを理解するにあたり、量子力学が基礎となっていることを、映像を使ってとてもわかりやすく学べました。もともとが文系の人間なので、授業最後のあたりの内容（トンネル効果や角運動量のあたり）は難しかったですが、全体的に細かい説明をしていただき有難いです。
- ・数理的な部分がついていけないかなと思った。テーマには興味がある。

◎ 自然のしくみ （水 1・2）

- ・「光の基礎課程」 光は電磁波であり、電場と磁場を合わせたもので、様々な光が混ざると白く見える。振動数と波長は反比例し、散乱は分子と散乱体によっておこるなど、普段気にとめないことであるが、知ることの重要さ、学ぶことの必要性を感じることができた。

◎ 自然と法則 （水 1・2）

- ・難しかったです（私自身）。理解しやすい様に優しく授業をされていました。

【 共通基礎科目（外国語・英語） 】

◎ 英語総合Ⅱ（上級） （水 3・4）

- ・難しいが楽しい。

◎ 英語コミュニケーション（初級） （水 3・4）

- ・中級、上級のクラスを受講したかったのですが、グループワークにはいりづらかったので初級クラスに変更しました。

【 共通基礎科目（外国語・英語以外） 】

◎ 初級ドイツ語入門 （月 5・6）

- ・学生たちは、とても静かに授業を聞いていました。授業の最初からではなかったのですが、ドアは閉まっており、少し入りづらかったと思います。初めて参加したのですが、もう少し出入りしやすくしていただけると有難いと思いました。

◎ 初級韓国語

- ・テキストがないので、少しわからないところがありましたが、おもしろかったです。

◎ 初級韓国語 入門・発展

- ・韓国語の発音の口の形のコツ、つうじるためのコツなどは、生で見れて聞けて講義の良さを感じました。どんな言語も文法は難しいものだと思いました。

◎ 初級フランス語 （月 5・6）

- ・大学では1つの授業を長く学ぶ内容も多いため、復習するための時間がかかり、大変だと聞いていました。見学したフランス語の授業は新しい内容をすすめながら、時々復習を取り入れる形で確認があり、初めて参加した私でも、楽しく授業を受けることができました。

◎ 初級フランス語 （金 3・4）

- ・興味があり参加しましたが、さすがに第1回目ではないので、ある程度わかっていないと無理だなと感じ、途中退席しました。先生の授業はとても楽しそうだったので、自分で少し学習できたら、また Try してみたいと思います。

◎ 初級フランス語 （月 5・6）

- ・テンポが良く、丁寧で非常にわかりやすかった。あきない進め方でした。生徒さんたちも一生懸命にやっている様で、とても雰囲気の良い授業でした。今後の参考にさせていただきます。有難うございました。音楽を使っの授業は楽しくて良いです。

◎ 初級フランス語 入門 （水 5・6）

- ・一緒にテストをさせていただいたり、お話ができてとても充実しました。驚いたのは、1年生の進度が予想よりも早かったことです。みなさん、よく勉強していました。

◎ 初級フランス語 （金 1・2）

- ・独学で予備知識があったので、ますます理解できた。今後も継続して学びたいと思う。テキストのコピーがあれば良かった・・・。

◎ 初級ロシア語 （月 5・6）

- ・卒業生です。たまたま授業公開の事を知り、懐かしさもあって参観しました。久々に授業を体験できてとても楽しかったです（全く普段通りの授業だったので）。教科書を使わない形式の授業の導入だったので、カチコチでなく良いと思う。
- ・たまたま休日だったので、受けにきました。宮古市から参加しましたが、宮古には、ロシアの外国船が入港し、必要に応じて訪船する仕事をしています。普段は英語で大丈夫ですが、ロシアの船員は英語ができない方が多く、参考ということで、この授業を選びました。

【 その他 人文社会科学部専門教育科目 】

◎ 臨床心理学特講 (火 5・6)

- ・奥野先生の生徒を飽きさせず、ぐいぐい聴かせる講義がすばらしかったです。

◎ 英米文化論 (火 5・6)

- ・移民がテーマの文学作品の解説でとても興味深く聞いた。

◎ 国際政治学Ⅰ (水 3・4)

- ・テーマ「太平洋戦争」。興味があったが、説明は少し単調な感じに思った。政治学的な見方を知りたいと思った。

◎ 経営学総論Ⅰ (水 5・6)

- ・話の内容がよかった。

◎ ジェンダー文化論Ⅰ (木 5・6)

- ・中高の同級生だった先生の授業だったので、おもしろかったです。ジェンダーという言葉にふれる機会は最近ないので、とても興味深かった。

◎ 環境基礎化学 (金 1・2)

- ・何事も基礎は大事だなと改めて思いました。とても楽しく拝聴しました。公開授業の予定の科目にはなかったので、語学以外は今回は見られないと思っていました。こういった授業もみられてラッキーでした。

◎ 社会心理学 (金 5・6)

- ・この授業も公開予定の科目にはありませんでした。興味のある分野だったので、ラッキーでした。実生活にも役立てられそうな話題でした。

◎ 人間学講義Ⅱ (金 3・4)

- ・興味のあった生命倫理に関するテーマの内容で、「人間学」が公開井就業講座リストにないため、これまで知れなかった内容を今回、授業公開で知ることができ、ためになった。

◎ 環境倫理学 (金 7・8)

- ・内容がかなり専門的。学生の対論形式でそれなりに意見がでていると思われ、いい傾向です。哲学担当の関氏の公開授業講座の受講を将来、考えている。

■ その他、ご意見、ご感想等

- ◎ 授業公開が毎年、行われているのか分かりませんが、職員も学生ももう少し、対応を考えるべきだと思いました。少し残念でした。

- ◎ 秋も公開して下さい！ とても楽しかったです。

- ◎ 少人数の授業でゆったりとした環境でした。

- ◎ 岩大HPでのリンクが少し分かりにくく、せめてリンクになっている文字は色を変えるなどしてほしかったかも。

- ◎ 卒業して10年以上経ってからの授業でした。10年前に比べ、建物等が変わりましたが、授業は変わらなくてなによりです。

- ◎ またこのような機会を作ってほしい。文字をもっと大きくしてもらえると助かる。

- ◎ 授業公開は毎年やっていましたか？ いい企画です。人文学部専門の公開の枠をもっと広げて欲しい。公開授業講座の選定にとっても役立つ企画で歓迎です。
- ◎ ありがとうございました。後期もまた参加したいと思います。
- ◎ 授業参観が手続きめんどろでなく、気軽にできる体制になっていてよいと思う。
- ◎ 授業名の掲示のみだと、具体的な授業の内容がよくわからないので、どの授業を参観しようか選ぶ時に判断材料が少ないので、可能であれば、一言、ふたこと程度でもいいので、コメントを付けてもらえると有難いです。（情報基礎の時間割）
- ◎ 大学院講義を公開授業講座のように社会人向けに開放して欲しい。特に語学、文学系テーマでの公開を強く要望します。
- ◎ 授業参観はとてもしどきでしたが、楽しかったです。このような機会を作って下さったことを感謝します。
- ◎ 被災地での学修を必修化して、“プロジェクト”を推進することは必要であると考えましたが、被災以前から抱えている高齢化率の高さ、人口の減少が県内各市町村の存続（行政の）に大きく関わるものと推察します。抜本的な対策はないと言えますが、気概をもって対応できる人材の輩出に期待したいです。
- ◎ 講義開始後も私語が多いのが気になりました。先生がいろいろな資料を提示されていたので、それに対して、学生の方々が自主的に学習を深めるという好循環がうまれると、いい学びになるのだろうと感じました。
- ◎ クーラーは少し寒かったです（座る席にもよるのでしょうか）。学生の方が少なくもったいないですね。色々な方が、自由に授業を受けられると（社会人、高齢者など）良いですね。
- ◎ 今回は「経済のしくみ」を受講しましたが、他にも「心の理解」と「現代社会と経済」「芸術の世界」を受講したかったのですが、時間が重なってしまい、受講出来ませんでした。残念でした。11月の授業公開には是非、受講したいと思います。
- ◎ 授業公開は地域社会への貢献の点からも二回位実施して欲しい。前期、講義で講義内容が異なると思うので、今年より実施して欲しい。
- ◎ コミュニティカレッジとか聴講制度があれば、ぜひ、積極的に参加してみたい。ありますか？ 自分は東京の私大出身ですが、今回初めて国立大学の授業を参観させていただいて、貴大学の方がとても丁寧な教育していると思いました。
- ◎ 入学式に公開授業があるときいた時から、とてもワクワクと楽しみにしていました。若い学生さん達と受ける授業は多少違和感があるものの、とても刺激的で楽しいものでした。勉強をただ“義務”のように感じていた学生時代とは違って、今は”学ぶ“ということがとても楽しく感じるようになりました。今回、仕事の休みを利用して参加しましたが、もし、この公開授業が夏休みのとれる時期だったなら、もっと多くの授業が受けられたのにと残念です。また、後期にも公開授業があるとのこと、また、是非来たいと思います。
- ◎ 社会人専用の夜学講座があれば良いかと常々思っております。
- ◎ 授業公開が後期も実施ときき、楽しみにしています。大学院講義の公開もして欲しいです。

平成26年度後期 全学共通教育授業公開実施報告

2014年11月18日

教育推進機構

■実施日程

平成26年11月10日（月）～11月14日（金）

■参加者数（のべ人数）

	月	火	水	木	金	合計
モニター	0	0	0	0	0	0
一般	7	6	10	10	12	45

※受付通過人数 ※実質35人

《内訳》

在校生の家族	14
市民	6（実質4）※聴講希望者・息子が受験予定・主婦 各1他
附属中学校在校生の家族	5（実質3）
附属中学校在校生の家族の知り合い	4（実質1）
元 高校教員	4（実質1）
卒業生	2
科目等履修生	1
公開授業講座 受講生	1
高校生	1
高校生の家族	1
編入学予定者	1
その他/無回答	4
アンケート未回収	1

計 45 （実質35）

■授業公開を何で知ったか

岩手大学から送付された案内	9
入学式で配布されたチラシ	5
附属中学校からの案内	5（実質3）
附属中学校からの案内（知人通じて）	4（実質1）
大学内掲示板	4（実質1）
新聞、テレビなどのマスコミ（マシェリ）	4（実質2）・
新聞、テレビなどのマスコミ（盛岡タイムス）	3（実質1）・
新聞、テレビなどのマスコミ（詳細不明）	3
} マスコミ計 10（実質6）	
岩手大学の web ページ	2
知人から	2
チラシ（詳細不明）	2
チラシ（駅）	1
図書館のポスター	1
無回答	2
未回収	1

■ご参観された授業

	授業名	人数
月1・2	憲法	1
	地域と社会	1
月3・4	心の理解	1
	現代社会と経済	1
	現代政治を見る眼	1
	【人社】 考古学講義B	1
月5・6	【工学部】 人間工学	1
月7・8	【人社】 英語構造論Ⅱ	2
火1・2	憲法	2
	キャリアを考える	1
	英語総合Ⅱ（初級）	1
火3・4	生命のしくみ	2
	中国の文学	1
火5・6	【人社】 社会文化論Ⅳ	1
水1・2	日本の思想と文化	2
	対人関係の心理学	2
水3・4	【人社】 日本史講義ⅡB	1
水5・6	初級フランス語（入門・発展）	1
	上級日本語F	1
水7・8	【人社】 言語コミュニケーション論Ⅱ	1
水9・10	宮沢賢治の思想と文学	1
木1・2	自然のしくみ	1
	【工学部】 福祉生体工学	1
木3・4	異文化理解と実践	2
	言葉の世界	1
	岩手の研究	1
	これからの健康科学	1
	植物栽培と環境テクノロジー	1
木5・6	日本の歴史と文化	2
	英語コミュニケーションⅠ（上級）	2
	倫理学の世界	1
	初級フランス語（発展）	1
金1・2	英語コミュニケーションⅡ（中級）	2
	初級ドイツ語（発展）	1
	初級ドイツ語（発展）	1
	初級フランス語（発展）	1
	初級フランス語（発展）	1
	上級日本語G	1
	【人社】 人間科学概論	1
金3・4	【人社】 日本語学講義Ⅰ	2
	初級フランス語（入門・発展）	1
	中級フランス語	1
	初級中国語（入門・発展）	1
	上級日本語H	1

■ご参観された授業についてのご感想等

【月曜日】

◎憲法（月 1・2）

- ・前期の授業公開でも、別の先生の憲法を受講したので、興味があって今回もお話を伺いました。最近、あまり日本の憲法改正について報じられることが以前に比べると少なくなってきましたが、大日本帝国憲法との違いを知る上で重要なドイツ憲法について、触れられて考えが深まりました。

◎地域と社会（月 1・2）

- ・地形に対するお話で大変勉強になりました。北上川についてでしたが、盛岡の河川についての質問に、解答くださいました。有難うございました。

◎現代社会と経済（月 3・4）

- ・知的好奇心を刺激する講義でした。

◎現代政治を見る眼（月 3・4）

- ・戦後史を生きてきた人間として、今日の講義は、実に興味深く、関心をもって聴講できました。現代のこの国の、外交問題の諸相が、その多くが、〇〇は、戦後の「戦争処理に関する講和条約」の中に、その国が存在することが改めてよく理解できた。 尖閣問題・竹島問題・慰安婦問題・集団的自衛権など、現在問題になっている、これらに対する岩大学生の関心を知りたいと思った。有難うございました。

◎【人社】考古学講義 B（月 3・4）、 【人社】英語構造論Ⅱ（月 7・8）

- ・どちらの講義もおもしろくタメになった。

◎【工学部】人間工学（月 5・6）

- ・難しかった。有意義だった。

◎【人社】英語構造論Ⅱ（月 7・8）

- ・文学の歴史・流れを興味深く拝見しました。専門的なご講義でした。テキストがなく、プリントも前回配布のものによる講義でしたので、理解が難しかったのですが、面白いと感じました。有難うございました。

【火曜日】

◎憲法（火 1・2）

- ・昨日は、ドイツ憲法の制定やその内容についての講義を受講したので、「人権」について学ぶと授業概要にあったこの講義をえらびました。

内容が盛り沢山で、プリントすべてについて説明がなかったので残念でしたが、自身のこれまでの解釈が若干間違っていたのに気づきました。新しい知識が増え、新たな学びにつながりました。

◎キャリアを考える（火 1・2）

- ・敬語についての解説。大人が誤って使っていることが多いと教えられました。確かに思い当たることがあります。

言葉を手掛かりに「自分を知る」「他者を知る」ことを意識的にしてゆくことで、社会人になる為の準備をしている授業と感じました。

◎英語総合Ⅱ（初級）（火 1・2）

- ・初めて授業のリズムがおもしろいと思いました。

◎生命のしくみ（火 3・4）

- ・大学の授業を見て、少し雰囲気分かったので良かった。

◎中国の文学（火 3・4）

- ・晩唐の詩人「李商隠」についての講義。専攻学生を対象とした講座と思われるが、丁寧な解説であった。

◎憲法（火 1・2）、生命のしくみ（火 3・4）、【人社】社会文化論Ⅳ（火 5・6）

- ・3つの講義を参観した。どれも有益だった。

【水曜日】

◎日本の思想と文化（水 1・2）

- ・このような思想があるんですね！初めてきました！
- ・神仏関係の話は興味深かった。理解できる内容だった。神なのに迷うんですね。学生達静かに聞いていますね。教養科目、多いような気がします。

◎対人関係の心理学（水 1・2）

- ・心理学を参観させていただきました。社会生活においても勉強になる話を聞けました。有難うございました。

◎【人社】日本史講義ⅡB（水 3・4）

- ・アンデスという外国人の講義でしたが、上手な日本語で感心しました。内容も国際的観点からのアプローチで、今の日本人教育に必要な点に思いました。

◎初級フランス語（入門・発展）（水 5・6）

- ・ちょうどよい復習になりました。発音が聞けて良かったです。

◎上級日本語F（水 5・6）

- ・とてもよい授業でした。組み立ても内容も。生徒さんの数もいかされていたし、いきいきとした授業で面白かったです。

◎【人社】言語コミュニケーション論Ⅱ（水7・8）

- ・ネーミング・カテゴリー化の先導者は誰か？こうしたカテゴリー化を一般庶民がすぐ使うのは何故か？偏見と差別、サブカルチャーショック。教授と学生さん達との質疑応答がとても活発で、楽しい授業でした。参観させていただいて、ありがとうございました。

◎宮沢賢治の思想と文学（水9・10）

- ・宮沢賢治のことを、少しですが理解でき、楽しかったです。有難うございました。

【木曜日】

◎自然のしくみ（木1・2）

- ・高校の授業以来、久しぶりに触れた内容で、とても懐かしく、かつ新鮮に感じました。中身については、原子の基礎的な知識を紹介するもので、先生の説明もわかりやすく、細かい数字も出てきて興味深かったです。特に、昔の原子モデル（トムソンのぶどうパン型モデルや、長岡半太郎の土星型モデル）は、初めて拝見したのですが、衝撃的でした。

プリントの内容を写しだしてあったり、補足的な説明はホワイトボードに書きだしたり、放電の装置を準備してくださったりと、とても分かりやすかったです。学生に対する気配りがお話の端々に感じられました。

◎【工学部】福祉生体工学（木1・2）

- ・新鮮だった。

◎異文化理解と実践（木3・4）、英語コミュニケーションⅠ（上級）（木5・6）

- ・楽しかった。
- ・components of love, ploygamous marriages, polygynous family など学習させていただきました。異文化についての理解はある程度ある方とっていましたが、英語での授業は、とにかく新鮮で楽しかったです。

◎言葉の世界（木3・4）、倫理学の世界（木5・6）

- ・どちらともためになる授業で良かったです。ありがとうございました。

◎岩手の研究（木3・4）

- ・岩手の復興についてこのように研究・支援活動されているということを知りました。今後、明るい未来に向けて活動を期待し、支援したい。

◎これからの健康科学（木3・4）

- ・時間ごとに担当が変わる授業で、時間ごとに担当が変わるシステムの良し悪しがあるように思われる。工夫が必要とされている。

◎植物栽培と環境テクノロジー（木 3・4）

- ・昔、花卉栽培をしていました。花の色について興味深く思いました。今回、植物栽培と環境テクノロジーという題でしたが、もう少し詳しい内容が分かれば良かった。園芸植物の花色と花色素についてとか！

◎日本の歴史と文化（木 5・6）

- ・岩手も日本の歴史の中にあっただのと実感しました。
- ・鎌倉時代後に（室町時代までの間）どんな事があったのか詳しいお話を聞くことが出来ました。

【金曜】

◎英語コミュニケーションⅡ（中級）（金 1・2）

- ・楽しそうな授業でした。学生になりたいですネ！

◎初級ドイツ語（発展）（金 1・2）

- ・大学での語学の授業を体験できて楽しかったです。先生は、一人一人が分かるように丁寧に指導されています。

◎初級ドイツ語（発展）（金 1・2）

- ・少人数で学生達も真面目に講義を受けている様子が良く伺えました。

◎初級フランス語（発展）（金 1・2）

- ・時間がなくて中へは入らなかったが、少人数で先生の目が行き届いているようだった。※教室へは入りづらい感じがした。

◎初級フランス語（発展）（金 1・2）、中級フランス語（金 3・4）

- ・数字の書きとりが難しかった・・・

◎上級日本語 G（金 1・2）

- ・今日の授業は、「留学生のための論理的な文章の書き方」というテキストの第五課「定義」についてでした。読解・新語・文系理解などを経たあとで、最終的には自分で選択したテーマについて「定義」を入れた文章を作成していた留学生に感心しました。電子辞書・スマホを駆使しながらも、短時間で長文を書くのは、さすが上級クラスだと納得させられました。

◎【人社】 日本語学講義Ⅰ（金 3・4）

- ・授業の始めにテスト用紙を配られました。今日はテストの日かと焦りましたが、15 分くらいのミニテストでした。どんなテストなのか、その用紙を見たかったです。授業は興味深く面白かったです。
- ・普段何気なく話している言葉も、改めてルール（文法）にしてみると面倒くさいものだなあ。何気なくしゃべって 50 数年、ルール完全じゃないけど成り立ってた！

◎初級中国語（入門・発展）（金 3・4）

- ・とても丁寧に説明されていて、良く理解できる授業でした。親切にテキストをコピーして下さって、有難うございました。

◎上級日本語Ⅱ（金 3・4）

- ・留学生の皆さんが電子辞書を片手に論理的文章の勉強、すごく熱心に学んでいた姿勢に感動しました。（中国の方多く、韓国、、、）とても、刺激になりました。有難うございました。

■その他ご意見、ご感想等

- ・自分の学生時代の講義と比べると、先生のお話や資料提示の仕方がとてもいいで「学び」をサポートする体制が整っていることにびっくりします。前回の講義で課題が出たり、1つ1つの質問に答えてくださるシステムなど、言葉は良くないですが、随分過保護だなと感じました。でも、この徹底した指導で、学力向上や意欲向上がはかれるのなら、いい取り組みだと思います。
- ・テーブルの中からPCを出し、立ち上げ、それによって授業が進められるという、今の授業形態を興味深く体験できました。
- ・授業公開はどんどんやって欲しい。色々な学問分野のあることを、一般市民に知ってもらうことは、国民教養として大事に思う。大学教育の役割の1つに思う。市民への啓蒙を盛んにやって欲しい。明日以降も伺います。
- ・大学院授業の参加もできる機会を作って欲しい。
- ・何十年ぶりに大学の講義を受けました。とても楽しい時間でした。先生ありがとうございました。
また、外部の人が講義を受けるチャンスがあれば良いと思います。久しぶりの講義で、ちょっぴり若返ったような気がしました。
- ・授業公開について偶然新聞で知ることができて、幸いでした。いくつかの授業を参観させていただき、学びの場の現状を知ることが出来ました。ありがとうございました。
- ・大学で、どのようにして、どんな勉強をしているのか気になり、今回参加させていただきました。他の授業も、機会があったら参加させていただきたいと思います。
- ・聴講生になりたい希望を持っていますが、教室の様子が分からなかったので、覗いてみたい興味で参加させていただきました。

- 学生さんと一緒に勉強ができて嬉しかったです。また来たいと思います。
- 授業概要のプリントを用意していただき、以前よりも講義を選びやすくなり、有難いです。
- 人文社会や工学部の授業も受けて良かったです。こちらの方も授業概要の説明文があれば助かりました。来年も是非来たいと思います。有難うございました。
- GB11 を参観しようとしたが、GB11 教室が無人で、参観者受付に休講・教室変更を調べてもらったが、変更・連絡はないとの事でした。結局参観できずに終わりました。朝早くから授業内容に興味あって楽しみにして来校したのに、わりきれない気持ちでいます。
(先生に確認したところ、各自で新聞記事からの事例調査の為、教室には集合せず。
問い合わせいただいた来校者には、その旨連絡済み。)
- テキストがないのでとなりの学生さんに迷惑かけて申し訳ない・・・前もってプリントやテキストのコピーをお願いできたらうれしいです。(2 回目以降の参加では、テキストのコピーをいただきました。) 見学者扱いか、参加者か、その授業によって変わるのですね。見学も良いけれど、参加型も良いですね。
- 学生も自分でメリハリを付けようと習得していないと、折角の学びの時間もダラけそう。私はちょい暇がくつつきそう。先生に失礼なので頑張りました。
- 学生さん達の授業に対する姿勢、それに対して先生方の工夫した教え方に目からウロコで感動(感激した日でした。有難うございました。(語学に関しては、少し勉強してから受けてみたいです。))

(農学部授業公開に関して)

- 郵送された案内だけでは、最初にどこで受付したらいいかも分からず迷います。
教室に行くのに、迷いました。学生等の案内図もあると助かります。
- 案内に、農学部の予定表も入れて欲しかった。学生の方が親切に場所を教えてくれた。見学したい所に行ったが、後ろまで生徒がいたため入れなかった。
- 学内がとても広く、地図を見ても分からなくなってしまったので、立て看板などがもっとあったら良いと思った。



教育推進連携部門

教育推進連携部門会議委員名簿

(平成26年6月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	松 川 倫 明	工学部
副部門長	阿久津 洋 巳	教育学部
専任教員	脇 野 博	教育推進機構
	尾 中 夏 美	教育推進機構
	江 本 理 恵	教育推進機構
兼務教員	阿久津 洋 巳	教育学部
各学部選出教員	白 倉 孝 行	人文社会科学部
	清 水 茂 幸	教育学部
	嶋 田 和 明	工学部
	國 崎 貴 嗣	農学部
学務課長	太 野 昭 彦	学務部
教務企画課長	山 崎 義 夫	学務部
部門長が必要と認めた者	菊 池 孝 美	人文社会科学部
	尾 臺 喜 孝	人文社会科学部
	小 林 悟	工学部
	山 田 美 和	農学部

活動報告

部門長 松川 倫明

1. 専門基礎教育の充実にに向けた取り組み

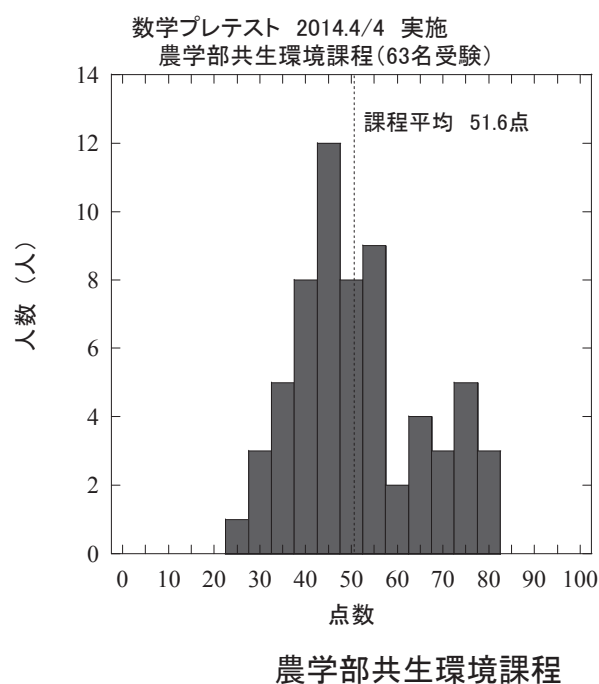
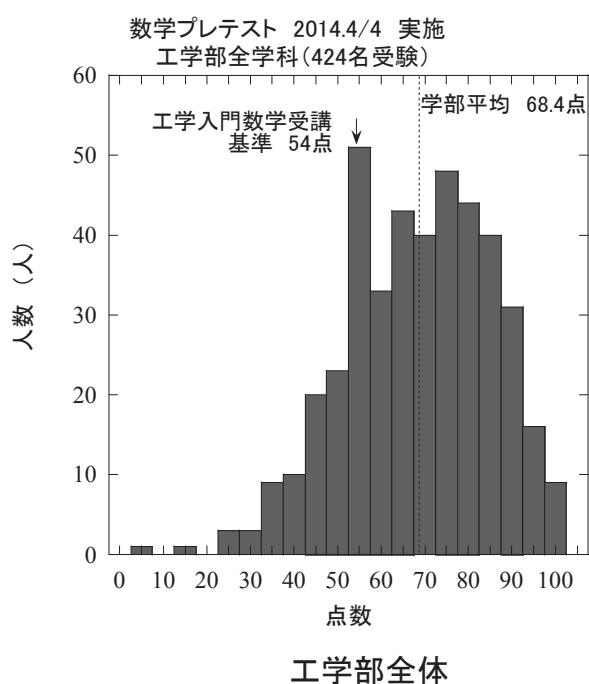
今年度は、専門基礎教育の充実に向けて以下の取り組みを実施した。

(1) 数学プレースメントテストの実施

工学部5学科および農学部共生環境課程の新入生を対象に、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ・数学B、数学Ⅲの履修状況及び学力を把握する目的で、試験時間1時間（問題数27問）の筆記試験を実施した。実施した試験結果を工学部・農学部教務委員及び専門基礎・数学担当教員に報告し、補強教育の対象者の抽出や数学関連授業科目の履修指導に活用した。

・実施日時：平成26年4月4日（金）15：30～17：00（Pre-TOEFL試験終了後に実施）

工学部入学者は全員が受験しており、学部平均は、68点（100点満点）であり、得点分布はほぼ正規分布に近いものである。なお、今年度は54点を基準に補習授業の受講者を抽出した。以下に工学部と農学部の得点分布を示す。



「分析結果の概要」

- ・平均点のバラツキは小さく、最高69.6（機械）最低66.9（社会環境）平均68.4である。得点分布は、学科により特徴が異なる。正規分布に近いもの（電気情報）や二極化型（応化生命）のものがある。
- ・分野別の得点分布を調べると、数Ⅲの得点率が得点順位を支配している。

- ・農学部共生環境課程のデータと比較すると、学部平均値が17点高い。これは、数Ⅲを履修していないこと、または入試科目にないことに関係していると思われる。
- ・偏差値の近い大学のデータ（非公表）と比較すると、平均点や得点分布はよく似ている。

（２）専門基礎科目数学の習熟度別クラス編成及びクォータ科目化に関する学生の意識調査

専門基礎科目の習熟度別クラス編成と短期集中型授業方式に関する調査を、工学部全学科を対象に実施した。調査結果の一部を以下に示した。

・調査期間：前期開講分 7 月，対象科目：微分積分学Ⅰ

「調査結果」

- 「あなたが受講している専門基礎科目でも習熟度別のクラス編成を行った方が良いと思いますか？」

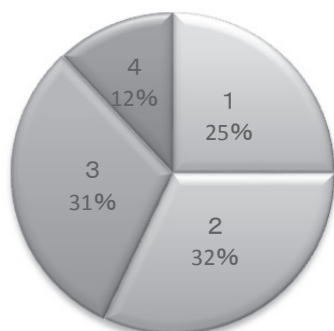
（選択肢：①そう思う ②やや思う ③あまり思わない ④そう思わない）という問いに対して、以下に示すように微分積分学Ⅰは、工学部学生（回答総数373）の6割弱（57%）が、肯定的な回答をしています。学科別のデータを紹介しますと、①応用化学・生命工学科67%，②機械システム工学科62%が上位に位置しています。

- 「補習授業を受講するまたは補習授業を受講しないにかかわらず、微分積分学の授業を短期集中型の方式（6月・7月に週2回開講）で開講することについて、学修効果がある（学力の向上が見込める）と思いますか？」

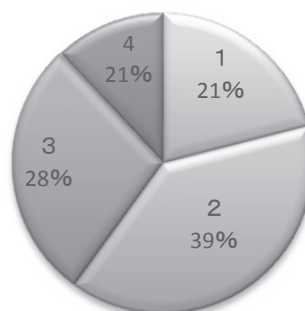
（選択肢：①そう思う ②やや思う ③あまり思わない ④そう思わない）という問いに対して、以下に示すように、工学部学生（回答総数371）の6割（60%）が、肯定的な回答をしています。学科別のデータを紹介しますと、①応用化学・生命工学科69%，②電気電子・情報システム工学科(A) 69%が上位に位置しています。

以上の結果を背景に、これまでの学力分布の均一な学生を対象にした授業形式から多様な学修履歴や学力分布の学生に対する教育システムの構築が必要であり、習熟度別教育や短期集中型の授業形態は、教育の質の保証の観点から導入を検討すべきであると思います。

1. 習熟度別クラス編成



2. 短期集中型授業の学修効果



(3) 入学時の学力との入学後の成績との相関に関する調査

入学時に数学プレースメントテストにより測定した数学の基礎学力と初年次の微分積分学や線形代数学などの数学科目の成績との相関を調査した。農学部の場合は、数学プレテストと基礎数学（1年前期）の成績の相関は強いことがわかった。工学部の調査は、今後実施していく予定である。

(4) 専門基礎科目授業アンケートの実施

工学部開講の専門基礎科目については、工学部で実施したデータを利用して分析を行い、本部門では農学部開講の専門基礎科目の授業アンケートを実施した。

(5) 専門基礎科目に関する懇談会

以下の日程で専門基礎科目に関する懇談会を開催し、授業担当者や関連した学部の教務委員等と専門基礎科目の充実や質保証に関して意見交換を行った。

- ・ 数学

日時：平成26年11月13日（木） 16：30～17：58（参加者13名）

- ・ 物理学・化学

日時：平成26年11月14日（金） 16：30～17：56（参加者14名）

2. 学事暦の柔軟化の検討

教育効果やグローバル対応の観点から学事暦の柔軟化の検討を行った。

工学部マテリアル工学科では試行的に平成27年度からクォータ科目を6科目導入し、授業アンケートや成績等の分析を行い、短期集中型授業の教育効果を検証する。その結果を踏まえ、工学部において平成28年度以降、微分積分学に本格的にクォータ制を導入する予定である。

2014 習熟度別クラス編成に関する工学部学生の意識調査 微分積分学

1. あなたが受講している数学科目でも習熟度別のクラス編成を行った方が適当だと思いますか？

学科	応化生命		マテリアル		電気情報A		電気情報B		機械		社会環境		学部	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
①そう思う	19	32	10	19	16	29	13	23	23	27	12	19	93	25
②やや思う	21	35	16	30	16	29	20	36	30	35	15	24	118	32
③あまり思わない	17	28	14	26	16	29	18	32	23	27	29	46	117	31
④そう思わない	3	5	14	26	7	13	5	9	9	11	7	11	45	12
回答総数	60	100	54	100	55	100	56	100	85	100	63	100	373	100

2. あなたが受講している数学科目において習熟度別のクラス編成を実施する場合に、数学プレースメントテストの成績を利用して実施することについて適当だと思いますか？

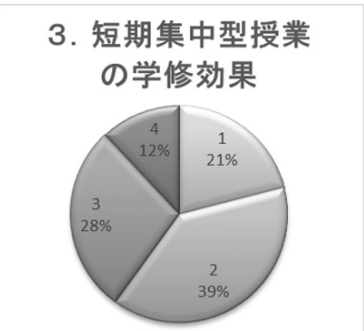
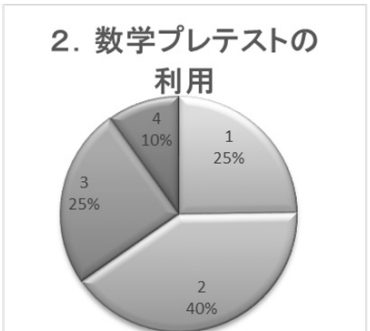
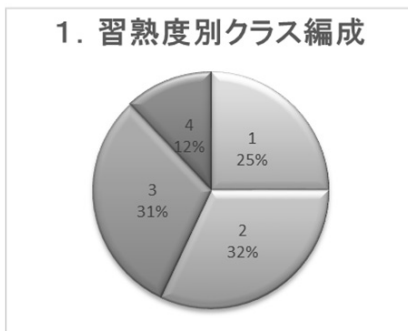
学科	応化生命		マテリアル		電気情報A		電気情報B		機械		社会環境		学部	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
①そう思う	16	27	9	17	17	31	11	20	26	31	13	21	92	25
②やや思う	29	48	21	39	21	38	25	45	31	36	25	40	152	41
③あまり思わない	14	23	13	24	12	22	11	20	22	26	20	32	92	25
④そう思わない	1	2	11	20	5	9	9	16	6	7	5	8	37	10
回答総数	60	100	54	100	55	100	56	100	85	100	63	100	373	100

3. 補習授業を受講するまたは補習授業を受講しないにかかわらず、微分積分学の授業を短期集中型の方式(6月・7月に週2回開講)で開講することについて、学修効果がある(学力の向上が見込める)と思いますか？

学科	応化生命		マテリアル		電気情報A		電気情報B		機械		社会環境		学部	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
①そう思う	13	22	10	19	16	30	9	16	19	23	11	17	78	21
②やや思う	28	47	16	30	21	39	18	32	31	37	29	46	143	39
③あまり思わない	14	23	19	35	16	30	22	39	21	25	13	21	105	28
④そう思わない	5	8	9	17	1	2	7	13	13	15	10	16	45	12
回答総数	60	100	54	100	54	100	56	100	84	100	63	100	371	100

不明 1

不明 1



・「あなたが受講している専門基礎科目でも習熟度別のクラス編成を行った方が良いと思いますか？」

微分積分学Ⅰは、工学部学生(回答総数 373)の6割弱(57%)が、肯定的な回答をしています。学科別のデータを紹介しますと、①応用化学・生命工学科 67%、②機械システム工学科 62%が上位に位置しています。

・「補習授業を受講するまたは補習授業を受講しないにかかわらず、微分積分学の授業を短期集中型の方式(6月・7月に週2回開講)で開講することについて、学修効果がある(学力の向上が見込める)と思いますか？」

工学部学生(回答総数 371)の6割(60%)が、肯定的な回答をしています。学科別のデータを紹介しますと、①応用化学・生命工学科 69%、②電気電子・情報システム工学科(A) 69%が上位に位置しています。

以上の結果を背景に、これまでの学力分布の均一な学生を対象にした授業形式から多様な学修履歴や学力分布の学生に対する教育システムの構築が必要であり、習熟度別教育や短期集中型の授業形態は、教育の質の保証の観点から導入を検討すべきであると思います。

自由記載欄

「専門基礎科目の習熟度別クラス編成や短期集中型の授業方式について、あなたの意見や考えを自由に書いてください。」

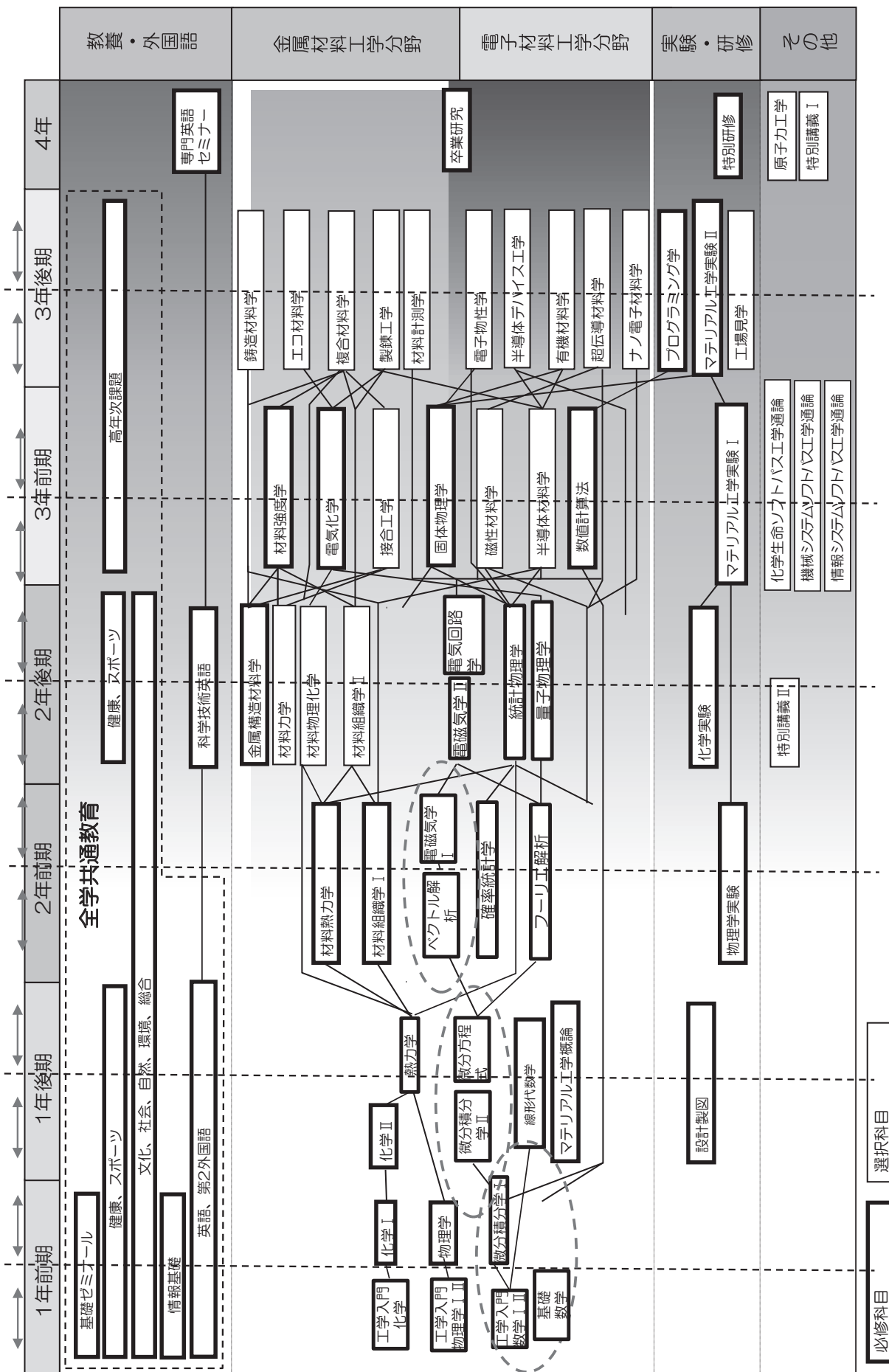
- ・後期も補習を行ってほしい。
- ・短期集中だと自分は覚えられたのでいいと思います。
- ・高校レベルの微分（合成関数の微分）など忘れている人がいたので、これは授業というより単純にプリントを渡して解かせる方がいいのではないかな。
- ・クラス編成すると気分が下がるからいらない。
- ・特にクラス編成をする必要はないと思う。
- ・各自、学習をすればいい。
- ・人間はクラス分けされたらそれに従ってしまうので、安易なクラス編成はするべきではない。結局は本人のやる気次第。他大学の真似しかできないのかと思う。独自のカリキュラムでも考えたらどうか。
- ・学力向上に効果的でありそうだが、そのクラスに合った指導を賜れるか甚だ疑問
- ・レベルに合わせてクラスを分けてほしいです。
- ・現在、工学入門数学を受講していますが、授業の復習になり、理解がとても深まるため、とても重宝しています。前期だけの開講ではなく、後期の微分積分学Ⅱも補講を開いてほしいです。後期の微分積分学Ⅱは今よりも少し難しくなると聞きます。それならなおさら、補講を通して理解を深めたいのです。ご検討の程、宜しくお願いします。
- ・全員学ぶ範囲が一緒なら習熟度別クラスにする必要はないと思う。
- ・習熟度別クラスにより、個々人が成績を上げられる。下位クラスなどの底上げもしやすいと思う。
- ・すいせんの人達は極力、工学入門を受けさせた方がいいと思った。
- ・数学は苦手であったので専門基礎科目の線形代数と微積の授業についていくのが大変であったが、数学入門を受講したおかげでなんとか授業を理解することができたので、上記のような習熟度別のクラス編成は有効だと思います。また、友人の中には数ⅢCを高校時代に高校の授業の進行の関係であまりきちんと学んでおらずとても苦労している人もいたので、全員に同じレベルの授業を実施するのは少し乱暴ではないかと思いました。
- ・科目の習熟というものは学生のやる気に起因されるものだと思うので、効果が出るのはしっかり学ぼうとする学生になるかと思う。
- ・習熟度別クラス編成：今も2クラスに分かれているので、どうせなら習熟度別にした方が学生はレベルに合わせて理解しやすくなるだろう。ただ、今でも十分に理解できるほど、丁寧な授業なので、必要はない。

短期集中型の授業方式：十分に復習する時間をとるべきだから、週1回が適切。

私は入学してから未だに学習ペースをつかめていないので、現状がよい。

- ・短期集中の方式の方が習熟度も高くなると思う。
- ・上級と初級で単位が同じなのが不公平。上級の人には何かボーナスがあっていいと思う。入学初めのテスト一回で補講を決められるのはどうかと思う。
- ・短期集中型と従来の平行な授業方法のどちらを受けるか、人それぞれが選択できるような仕組みが理想だと思います。
- ・編成をすることで、自分のレベルにあった授業を受けることができるので、と思います。
- ・入門数学が無かったら全く授業についていけないので、後期も補習をうけたい。
- ・レベルごとに進み、レベルが変わるのが良い。

マテリアル工学科 カリキュラムマップ クォーター科目化の検討



専門基礎科目に関する懇談会(数学)メモ

日時：平成26年11月13日(木) 16:30～17:58

場所：学生センターA棟 会議室

【出席者】

教育推進連携部門長：松川倫明

教育推進連携副部門長：阿久津洋巳

教育推進機構長：丸山 仁

人文社会科学部：白倉孝行、尾臺喜孝、川崎秀二

工学部：嶋田和明、藤本忠博、萩原義浩

農学部：國崎貴嗣、山本清仁

教育推進機構：脇野 博、江本理恵

(計13名)

議題に先立ち、教育推進連携部門長から、懇談会開催の趣旨について説明があり、議題に沿って以下のとおり意見交換を行った。

議題1 専門基礎科目の開講状況、クラスサイズ、再履修クラス、TAの活用について

- ・線形代数学のクラスサイズについて、今年は再履修者が少なかった。他学科を受けられないように変更したため、クラスサイズが大きくならずにすんだのではないかと。再履修者が少なかった理由については不明。クラスサイズが大きくて困るという問題は解消された。
- ・10クラスあったが、TAが6名採用だったため、TAのいるクラスといないクラスがあった。
- ・TAにはパソコンの設置や片付け、レポートの集計チェックを担当してもらっている。
- ・可能ならば、担当コマ数と同じ人数のTAを採用して欲しいとの要望があった。
- ・TAは工学部の各学科から選ばれているが、必ずしも数学が得意な学生が選ばれている訳ではない。

議題2 工学部数学習熟度別クラス編成及びクォータ科目化に関する調査結果について

資料4に基づき、意識調査について説明。数学プレースメントの有効性について。なお、自由記載欄については、後で見たいとの説明があった。

議題3 数学プレースメントテストの実施結果及び入学後の成績との相関の調査について

教育推進連携部門長から、数学プレースメントテスト実施結果について説明があった。

- ・数学プレースメントテストは平成26年度から開始された。
- ・希望があれば、教育学部の理数系教育課程の学生を対象に受けさせてみてはどうか。
- ・数学プレースメントテストの結果を今後調査等に活用したい。
- ・基礎数学入門の受けた効果については、今後、調査を行っていきたい。

議題4 クォータ制及びeラーニング教育の他大学での取り組みの調査について

教育推進連携部門長から、資料5に基づき、工学部のクォータ科目の導入について説明があった。

- ・平成28年度以降、微分積分学に本格的にクォータ制を導入する。
- ・マテリアル工学科では試行的に平成27年度からクォータ科目を6科目導入する。
担当の非常勤講師には、クォータ科目の話をしており、了承は得ている。
- ・人文社会科学部の数学担当としては、クォータ制を平成27年度から導入することは難しい。平成28年度以降については、検討が必要とのこと。
- ・クォータ制導入については、人文社会科学部の担当教員が少なく、他の講義に影響が出てくる。常勤だけの対応は難しい。
- ・習熟度別のクラス編成を行うと、学科単位になるため、担当教員の人数が足りなくなるかもしれない。
- ・入門科目を落としてしまった場合、次の科目はどうなるか。
- ・再履修の自由度が低くなる可能性があるのではないか。
- ・必修科目のうち片方でも落としてしまったら、留年が決まってしまうのでは。
- ・工学部の一部学科では、今年からクォータ制を導入している科目がある、学生の学力向上については、まだ結果が分からない。
- ・短期集中型の講義のメリット・デメリットは何か。
- ・ある一定のレベルを目標とする場合、短期集中型は効率的である。デメリットは講義が終わったあとの継続や、知識の定着が難しい。時間をかけた方が定着するのでは。
- ・短期集中型の講義では課題をどうしているか。
- ・講義の間が短い(週2回開講など)で、あまり出すことができない。
- ・講義の中で課題をやらせることもいいのかもしれない。
- ・週1回の講義では、学生が授業内容を忘れることもあるので、短期集中型も効果的かもしれない。短期の場合、科目の接続があればよいのではないか。
- ・入門科目を落としたら、次の科目は受けられないのか。
- ・現在のところ、卒業要件ではないので、不可でも次の科目は受けられる。
- ・入門科目修了が授業条件になっている場合はどうなるか。
- ・今後はそのように変わっていくのではないか。

議題5 専門基礎教育部門の設置について

教育推進連携部門長から、教育推進機構会議で話題になった専門基礎教育部門について説明があった。科目の調整は、公式に行われているわけではなく、各学部の科目調整担当者と科目担当者間で個別に決められているので、調整をスムーズに出来るような公式な部門が必要ではないかとの意見があったとの説明が行われた。

- ・担当者によって講義内容が異なるという問題がある。
- ・農学部では、毎年、人文社会科学部の教員と会合を持ち、現状をふまえ次年度はどのようにするか確認を行っている。
- ・担当者が変わる度に、調整の仕方が変更になるなどの問題が発生するので、このような公的な部門があっても良いのではないか。
- ・平成26年度は暫定的に1クラスで農学の教員だけで基礎数学を開講しているが、今後、2クラス開講になり、人社の先生にお願いすることになるかもしれない。
- ・本懇談会としては、部門の設置を要請したい。
- ・理工系教育研究基盤センターとの関係はどのようになるのか。
- ・全学の機関と、工学部の機関と分かれているので問題ないのでは。
- ・今後、窓口がどこになるのか整理した方が良いのではないか。

議題 6 「行列」の未履修とその対策について

- ・平成 27 年度から、高等学校「行列」を履修していない学生が入学する。
- ・「行列」を学んでいない学生に線形代数を教えることは難しいのではないか。
- ・工学部では、基礎数学Ⅰ（1 単位）を前期の前半に開講する。
- ・農学部では、現在開講している基礎数学入門の中で対応出来るのではとの考えであり、特別の対応策は考えられていない。
- ・工学部では前期で基礎数学入門を履修させ、後期に線形代数入門を受講させる。
- ・現在の農学部の基礎数学入門（15 回）の中で、「行列」も教えることは可能なのか。
- ・農学部では、前半の 7 回で微分積分を教えており、後半の 7 回で線形代数を教えている。
- ・工学部は今まで前期に開講していた線形代数学を、平成 27 年度は後期に開講する予定であり、人文社会科学部担当者と協議するとのこと。

議題 7 その他

- ・丸山副学長から、人文社会科学部の補充人事について情報提供があった。現在、人社の学生定員が決定していないので、教員定員も未定である。平成 28 年度の改組を優先して人事が考えられているため、現在の人事については未定の状態とのこと。緊急性の高いものについては、検討されることもある。
- ・専門基礎部門については、理工系教育研究基盤センターとの関係やどのようなメンバーで、どのような議論を行うかを考えていく必要がある。

専門基礎科目に関する懇談会(物理学・化学)メモ

日時：平成26年11月14日（金） 16：30～17：56

場所：学生センターA棟 会議室

【出席者】

教育推進連携部門長：松川倫明

人文社会科学部：白倉孝行、花見仁史、西崎 滋、石垣 剛、北爪英一

工学部：嶋田和明、成田晋也、山本英和、横田政昌、宇井幸一

農学部：國崎貴嗣、山下哲郎

教育推進機構：脇野 博

（計14名）

議題に先立ち、教育推進連携部門長から、懇談会開催の趣旨について説明があり、議題に沿って以下のとおり意見交換を行った。

議題1 専門基礎科目の開講状況、クラスサイズ、再履修クラス、TAの活用について
資料2に基づき、専門基礎科目のクラスサイズについて確認を行った。

- ・ 人社の物理関係科目では、クラスサイズについては特に問題はない。機器を使う実験では少し大変である。
- ・ 農学部、物理学入門、電磁気学、熱力学の2クラス開講、受講人数は10数名程度なので来年度からどうするか。クラスサイズが小さいので隔年開講にすることは可能か。農学部の担当者と協議したい。
- ・ 物理学実験に農学部の受講生と一緒に受講させてはどうか。
- ・ 全部で受講生が100名程度になってしまうので、大変ではないか。
- ・ 工学部と農学部の物理関係科目では、内容が少し異なるのではないか。
- ・ 農学部の受講生を工学部に混ぜるのは、慎重に考えて方がいいのではないか。（人数だけの問題ではなく、講義内容についても考える必要がある）
- ・ 農学部では、専門基礎科目の履修方法が変更となった。現在は、色々な分野の理科科目を取るように指導している。
- ・ 農学部では化学や生物分野をとる学生が多い。
- ・ 工学部の立場としても、重複科目については工学部・農学部の学生が履修することは賛成である。
- ・ 人文社会科学部の化学についてもクラスサイズに問題はないと思われる。
- ・ 農学部の化学入門は、センター試験を化学で選択していない学生を対象としている。位置づけとしては高大接続科目としている。
- ・ 農学部では化学入門と化学が前期に開講されているが、履修はどちらか一方だけで良いのか。
- ・ 化学入門はリメディアル科目なので、学習が遅れている学生を対象としている。
- ・ 農学部では、理科科目を履修する場合、入試で選択していない科目を選ぶ時は、入門科目から受講するように指導している。
- ・ 学生の習熟度に差がある理由は、入試の時点で該当する理科科目を選んでいるかいないかが関係してくる。
- ・ 農学部では、化学を必要とする課程は限られているので、化学入門を受けた後で化学に

関する科目を履修する学生は限られている。

- ・入試で生物を選択する学生が多く、化学の講義を理解できていない学生も多い。
- ・平成26年度に人社で開講されている「物理学入門」のシラバスの内容についてだが、力学だけでなく電磁気学も学習範囲に入っている。力学までの学習で良いのではないか。
- ・物理学の学習内容について、力学に限定するなど検討して欲しい。
- ・以前、工学部から電磁気学も範囲に入れて欲しいとの要望があったため、現在は力学と電磁気学を学習している。
- ・講義の関係上、現状では力学を重点的に扱って、電磁気学はこのようなものがあると教える程度になっている。
- ・現在の講義では電磁気学の分野も無理して教えているので、教える範囲をはっきりして欲しい。電磁気学が不要ならば、力学を充実させたいと考えている。
- ・学科単位等もよいので、工学部で学習内容と到達目標を決めて欲しい。
- ・TAについて、就活等で勤務できない日があったりするので、同じ研究室の学生にお願いするなど、ケアをお願いしたい。
- ・3月頃、なかなかTAの連絡がこないで、早めに連絡が欲しい。
- ・学部間の重複する科目については、必修でない科目や学力が同程度の科目については受講生数がすくないもの等、学部間で連携して開講する。
- ・人社の北爪教授が平成27年3月で退職となる。
- ・来年度の非常勤講師は、河田非常勤講師と吉村非常勤講師にお願いする予定である。

議題2 工学部数学習熟度別クラス編成及びクォータ科目化に関する調査結果について

教育推進連携部門張から、資料4に基づき、習熟度別クラス編成に関する工学部生の意識調査について説明があった。また、資料5に基づき、クォータ科目化について説明があった。

議題3 数学プレースメントテストの実施結果及び入学後の成績との相関の調査について

- ・平成25年度は物理学と化学についても習熟度別アンケートを行っていたが、平成26年度は数学科目でのみアンケートを実施した。
- ・クォータ科目化について、前半にリメディアル学習、後半に正規の授業を行うことについて、学生にアンケートを行ったところ、6割の学生が肯定的な回答をしていたとの説明があった。科目によっては、クォータ化も有効ではないか。

議題4 クォータ制及びe-ラーニング教育の他大学での取り組みの調査について

- ・工学部の微分積分学を今後、クォータ科目化したいと考えている。
- ・工学部では、クォータ科目化で教育効果の出そうな科目を検討し、平成27年度から試行することとなった。問題点を整理し、平成28年度から本格的に導入する。

議題5 専門基礎教育部門の設置について

- ・専門基礎科目の調整を、学部間の担当者同士の非公式な調整ではなく、公式的な調整にしたい。
- ・担当者によって、学習内容が異なるという問題が起きたことがあった。
- ・教育推進連携部門では、専門基礎科目懇談会は実施しているが、科目の調整は行っていないので、専門基礎教育部門を設置し、全学としての調整を行った方が望ましいので

はないか。

- ・専門基礎教育部門では担当を相談するのか、内容を相談するのか。
- ・専門基礎科目については、学部基礎専門として位置づけて到達段階等を設置して欲しい。
- ・専門基礎科目をどのようにするか、全学で共通の議論とした方がよいのではないか。
- ・大学として、共通の到達目標等を決めた方がよいのではないか。
- ・教育推進連携部門の中で、懇談会で出てきた問題を検討したい。

議題6 その他

なし

平成26年度学習会等実施報告

平成26年度は、FD学習会として、以下の2つを実施しました。農学部FD講演会は、農学部より依頼を受けて、講師の選定他、開催に向けてのご協力をさせていただきました。研究倫理教育については、将来的に科研費等の外部研究費の交付を受けるにあたって必修化が予定されており、学内の教職員の関心も高く、多くの先生方に来ていただくことができました。また、長崎大学の川越先生から話題提供いただいた学修成果のアセスメントの実施方策等については、今後の岩手大学での学修評価方法等を考える上で、大変参考になるものでした。

◆岩手大学農学部FD講演会

「研究者に求められる行動規範—すべての研究者にグローバル・スタンダードを！」

日時：平成27年3月4日（水）15：00～17：00

会場：岩手大学農学部総合教育研究棟2階「ぼらんホール」

講師：市川 家國氏（信州大学特任教授/CITIJapan プロジェクト副統括）

（参考）

○CITI Japan プロジェクト概要：<http://www.shinshu-u.ac.jp/project/cjp/>

○日本学術会議：科学者の行動規範：<http://www.scj.go.jp/ja/scj/kihan/>



◆教育推進機構学習会（FD）

「学修成果のアセスメント方法を考える」

日時：平成27年3月9日（月）15：00～17：00

会場：岩手大学図書館1階会議室

話題提供：川越 明日香氏（長崎大学大学教育イノベーションセンター助教）



平成26年度学外の研修等への参加状況一覧

期 日	名 称	主催等	会 場	参加者数
5月16日	第20回東北大学高等教育フォーラム (新時代の大学教育を考える [11]) グローバル人材の育成に向けて	東北大学 高度教養教育・学生 支援機構	仙台国際センター	4名
6月24日	研究倫理シリーズ第1回「盗用と言われない英語論文の執筆―大学教員は何を指導すべきか―」	東北大学 高度教養教育・学生 支援機構	東北大学 川内北キャンパス	2名
7月12日	学士課程教育における電気電子工学分野の参照基準案	日本学術会議	東京大学 本郷キャンパス	1名
7月25日	高度教養教育・学生支援機構発足記念国際シンポジウム「21世紀グローバル世界が求める人間像と教養教育」	東北大学 高度教養教育・学生 支援機構	仙台国際センター	1名
9月10日	教育評価分析センターキックオフセミナー「学修成果検証に基づく教育マネジメントの推進と課題」	東北大学 高度教養教育・学生 支援機構	東北大学 片平キャンパス	1名
9月29日	キャリア教育：「キャリア指導の理論と実践」	東北大学 高度教養教育・学生 支援機構	東北大学 川内北キャンパス	4名
10月17日	教授技術論「認知理論から大学の授業改革を考える」	東北大学 高度教養教育・学生 支援機構	東北大学 川内北キャンパス	1名

平成26年度 岩手大学・いわて高等教育コンソーシアム ファカルティ・ディベロップメント研修会実施報告

1. 目 的

いわて高等教育コンソーシアムとして、教育の質の充実を図るために、大学の理念や目標、教育課程のあり方、教育の内容や方法について教員の共通理解を深めるとともに、日頃接点の少ない他大学の教員相互の意思疎通を図ること、そして、教員自身の「教育者」としての責任を相互に確認することを目的とした教員研修会を実施しています。

大学改革実行プラン等によると、大学のミッションとして、「地域活性化の中核的拠点」としての役割が求められており、地方の大学には地域のニーズに応じた人材育成拠点となることが期待されています。岩手大学も平成25年度に文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択されており、岩手県の高等教育機関が手を携えて岩手の「地（知）の拠点」となることを推進する役割を担っています。今回の研修会では、いわて高等教育コンソーシアム加盟校からの協力をいただいて、「人材育成」に焦点をあて、「地域と共に学生を育てる」教育機関のあり方について議論したいと考えています。



2. 内 容

テーマ：地域と共に学生を育てる大学を目指して

基調講演

「北九州市立大学地域創生学群の挑戦」

北九州市立大学 眞鍋和博氏

話題提供

「岩手医科大学の地域と連携した教育の取り組み」

岩手医科大学医学部 佐藤洋一氏

「岩手県立大学看護学部の地域と連携した教育の取り組み」

岩手県立大学看護学部 遠藤良仁氏

ワークショップテーマ：

1. 地域に貢献できる人材を育成する教育プログラムの考案
2. 地域と協働した授業科目の考案

3. 参加者：岩手大学：30名、岩手県立大学：2名、岩手医科大学：3名、富士大学：4名、盛岡大学：2名、スタッフ：5名（岩手大学）

4. 日 時：平成26年8月21日（木）・22日（金）

5. 場 所：八幡平ハイツ

〒028-7302 岩手県八幡平市八幡平温泉郷

TEL：0195-78-2121 FAX：0195-78-2041

6. 主 催：岩手大学教育推進機構

いわて高等教育コンソーシアムFD・SD連携推進委員会

7. 実施報告

◆基調講演「北九州市立大学地域創生学群の挑戦」

基調講演では、北九州市立大学の眞鍋先生に「北九州市立大学地域創生学群の挑戦」というタイトルで、地域創生学群の様々な取り組みについてお話をいただきました。

地域創生学群では、演習、実習を相互に組み込んだ教育システムを採っており、学生は入学式の後、すぐに地域から寄せられる様々な課題に立ち向かうために地域に出て活動します。この地域実習では、数名から十数名の1年次から3年次までの学生が、グループで、通年、日常的に活動します。眞鍋先生の取り組みは学群内にとどまらず、他学部の学生も受け入れる地域共生教育センターの活動、市内の他大学の学生も受け入れる北九州まなびとESDステーションの活動等、どんどん広がりを見せています。また、この学群の卒業生の就職状況は大変良く、入学試験でも高倍率を維持しています。講演の中では、このような地域創生学群の地域課題のプロジェクトの運用方法や指導体制、それから地域との関係の作り方等について、お話をいただきました。



◆話題提供

話題提供では、岩手医科大学の佐藤先生から「岩手医科大学医学部の地域と連携した教育の取り組み」として、「地域医療教育」の取り組み、岩手県立大学の遠藤先生から「岩手県立大学看護学部の地域と連携した教育の取り組み」として、「看護実践研究センター」の活動について話題提供をいただきました。

医師や看護師などのプロフェッショナルを育てるためには、地域の医療機関等との教育における連携が不可欠ですが、しかし、その連携は必ずしも受け入れ先の医療機関等にとってメリットのあるものではありません。ただでさえ多忙な地域医療の現場では、学生の受入は現場に新たな負担をもたらすと共に、地域医療現場の現状に、地域医療へ進むことを躊躇する学生も出てきている事例もあるそうです。このような現実の前で、どのようにより良い教育連携関係を築くのか、多くの問題を抱えながら、それでも少しでも良い方向に進めるための様々なアプローチが紹介されました。

◆プログラムⅠ

プログラムⅠでは、「地域に貢献できる人材を育成する教育プログラムの考案」というテーマで、地域と連携した副専攻的なサブ教育プログラムを考えていただきました。各グループからは、「人間マネジメント教育プログラム」「公助と自助をコーディネートできる人材育成」「岩手賢人協働教育プログラム」「地域課題発見プログラム」「岩手愛発信プログラム」等、様々な魅力的なプログラムが提案されました。それぞれ特徴のあるプログラムなのですが、共通する項目として、「地域のことを知る」「産業を生み出す」「実際に地域に出向いて問題発見・解決等の活動をする」に相当する内容が含まれていました。



◆プログラムⅡ

プログラムⅡでは、「地域と協働した授業科目の考案」というテーマで、プログラムⅠで考えた教育プログラムの核となる科目を考えていただきました。各グループからは、「地域の安全プロ

グラム」「地域創生プログラム入門」「社長演習」「地域課題発見プログラム」「地域課題解決実践演習」「岩手スイーツ学」「岩手ウルルン滞在記」などの授業科目が提案されました。地域の官公庁等と連携し、問題発見・課題解決を行う授業や、それぞれの大学の特性を活かし、例えば、医大の「地域医療実習」等に他大学他学部からの学生も受け入れ、それぞれの専門性を活かした地域医療という問題への取り組み方を議論する授業などの提案がありました。また、新たに産業を創生することを目指した「社長演習」は、そのネーミングも内容もユニークで、実現が楽しみなところ

です。
今後、学部横断、大学横断の教育プログラムを考案する必要性がでてくるかと思いますが、そのときには、今回のこのプログラム案が役に立つことでしょう。



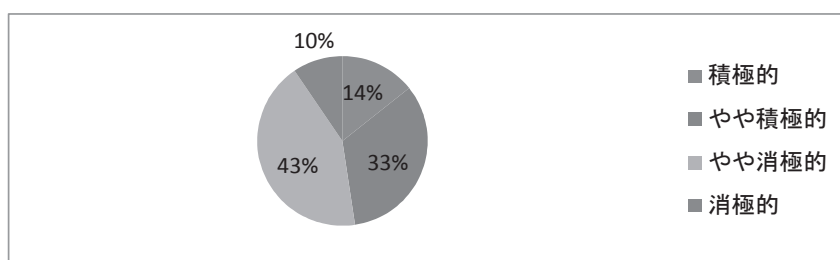
◆ナイトセッション

ナイトセッションでは、3人の先生方から話題提供をいただきました。富士大学の中村先生からは、「富士大学の地域と連携した教育の取り組み」として、花巻市との連携を活かした取り組み、そして、将来に向けての展望をお話いただきました。岩手大学の五味先生からは、「岩大E_codeプロジェクト」の取り組みについてお話をいただきました。岩手医科大学の相澤先生からは、実際にシミュレーターを用いた実習について、演示いただきました。遅い時間にもかかわらず、多くの先生にご参加いただきました。

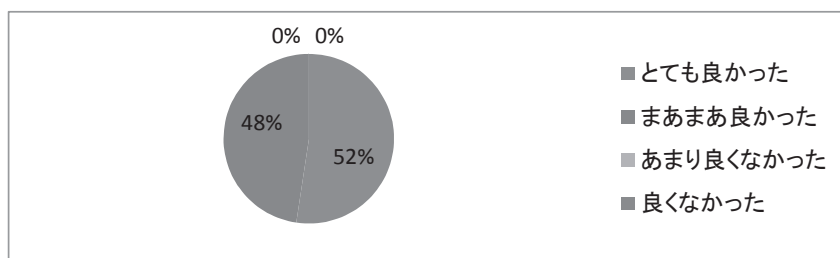


8. アンケート結果

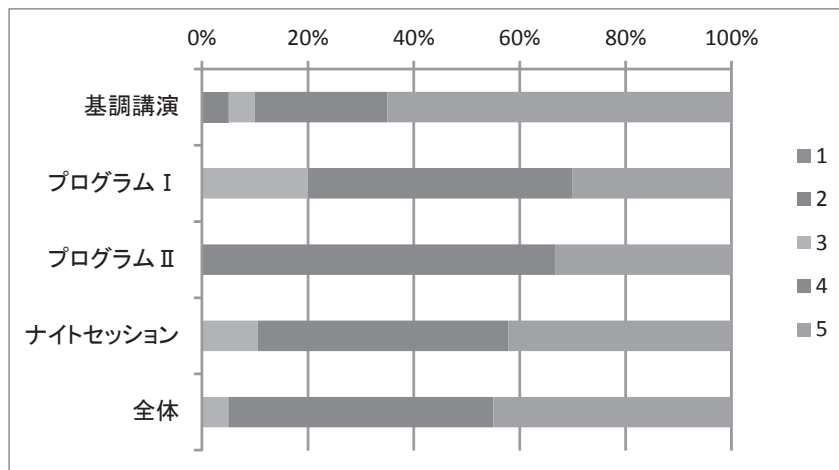
Q. 今回の研修会について、どのような意識で参加されましたか？



Q. 結果的に、今回の研修会に参加して良かったと思いますか？



Q. 今回の研修会の各プログラムについて、5段階で評価し、○で囲んでください。



Q. 感想等

- もう少し近い場所で開催していただきたい。
- 全体のコーディネイト、大変お疲れ様でした。
- あえてですが、
 - 課題に対して時間が少なかった気がします。
 - 時間管理や司会をされる先生方のじっくり話をきく機会が奪われるので、外された方が。
- 大変有意義でした。取り組み方法が具体的で良かったです。ありがとうございました。
- 朝がゆっくりだったのは良かったです。異分野の先生と交流ができて、大変有意義でした。
- プログラムのテーマと準備について、もう少し詳しく事前に教えてほしい。
- プログラムⅡは時間がもう少しあっても良かったと思います。
- 他学部、他大学の方々と交流し、学部ごとの発想の仕方の違い、大学ごとに異なる地域に関わる課題（の一端）を知ることができました。グループ毎にノートパソコンがあった方がよいと思いました。用意するのは厳しいでしょうか。
- 内容が詰まりすぎて、時間が忙しい。
- 事前のアナウンスが不十分と思う。
- 進行の方がちょっと。イラストは不要では？
- プログラムを作る前の説明の資料がないので、FD研修としては足りないのでは？
- 7～8年前の研修以来、久しぶりの参加でしたが、格段におもしろい研修内容になっており、とても有意義でした。
- 次回はIPE

「読書レポート」の作成と提出について

平成26年12月25日
岩手大学教育推進機構

1. 「読書レポート」の目的

この「読書レポート」の作成は、図書を1つの情報資料として読み込み、そこから適切な情報を取り出して、簡潔でわかりやすい文章としてまとめることを通して、本を読むことで「自分の考えを深める」ことのできる力を養うことを目的としています。この力を養うためには、問題関心を深めていくことが重要です。問題関心が深まることによって情報が持っている意味や重要性が的確に捉えられるようになります。

2. 「読書レポート」の作成の仕方

- (1) 課題図書の中から1冊を選び、下記の手順に従って、レポートをまとめます。
- (2) 第1章には、その課題図書を選んだ理由を200字程度にまとめます。
- (3) 第2章には、本の各章ごとの要約文を作ります。以下の手順でまとめてみましょう。
(全体で2,000字程度になるようにまとめます)
- ①本の各章ごとに、キーワードを3つ以内で選びます。
- ②そのキーワードを基に、その章の内容を要約します。

【アドバイス1】選んだ課題図書によって「章」と明記されていないものもありますが、目次を見て、「最も大きなくくり」を「章」としてとらえてみてください。また、「小説」のように「大きなくくり」が明確でないものは、内容の区切りの良いところで「章」を区切ってください。

【アドバイス2】第2章は、選んだ本の「章」に相当する複数の「節」から構成されます。レポートの構成を意識して、見た目にもわかりやすく書いてください。

(例：ウェブ進化論)

第1章 「ウェブ進化論」を選んだ理由

.....文章.....

第2章

1. 序章 ウェブ社会

キーワード：チープ革命、ネット社会、リアル社会

.....文章.....

2. 第1章 「革命」であることの真の意味

キーワード：オープンソース、三大潮流、シリコンバレー

.....文章.....

.....

第3章

.....文章.....

第4章

.....文章.....

第5章

.....文章.....

- (4) 第3章では、その本の内容全体から得られた知識や考え方を総括的にまとめます(400字程度)。ここはあくまでも「本の内容」に沿ってまとめてください。
- (5) 第4章では、著者の主張(本の中で繰り返し書かれている著者の考え方)に対する自分の考えをまとめます(400字程度)。ここは、「自分の考え」を書いてください。
- (6) 最後の章では、次に読んでみたい本の題名や分野を挙げ、その理由をまとめます(200字程度)。理由を書くときには、今回読んだ本との関係を示すのがポイントです。

3. 「読書レポート」作成上のアドバイス

- (1) レポートは、A4版のレポート用紙を使って作成します。原稿用紙でもかまいませんが、枚数が増えてしまいますので、「自分で判断して」選んでください。
- (2) レポートには、「選んだ図書名」「レポートのタイトル」「入学予定学部」「受験番号」「名前」を明記した表紙をつけてください。
- (3) レポートの最初には、「レポートのタイトル」「受験番号」「名前」を明記してください。本文は、章分けをし、小見出しを付け、適宜段落分けをして、丁寧な字で読みやすく作成してください。
- (4) 電子ファイルで作成する場合は、ワープロソフト（ワード、もしくは、一太郎）で作成してください。同じように、(2)の表紙をつけ、(3)の小見出し等をつけて読みやすいレポートを作成してください。
- (5) レポートの各項目について、文字数の目安が指定されています。それよりも極端に長く／短くならないように注意してまとめてください。目安として、2割以内と言われています（1,000字の場合は800～1,200字の範囲内）。
- (6) 上記レポートをまとめるにあたって、「批判的に本を読む」ことを意識してください。本に書かれていることは常に正しいとは限りません。具体的には、以下の手順で考えてみましょう。
 - ①書いてあることの中で、どれが情報の提示で、どこが著者の意見なのかを区別してみましょう。
 - ②提示されている情報（事実）が確かかどうか、確かめる方法を考えます。本やインターネット等を利用して実際に確かめてみましょう。
 - ③著者の考えが踏まえられた事実（根拠）と矛盾していないか、考えてみましょう。
- (7) 1冊の本について「読書レポート」を作成し、提出したら、他の本にも挑戦してみましょう。期限内に提出されたレポートは、何冊分でも受け取ります。
- (8) プレ・アイアシスタント（別紙参照）にアクセスすると、レポート作成のアドバイス等が参照できます。機会があれば、アクセスしてみましょう。

4. 提出期限と提出方法

以下の2つの方法より、都合のよい方を選択して提出してください。提出方法によって提出締め切り日が変わりますが、扱いが変わることはありません。

■方法1：プレ・アイアシスタント（別紙参照）を利用して提出

岩手大学が用意した入学前の生徒専用のe-Learningサイト（<http://pre-ia.iwate-u.ac.jp/>）にアクセスして、ワープロソフト（Word、一太郎等）を用いて作成したレポートを提出してください。この「プレ・アイアシスタント」には、岩手大学の教員によるレポート作成に関するアドバイスや図書の紹介などが随時掲載されていきます。ぜひ、積極的にアクセスし、読書レポートの作成に役立ててください。

提出期限：平成27年2月16日（月） 23：00

■方法2：郵送で提出

郵送で提出する場合には、レポートを下記の宛先まで送ってください。

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-34

岩手大学 教育推進機構

※「読書レポート在中」と封筒の表面に赤字で記入すること。

提出期限：平成27年2月13日（金） （消印有効）

入学前教育専用サイト プレ・アイアシスタントについて

岩手大学教育推進機構

岩手大学では、AO・推薦入試で合格した生徒専用のe-Learningサイト「プレ・アイアシスタント」を用意しました。このサイトからは、岩手大学の教員からの読書レポート作成上のアドバイス「課題図書一覧」や、高校生の間にぜひ読んでおいてもらいたい本の紹介「おすすめの本」などの情報が提供されます。英語や数学のe-Learning教材も提供されます。また、同じく推薦入試で合格した生徒同士で読んだ本を紹介する「図書紹介カード」もあります。さらに、岩手大学で開講されている科目のシラバス（授業計画）も閲覧することができます。

ぜひ、このプレ・アイアシスタントを積極的に活用して、入学式までの限られた期間を有益に過ごしてください。

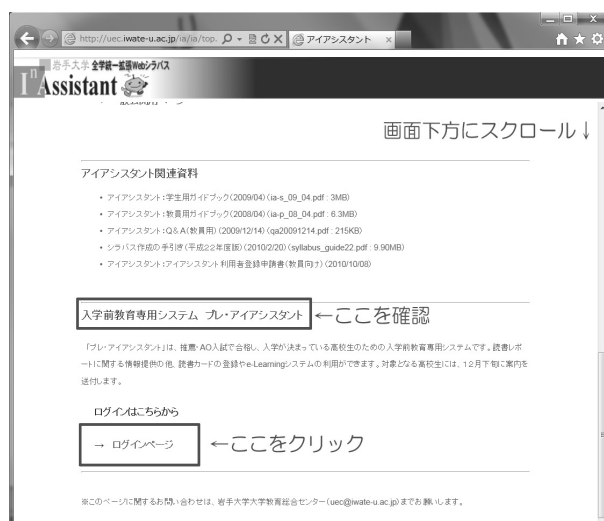
■ログイン方法

- (1) インターネットに接続されたパソコンのブラウザ（インターネット・エクスプローラーなど）を開いて、岩手大学のホームページ（<http://www.iwate-u.ac.jp/>）にアクセスします。画面右側の下の方に、「アイアシスタント」のロゴがあるので、そこをクリックします。



- (2) ロゴをクリックすると、「アイアシスタント」のページが表示されます。このページをスクロールした下の方に、入学前教育専用システム「プレ・アイアシスタント」への紹介部分があるので、その「ログインページ」をクリックします。

「アイアシスタント」へのリンクをクリックしてもログインできません。注意してください。



- (3) 右のようなログイン画面が表示されます。ログイン名、パスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックします。



※お使いのパソコンの設定等によって、上記とは違う画面表示になる場合があります。

■ログイン名・パスワードの発行ルール

ログイン名：受験番号（例：A0001）

パスワード：誕生日より以下のルールで発生させています。
※ログイン名、パスワードともに「半角英数字」です。

○人文社会科学部（推薦入試合格者）の場合

*1991年生まれの場合

→a991+誕生日の4桁表示

（例：1991年4月20日生まれ → a9910420）

*1992年生まれの場合

→a992+誕生日の4桁表示

（例：1992年2月1日生まれ → a9920201）

最初のアルファベット1文字は、以下の通りになります。

a：人文社会科学部 b：教育学部 c：工学部 d：農学部 q：AO合格者

ログイン時には大文字・小文字・全角・半角に注意しましょう！

- (3) ログイン後、わからないことがあったら、タイトルの横にある？マークをクリックしてみましょう。解説が表示されます。また、入学前教育の課題の内容等に関することについては、「質問カード」を使って質問することもできます。ただし、入学後の諸手続（学生寮、奨学金、各種手続きに必要な書類等）に関する問い合わせは、担当部署へお願いします。

入学前教育についてのお問い合わせは、こちらへ。

〒020-8550

岩手県盛岡市上田3-18-34

岩手大学 教育推進機構（受付窓口）

TEL:019-621-6554/FAX:019-621-6928

※受付時間：平日10:00～17:00

（12:00～13:00は昼休み、12/29～1/2は冬期休業期間）

■読書レポート提出手順

- (1) 「プレ・アイアシスタント」にログインしたら、課題一覧の中から、自分が選択した本の名称をクリックします。

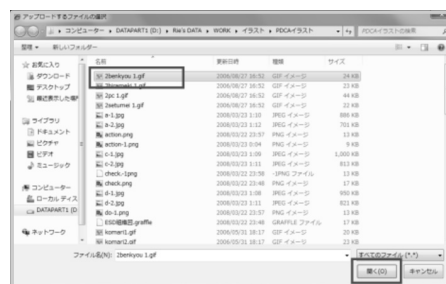
※画面例は「フィンランド豊かさのメソッド」で作成してありますが、ご自分が選択した課題図書のパージから提出してください。間違えて提出した場合、コメントを返すことができない場合があります。ご了承ください。



- (2) 課題図書別ページの下の方に、提出欄があります。提出欄の【参照】ボタンをクリックしてください。



- (3) ファイル選択のための画面が開きますので、提出するファイルを選択して、【開く】ボタンをクリックしてください。このとき、レポートをワープロソフトで作成した場合は、完全にソフトを終了させてください。



- (4) ファイル名が表示されたら、①【アップロード】ボタンをクリックし、その後、②【提出】ボタンをクリックします。この【提出】ボタンをクリックして提出しない場合は、「未提出」扱いになりますので、ご注意ください。



- (5) 提出できた場合、トップ画面の課題一覧の欄にピンク色の○が表示されます。ピンクの○が表示されているのをご確認ください。



※レポートに対するコメント等もこの欄から返却します。
レポート提出後も、時々アクセスしてください。

入学前教育課題図書一覧

2014/12/26
教育推進機構

『タテ社会の人間関係―単一社会の理論』(講談社現代新書) 中根千枝(著)

【内容紹介】

「日本論」の不朽の名著。出版から半世紀近く、現代の日本は欧米化が進んだといわれるが、今読んでも全く古くは感じられない。それは「単一性」という社会の特徴が根本的なところではあまり変化していないからだろう。先輩・後輩関係、場による集団帰属意識(「ウチ」)、「ヨソ」との関わり方から政治家・学者らの非論理的・感情的発言まで、様々な問題が幅広く取り上げられており、現代日本社会に興味のある人には必読の教養書といえる。(人文社会科学部教員)

『希望のつくり方』(岩波新書) 玄田有史(著)

【内容紹介】

本書は東京大学の研究プロジェクト「希望学」の成果を一般向けにわかりやすくまとめたものである。「希望」とは何か。個人レベルにとどまらず、社会レベルでの希望についても考察している。希望は与えられるものではなく、自らつくり出すものという著者のメッセージ。そして、どうすればそれを自分(自分たち)でつくれるのか、そのヒントが述べられている。希望と社会との関係を発見するための聞き取り調査では、岩手県釜石市がフィールドとして取り上げられている。(人文社会科学部教員)

『誰が「知」を独占するのか―デジタルアーカイブ戦争』(集英社新書) 福井健策(著)

【内容紹介】

デジタル・アーカイブとは、著作物をデジタル化したものの集合である。その内容(コンテンツ)としては、まず従来は図書館の守備範囲だった本、論文などの文書、それから音楽、映画などの芸術作品などが思い浮かぶ。また、美術館、博物館の守備範囲だった絵画、彫刻などの芸術作品、歴史的資料、さらには文書館の守備範囲だった公文書も含まれ、きわめて広範囲な概念と言える。インターネット技術の発展により、デジタル・アーカイブが私たちにあって身近になり便利になったが、そこには大きな問題も潜んでいる。本書では、その現状をわかりやすく説明している。(人文社会科学部教員)

『働くということ グローバル化と労働の新しい意味』(中公新書) ロナルド・ドーア著

【内容紹介】

日本の経済および社会構造の研究で知られるイギリス人社会学者による労働論。

資本主義諸国において働くということはどういうことなのかを歴史的、社会的文脈のなかで考察する。20世紀から21世紀へと向かうグローバル化の流れがもたらしたいっそうの市場競争への志向は、職場組織、産業構造、企業経営から社会的価値観、文化・教育にまで及び、働くということを流動化、多様化させるようなものであった。その結果として出てきた格差や不平等の問題など社会が向き合うべき問題についても、市場志向の個人主義という現今の社会的規範も含めて多面的に考察している。(人文社会科学部教員)

『民主主義という不思議な仕組み』(ちくまプリマー新書) 佐々木毅(著)

【内容紹介】

「民主主義って当たり前！」と思う人が多いかもしれないが、古代ギリシアで誕生したポリスの民主政と近代、現代の民主主義ではその仕組みは大きく異なることはおわかりだろうか。この書籍では、古代から現代に至る歴史的背景を平易でわかりやすく解説した後、現代の代表制にもとづく民主制を「みなしの積み重ね」という著者独自の切り口で語り、現在の政治課題も分析がなされている。学部如何を問わず、日本の政治に興味のある学生には入門書として是非とも読んでいただきたい書籍である。(教育学部教員)

『美しく怒れ』(角川oneテーマ21) 岡本太郎(著)

【内容紹介】

「芸術は爆発だ！」という鮮烈な言葉、そして1970年の大阪万博における「太陽の塔」で有名な芸術家・故岡本太郎による個性的な日本(人)論である。本書は、1998年初版の『眼 美しく怒れ』(ちくま秀版社)を元に改題して新書化されたもので、過去に書かれた岡本太郎による著作の複数をまとめてある。これらは、戦後日本における前衛芸術運動を牽引してきた岡本太郎が、芸術家としての独自の視点から展開した当時の日本(人)批判として捉えられる。また、養女であり、実質的な妻であった岡本敏子による解説「太郎の眼」も収録されている。(教育学部教員)

『バナッハータルスキーのパラドックス』(岩波科学ライブラリー) 砂田利一(著)

【内容紹介】

ゲーデルの「不完全性定理」と並ぶ20世紀の摩訶不思議な定理。それがバナッハータルスキーの定理である。あまりに奇妙なために、パラドックス呼ばわりされているが、数学のれっきとした定理である。面積とは、体積とは何かを根本から問う。「無限」概念と格闘しつづけた現代数学。その中心に位置する話題をわかりやすく紹介する。(教育学部教員)

『学校って何だろう』（ちくま文庫）苅谷剛彦（著）

【内容紹介】

「どうして勉強しなければいけないの？」「なぜ毎日学校へ通わなければいけないの？」こうした疑問には、大人になった今でもなかなか答えづらい。他にも、どうして校則でソックスの色まで決められてるの？」とか「教科書ってほんとに必要なの？」など、生徒たちの疑問は尽きない。これらに対する答えはひとつではない。これまで考えられてきた学校や勉強についての「常識」を複眼的に問いなおし、「学ぶことの意味」をふたたび掘みとるための基本図書。（教育学部教員）

『沈黙の春』（新潮文庫）レイチェル・カールソン（著）

【内容紹介】

自然を破壊し人体を蝕む化学薬品。現在の私達には信じられない部分もあるが、本書に書かれていることは全て実際に過去に米国で起こった事件である。本書は、自然保護と化学物質公害追及の先駆的な本として約50年前に刊行されたが、今なお読まれ続けている名著である。ドイツ、アメリカなどを含む多くの国の人々はこの声に耳を傾け、現実を変革してきた一方、日本人は何をしてきたのか考えさせられる一冊である。（工学部教員）

『日本人と宇宙』（朝日新書）二間瀬敏史（著）

【内容紹介】

日本人は、満ち欠けする月一つとっても、三日月・十六夜・立待月・寝待月というような様々な呼び名を付けるほど、歴史的に宇宙に慣れ親しんできた民族である。一方で、小惑星探査機「はやぶさ」の成功や次世代超大型光学赤外線望遠鏡の建設など、近年の天文学・宇宙論の発展に日本の貢献は欠かすことはできない。本書は、そのような日本人と宇宙の関係を、現代宇宙論、文化、日本人の歴史の観点から紹介するユニークな一冊である。（工学部教員）

『生物に学ぶイノベーション』（NHK出版新書）赤池学（著）

【内容紹介】

近年、生物の形態や機能、仕組みなどを模倣または活用した「生物模倣技術」が新たに注目されている。38億年の昔から人間には不可能なことを易々と成し遂げてきた生物たちは、まさにイノベーションの先生といえる。「身の回りのありふれたものが、実は、こんな生物と関係していた!」と気付かされることが多くあるに違いない。生物進化の様々な不思議を通して、新しい発想力をかき立てる一冊である。（工学部教員）

『地球の中心で何が起きているのか』（幻冬舎新書）巽好幸（著）

【内容紹介】

なぜ大地が動き、火山が噴火し、地球が変動するのか。そのエネルギーの根源は地球の中心部にある。しかし地球内部を調べるのは厄介で、人類が掘った最も深い孔はせいぜい地球の半径の0.2%にも満たない。では、どのようにして地下6400キロにある「核」を含む地球内部を調べ、何がこれまで分かっているのか。本書は、地球内部の情報が詰まっているマグマや地球内部状態を再現する高圧実験などを手がかりに、地球内部の仕組みとその進化について解き明かされている地球科学の最前線の一冊である。（工学部教員）

『科学者という仕事 ― 独創性はどのように生まれるか』（中公新書）酒井邦嘉（著）

【内容紹介】

大学に進学しても、研究を職業とする人はごく少数の限られた人だと思います。しかし本書は、研究のプロになりたいと思う人はもちろん、そうでなくても社会で充実した人生を送りたい人にとって、独創性がいかに重要かについて大学で学ぶための重要な提言を論理的に述べています。感情のみが支配する社会ではなく、論理性が今後は益々重要視されると思いますので、文系、理系を問わず必読の1冊と思います。（農学部教員）

『キリマンジャロの雪が消えていく ― アフリカ環境報告』（岩波新書）石 弘之（著）

【内容紹介】

はるか昔、人類の祖先はアフリカ大陸で生まれたという。そして現在、豊かな自然の多様性を誇っていたアフリカが、解決の決定打がない貧困や環境破壊に苦しみ続けている。爆発的な人口増加、世界経済に翻弄される農業生産、不安定な政治情勢や温暖化による環境変化もさらなる悪化に追い打ちをかける。長年国際環境問題に関わってきた著者は、アフリカ大陸が抱える問題は将来人類が向き合う課題でもあると語りかける。野生動物の保護や国際協力・援助のあり方についても考えさせられる。（農学部教員）

『科学は誰のものか ― 社会の側から問い直す』（NHK出版生活人新書）平川秀幸（著）

【内容紹介】

遺伝子組み換え、クローン、そしてiPS細胞。今や私たちは、食べ物から医療に至るまで、「生命」観を変える可能性を持つ画期的な科学技術を目の前にしている。科学とは何か？科学的思考とは何か？私たちの暮らしに深く関わる科学技術の問題にこれからどう冷静に向き合っていくのか？専門家の知識と一般市民の知性をつなぐ科学技術社会論の入門となる1冊である。（農学部教員）

※各書籍紹介末尾の（ ）には各図書を推薦した教員の専任担当学部等が書かれています。これらの情報も参考に、みなさんは、進学予定学部にかかわらず、自由に「読みたい」と思った本を選んでください。

入学前教育用 e-Learning教材紹介

教育推進機構

入学前教育では、読書レポートの他に数学と英語のe-Learning教材を用意しました。これらの教材は、受験のためではなく、入学後の大学での学びに必要な内容で構成されています。環境を整えば、ぜひ、挑戦してみてください。もちろん、手持ちの参考書等で学習を進めていただいてもかまいません。大学に入学したら勉強が終わるわけではないので、入学後に備えて、学習を続けるように心がけてください。

これらのe-Learning教材へは、入学前教育専用サイト「プレ・アイアシスタント」の左側のメニュー「教科学習」の各項目からアクセスすることができます。ID、パスワードは、「プレ・アイアシスタント」と同じです。

■もう一度数学

◇特徴

高校数学で学ぶ単元から、大学各分野で要求される計算力を養うために作成された、完全自習用教材です。学生が「理解できる」「計算できる」を主眼において作られているため、定理や公式の証明が丁寧に説明されています。「問題集」もついていますので、自身の学習の成果を確認しながら進めることができます。手元にノートと鉛筆を用意して、実際に鉛筆を動かして問題を解きながらチャレンジしてみましょう。工学部入学予定生徒は必修です。必ず取り組んでください。

(平成27年1月10日より使えるようになります。)

※上記は金沢電子出版が提供する教材を使っています。

■アルク・ネットアカデミー2「スタンダード・コース」

◇特徴

英語学修のうちの「聞く(リスニング)」と「読む(リーディング)」を初級者から上級者まで徹底的にトレーニングするためのe-Learning教材です。最初にレベル診断テストを受けて、その診断結果に従って、レベルを選んで学習を進めていきましょう。また、本教材にはTOEICテスト演習があります。みなさんは、入学式の前日に英語のクラス分け試験を受験しますが、そのテストがTOEICになります。クラス分け試験の点数が芳しくない場合には、英語の補習クラスを受講していただくことになりますので、この教材を使って、しっかり準備をしてクラス分け試験に臨んでください。

(平成27年1月10日より使えるようになりますが、大学の授業で利用している時間帯には動作が遅くなる場合があります。その際には、時間帯をずらしてご利用ください。)

■English Preparatory Course

◇特徴

高校英語の範囲を押さえながら、受験のための英語ではなく、大学で学問を修めるために必要な英語の基礎力を鍛えます。(別添の資料を参照)

◇内容

- ・言語知識
 - ・語彙(形容詞、動詞、副詞、等)
 - ・文法(時制、動詞の変化、等)
- ・読解
 - ・速読問題(理解)
- ・聴解
 - ・リスニング問題(文法、語彙、等)

■これでどうだっ、英文法！(工学部入学予定者のみ)

◇特徴

「覚えすぎない英文法」をテーマに、基本的な英文法を厳選し、易しい内容から難しい内容へと確実に学べるように作られた教材です。文法の解説に加えて、英文解釈、英文法、発音、ディクテーション等の練習ができるようになっているので、手元にノートと鉛筆を用意して、実際に鉛筆を動かし、発音して確認しながらチャレンジしてみましょう。この教材は工学部入学予定生徒のみで、必修です。

(平成27年1月10日より使えるようになります。)

※上記は金沢電子出版が提供する教材を使っています。

平成26年度 入学前教育 読書レポート提出状況一覧

2015/3/17
入学前教育実施小委員会

課題図書		人 社	教 育	工	農	AO (人)	合 計
人文社会科学部	タテ社会の人間関係	9	4	0	0	2	15
	希望のつくり方	12	9	4	0	1	26
	誰が「知」を独占するのか	4	0	3	0	1	8
	働くということ	4	0	1	0	0	5
教育学部	民主主義という不思議な仕組み	2	0	0	0	1	3
	美しく怒れ	5	8	0	1	1	15
	バナッハ-タルスキ-のパラドクス	0	0	4	0	0	4
	学校って何だろう	2	40	12	1	3	58
工学部	沈黙の春	4	4	24	9	1	42
	日本人と宇宙	0	2	10	1	0	13
	生物に学ぶイノベーション	1	2	8	4	0	15
	地球の中心で何が起きているのか	0	0	5	0	0	5
農学部	科学者という仕事	1	0	13	3	0	17
	キリマンジャロの雪が消えていく	2	1	4	6	1	14
	科学は誰のものか	0	0	2	2	0	4
	合計(通)	46	70	90	27	11	244
対象者(人数)		46	70	90	26	11	243
提出者(人数)		46	69	90	26	11	242
提出率		100%	99%	100%	100%	100%	-
レポート採点担当分(通)		48	50	75	28	-	-

※教育学部1名、農学部各1名、課題2通提出

※教育学部1名は指定以外の本(生協おすめ本)のレポートを提出。「提出者(人数)」の数には含めず。

※希望の作り方(6)、学校って何だろう(30)、キリマンジャロの雪が消えていく(7)その他(遅刻分等)は機構で担当。

平成26年度卒業生・修了生アンケート集計結果

教育推進機構

※斜線箇所：該当する質問項目

		人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部	人文社会科学研究科	教育学研究科	工学研究科	農学研究科		
※斜線箇所：該当する質問項目											
		アンケート回答者数	212	228	384	135	10	5	143	31	
		(卒業予定人数)	(233)	(253)	(414)	(222)	(14)	(29)	(166)	(41)	
基本情報項目	A 性別	男性	77	103	342	63	5	4	127	17	
		女性	135	125	42	72	5	1	16	14	
	B 入学年度	H26	0	0	0	0	0	0	1	0	
		H25	2	0	8	0	9	5	115	21	
		H24	1	0	0	0	0	0	12	7	
		H23	187	218	336	102	0	0	6	0	
		H22	11	4	11	1	0	0	0	0	
		H21	3	0	7	25	0	0	2	0	
		H20	1	0	1	3	0	0	1	0	
		それ以前	0	0	2	0	0	0	0	0	
	C 入学形態	推薦	39	55	70	20			41	0	
		一般前期	123	126	226	96					
		一般後期	38	46	64	17	7	5	92	28	
		編入(一般)	2		7						
		編入(推薦)			3	0					
		編入(社会人)	0								
		社会人		0			2		2	0	
		その他(外国人など)	9	0	7	1	0	0	6	2	
	F 卒業後の進路	民間企業	104	74	113	52	2	0	124	16	
		公務員	72	38	32	30	2	0	4	7	
		教員	2	71	1	0	0	2	2	1	
		自営業(実家など)	0	1	2	1	0	0	0	0	
		フリー(独立)の専門職	0	0	0	1	2	0	0	0	
		大学院	10	20	206	40	1	0	7	1	
		研究生	0	0	0	0	0	0	0	0	
		専門学校	1	4	2	2	0	0	0	0	
		その他	5	10	3	2	2	0	1	3	
		未定(わからない)	15	9	25	7	1	3	3	2	
全学共通教育について	QA1:	少なすぎる	1	1	9	0					
	全学共通教育の必要取得単位数についてどのように考えますか。	少し少ない	18	26	22	5					
		ちょうどいい	156	174	264	86					
		少し多い	32	24	62	38					
		多すぎる	5	3	27	6					
	QA2:	満足	39	25	23	7					
	受講した全学共通教育科目の内容をトータルにみたとき、どの程度満足していますか？	やや満足	119	109	119	50					
		ちょうどいい	34	62	157	48					
		少し多い	18	27	65	29					
		多すぎる	2	5	20	1					
専門教育について	QB1:	そう思う	94	71	68	45	9	5	71	19	
	「学科／課程／コース／専攻」では入学時に期待していた通りの教育を受けられましたか。	少しそう思う	84	106	162	60	1	0	49	8	
		どちらとも言えない	21	29	81	20	0	0	19	3	
		あまりそう思わない	12	19	60	8	0	0	3	1	
		そう思わない	1	2	13	1	0	0	1	0	
	QB2:	そう思う	12	12	43	9					
	他の「学科／課程／コース」(工学部は他学部も)に進路を変更したいと思ったことはありませんか。	少しそう思う	38	43	93	23					
		どちらとも言えない	14	26	52	7					
		あまりそう思わない	35	44	67	19					
		そう思わない	113	102	128	77					
	QB3:	満足	122	69	64	40	9	4	75	18	
	「学科／課程／コース／専攻」での教員の教育に対する姿勢(修了生は研究指導)について、どの程度満足していますか。	やや満足	77	106	171	62	1	0	49	9	
		どちらとも言えない	10	35	107	26	0	0	15	2	
		やや不満	3	16	38	6	0	1	3	1	
		不満	0	2	4	1	0	0	1	1	
	QB4:	満足	111	78	67	39	7	4	65	14	
	「学科／課程／コース／専攻」の授業の成績評価について、どの程度満足していますか。	やや満足	89	99	163	60	2	1	54	14	
		どちらとも言えない	8	36	122	29	0	0	18	2	
		やや不満	2	12	19	6	0	0	6	1	
		不満	1	0	11	1	0	0	0	0	
QB5:	いろいろと接触することが多く、親密である	113	136	53	65	8	3	84	18		
「学科／課程／コース／専攻」の教員と学生の関係について、どのように思っていますか。	接触はあるが、親密ではない	76	78	217	52	2	2	50	12		
	接触はあまりない	17	9	96	13	0	0	6	1		
	その他	5	4	18	5	0	0	3	0		

		人文社会 科学部	教育学部	工学部	農学部	人文社会科学 研究科	教育学 研究科	工学 研究科	農学 研究科	
進路 について	QB6: 「学科／課程／コース／専攻」の 学生間の関係について、どのよう に思っていますか。	いろいろと接触することが多く、親 密である	135	161	170	81	7	4	86	18
		接触はあるが、親密ではない	53	59	150	44	1	1	35	10
		接触はあまりない	19	6	48	7	0	0	17	2
		その他	5	2	15	3	2	0	4	1
	QB7: 「学科／課程／コース／専攻」の 授業科目のバリエーションにつ いてどう思いますか。	十分な選択肢が用意されている	142	139	184	84	6	3	75	15
		やや少ない	67	82	171	50	4	2	49	15
		大いに少ない	3	6	29	1	0	0	17	1
	QB8: 「学科／課程／コース／専攻」の 受けた教育を全体としてみたとき、 どの程度満足していますか。	満足	111	78	59	38	9	3	52	13
		やや満足	79	107	170	71	1	2	63	11
		どちらとも言えない	16	26	106	23	0	0	21	6
		やや不満	5	16	44	3	0	0	6	1
		不満	0	1	4	0	0	0	1	0
	QC1: 「学科／課程／コース／専攻」で 学んだ内容はあなたの卒業／修 了後の進路にどの程度関連がある と思いますか。	強く関連している	37	109	182	70	7	4	56	17
		少し関連がある	87	58	109	42	1	1	67	8
		関連はない	63	52	57	16	1	0	15	4
		どちらとも言えない／わからない	24	6	35	7	1	0	5	2
QC2: 「学部／大学院／研究科」の就 職や進学に関する支援にはどの 程度満足していますか。	満足	55	37	54	19	6	2	48	5	
	やや満足	57	81	124	37	2	2	49	13	
	どちらとも言えない	76	67	136	54	1	1	32	5	
	やや不満	18	34	46	17	1	0	8	7	
	不満	5	6	23	8	0	0	6	1	
QC3: 希望する進路(就職先、進学先) はいつ頃決めましたか。	入学前から	18	46	56	10	修士課程入学前から				
	1～2年次	20	18	45	9	3	2	24	5	
	3年次	89	80	157	61	修士課程1年次				
	4年次	71	73	105	34	1	0	68	14	
	5年次(獣医のみ)				8	修士課程2年次				
	6年次(獣医のみ)				8	5	1	45	12	
	その他	10	6	18	5	その他				
					1	2	5	0		
QC4: 進路の準備(就職活動、進学する ための勉強)はいつ頃から始め ましたか。	入学前から	0	12	12	2	修士課程入学前から				
	1～2年次	13	13	18	1	1	2	13	3	
	3年次	158	138	151	70	修士課程1年次				
	4年次	28	57	171	36	3	0	106	20	
	5年次(獣医のみ)				10	修士課程2年次				
	6年次(獣医のみ)				12	5	2	15	5	
	その他	8	4	27	4	その他				
					1	1	7	3		
QC5: 決定した進路(就職先、進学先 等)に対してどの程度満足してい ますか。	満足	91	99	157	81	7	2	82	16	
	やや満足	68	76	117	36	1	1	41	12	
	どちらとも言えない	33	40	87	14	1	2	13	2	
	やや不満	3	5	9	2	0	0	2	0	
	不満	12	5	12	2	1	0	3	0	
大学 生活 全般 について	QD1: どの程度学業を重視したと思 いますか。	重視した	67	54	84	35	8	3	70	18
		少し重視した	97	116	157	64	2	2	54	11
		あまり重視しなかった	40	49	110	29	0	0	16	2
		重視しなかった	4	6	32	7	0	0	1	0
	QD2: どの程度サークル活動を重視し たと思いますか。	重視した	65	87	81	46	1	1	10	2
		少し重視した	50	44	82	37	0	0	15	3
		あまり重視しなかった	37	33	83	30	5	0	27	7
		重視しなかった	32	40	72	10	0	0	44	10
		サークルには入らなかった	24	21	64	12	4	4	44	9
	QD3: 大学事務のサービスについて、 どの程度満足していますか。	満足	26	34	33	16	2	1	27	7
		やや満足	72	81	115	31	8	2	47	10
		どちらとも言えない	59	66	140	47	0	1	46	10
		やや不満	36	38	47	27	0	1	18	3
		不満	15	6	48	14	0	0	3	1
	QD4: 教室、研究室の施設など、学習 環境について、どの程度満足し ていますか。	満足	46	38	62	32	4	2	48	11
		やや満足	89	104	161	59	5	3	55	12
		どちらとも言えない	33	39	78	18	0	0	20	5
		やや不満	33	36	54	19	1	0	14	2
		不満	7	8	27	7	0	0	3	1
	QD5: 図書館について、どの程度満足 していますか。	満足	79	65	95	42	4	2	35	9
		やや満足	79	96	152	49	5	1	51	10
		どちらとも言えない	24	38	85	20	1	1	48	7
		やや不満	20	22	36	15	0	0	7	3
		不満	5	4	14	9	0	1	1	2

		人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部	人文社会科学研究科	教育学研究科	工学研究科	農学研究科	
	QD6: 学食、生協について、どの程度満足していますか。	満足	51	55	70	22	4	2	38	9
		やや満足	101	112	174	52	5	1	55	10
		どちらとも言えない	36	33	76	25	0	2	37	4
		やや不満	18	19	40	26	1	0	9	7
		不満	2	5	20	10	0	0	3	1
	QD7: 大学／大学院生活全般についてどう感じていますか。	とても充実していた	84	90	51	48	7	3	42	9
		充実していた	98	117	225	73	3	2	77	19
		どちらとも言えない	19	16	77	12	0	0	17	2
		あまり充実していなかった	4	1	18	2	0	0	4	1
		充実していなかった	1	1	12	0	0	0	1	0
	学部・研究科について（工学研究科を除く）	QH1: この「学部／教育学研究科」の授業科目の単位を習得するためにどの程度努力しましたか。「人文社会科学部」での学習・研究でどの程度努力しましたか。	とても努力した	41	44			4	3	下記
			努力した	140	147			5	2	
			どちらとも言えない	21	21			1	0	
			あまり努力しなかった	6	12			0	0	
			努力しなかった	0	1			0	0	
		QH2: この「学部／研究科」で幅広く学べたと思いますか。	そう思う	92	79			9	5	
		少しそう思う	104	121			1	0		
		どちらとも言えない	8	20			0	0		
		あまりそう思わない	4	5			0	0		
		そう思わない	0	0			0	0		
QH3: この「学部／研究科」で専門的な勉強・研究ができたと思いますか。		そう思う	94	107			9	5		
		少しそう思う	96	96			1	0		
		どちらとも言えない	12	19			0	0		
		あまりそう思わない	6	3			0	0		
		そう思わない	0	0			0	0		
QH4: 副専攻制度には総合的な視野を育むという意味で効果があると思いますか。		効果あり	67							
		少し効果あり	84							
		どちらとも言えない	34							
		あまり効果はない	21							
		効果なし	2							
QH5: (人文社会科学部対象)講義「総合科学論」／(人文社会科学部対象)研究科で、総合的な視野を身につけられたと思いますか。		そう思う	42				8			
		少しそう思う	70				0			
		どちらとも言えない	48				2			
		あまりそう思わない	36				0			
		そう思わない	12				0			
QH6: この「学部／研究科」で学び、自分の専門分野を学問全体の中で相対的に位置づけることができるようになったと思いますか。		そう思う	53				3			
		少しそう思う	100				6			
		どちらとも言えない	39				0			
		あまりそう思わない	12				1			
		そう思わない	3				0			
QH7: 学部／研究科は今後も「総合的な教育・研究を行う学部／研究科」であって欲しいと思いますか。		そう思う	103				6			
		少しそう思う	73				2			
		どちらとも言えない	23				2			
		あまりそう思わない	4				0			
		そう思わない	4				0			
QH8: この「学部／研究科」で学んで良かったと思いますか。		そう思う	154	141			9	4	79	
		少しそう思う	44	71			0	0	51	
		どちらとも言えない	7	12			1	0	9	
		あまりそう思わない	2	1			0	0	1	
		そう思わない	0	0			0	0	2	
					そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	
工学研究科専門質問	QH1: この「研究科」で専門的な研究ができたと思いますか。				93	42	5	1	1	
	QH2: この「研究科」で専門的な勉強ができたと思いますか。				79	55	4	2	2	
	QH3: この「研究科」で学んだことで、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が向上したと思いますか。				76	50	9	5	2	
	QH4: この「研究科」で学んだことで、社会に対する関心が高まったと思いますか。				56	43	29	11	3	
	QH5: この「研究科」で学んだことで、社会貢献する意欲が高まったと思いますか。				46	42	33	14	6	
	QH7: 博士前期課程は、あなたにとって有意義でしたか。				81	43	11	4	1	

【意見・要望】

＜人文社会科学部＞

- 学部改編後も総合的な視野が育めるよう自由に講義が選べる学部であって下さい
- 6号館に自販機があれば良いと思います。お世話になりました！！
- 就職支援(特に岩手県外)をもっとしっかりしてほしい
- コース展開科目が少ないです
- 冷暖房の設備を充実してほしい
- 素敵な先生方に恵まれました。ありがとうございました。
- 【2】QB1に関しては、期待以上だった(選択肢①そう思う)という意味です。法学コースに関しては、もっと専門の授業を増やしてほしいですし、学部はもっと専門性を高めるべきだと思います。
- 4年間本当にありがとうございました
- 講義ばかりだけでなくディスカッション形式の授業を増やしてほしい
- 環境科学を学べる課程は形が変わってもあり続けてほしいです

＜教育学部＞

- 実践的な授業が不足気味に感じた。
- 教授のための学習会やその他、進路に関する支援などをより充実して欲しいと思います。
- 授業力向上のための科目があると更に良くなると思う。
- 専門(西洋史等)をもっとやりたい
- 机上の講義のみでなく実践的な面にもう少し力を入れて欲しかった。
- 工事が入りそうな場合もっと前かられんらくしてほしい
- 4年間たくさんの貴重な学びを本当にありがとうございました。
- にちぶ(日本語・地域文化コース)がなくなるのは悲しいですが、とてもステキなコースでした！ありがとうございます。
- 就職相談、就職支援をもう少ししてほしいです

＜工学部＞

- 私は編入生なのですが高専で受けたものが認定されずもう一度知っていることを勉強することが多く時間をもったいなかった。もう少ししっかり審査していただきたかった。成績優秀者の成績を常に取っていたのに編入生だからなのかわからないが成績表に一度も記載されず、不快だった。
- 冷房をつけて欲しいです
- 有機・無機・生物の選択する時期をもっと早めてほしい。4年生になってからの研究室配属は少しおそいと思う。もっと一つの道を極められるようにしていただきたい。
- マテリアル工学科の学生(B4)も銀河ホールのある6号館の出入口をよく利用するので学生証で入れるようにしてほしい。図書館3階のミーティングルームは勉強をしていない学生が雑談していることが多く目的に則した利用がなされていないので廃止して学習スペースにした方がいい
- プログラミング系の授業が初歩的すぎる。3年次まで得るものがあまりなかった。
- 夏はさすがに冷房を導入した方が良いと思います
- 夏に冷房を！！担任教員が適当すぎる。カードリーダーで入れる所が少なすぎる。電気棟の入り口もカードリーダーで入れるようにしてほしい⇒せめて工学部内はカードリーダーで入れるようにしてほしい
- 図書館の閉館時間を遅くしてほしい
- 図書館の閉まる時間がはやい。テストのある学期末だけでも0時ぐらいまで開放してほしい
- トイレを新築して下さい
- 駐車場の許可を4月のみじゃなくてせめて半期ごとにしてほしいです。
- 体育を増やす。
- それぞれの学部に合わせて英語の授業を取り入れてほしい。特に工学部は学年が上がると英語の論文を読むので専門用語を学習する機会を作った方が良いと思う。機械科に関しては工作機械を使う授業をもう少し増やしてほしい。
- 専門的な分野に重点をおいて講義を受けられるようにしてほしい
- シラバスの内容をもっと詳しく何を行うか等書いてほしい
- 所属している研究室の先生との関係は良好だと考えている。しかし他の先生方との関わる機会が極端に少なく感じている。
- 就職について土木以外の情報も掲示してほしい
- 実験の科目がもっと充実していたら良かったと思います
- 個人的に感じたことだが他学科に比べ同学年のつながりにとほしい気がした。そのため全員の参加するイベント的なものを増やすことでそのことを改善できるのではないかと思った。
- 講義室全てにエアコンを完備してほしい。冬の暖房はむしろ暑いくらい
- 工学部のトイレをもう少しだけ綺麗にしてほしい。
- 工学部のトイレが暗い、汚い、もっと明るい感じにしてほしい。手洗いの蛇口も自動にしないと洗う意味がない。
- 工学部のドアロックは1、2年もかいじょできるようにして

●工学部成績配布時の面談制度および担任制度を廃止してほしい。もしやるとしたらちゃんとやってほしい。担任に進路相談しても話も聞かず追い返される。挙げ句「しつこい」と説教される。研究室配属先決定の際も雑で決定する手順も決めず当日に何となくで決める。そのため全く公平ではなかった。自分達の学年においては担任は全く機能していなかったし、むしろ進路決定の障害となった。

●研究室の予算を上げてもらえれば、機材をより高精度化し問題に対しての検証をより細かく分析できた。さらなる研究の進展のために不可欠

●科目数を減らしてほしい。生命系の教員の質をあげるべき。

●学問を学んでもイメージが湧かない。現実世界のどこに使用されているのかわからなかった。

●学生センターの職員(特に奨学金担当)の態度が悪く相談する気が起きませんでした。

●学食のメニューを増やしてほしいと思った

●学食のメニューが少ない

●ありがとうございます。

●新しい機械を買ってください

●CAD室の使用を制限されたのが学習のさまたげとなった。また、土日・祝日に大学内に入れるようにしてほしい。環境系の就職先が少ないのに学科名に「環境」の文字を入れているのはいかなものか。カリキュラムも土木系がメインな今の状況なら、学科名は「土木」を明記すべき。名は体を表すようであれば学科を間違える人が出かねない。現に知り合いに環境をやりたくてこの学科に入ったのに土木メインで就職先も土木な今の現状に嘆いている人がいる。ならば始めから「環境」の文字を名に入れないでほしい。

●4年間で、人間関係に悩むこともありましたが、マテリアルの先生方が優しく勉強を教えてくださいましたことや、男の子たちの友情の中で日々成長することができました。あまり勉強はできる方ではありませんでしたが、この学科を卒業できたことを誇らしく思います。また、4年間部活動を行えたのもマテエだったからと心から感謝しています。4年間、ありがとうございます。

●2年後期の課題の詰め込み方は絶対におかしい

●17番講義室のイスが固い

<農学部>

●他の課程(学部でも)の授業でも単位が取れるとうれしいです。

●農食が寒い。かつトイレが汚い

●農業実習の機会をもっと増やしてほしいです

●農学部の学食の設備が酷すぎます。この学校の売りや銘打ってるくせに工学部との食堂の差が多すぎます。冬に凍るような農学部学食に不腹です

●農学部のトイレや農食の設備をもう少し考えてほしい…。トイレは壊れていたり、農食寒いです…。

●図書館でも夏場になかなか冷房が入らないのは、学生が学業に励む場としてどうなのかと思いました

●大学事務員の態度が高圧的。エコ大学を目指すのは良いが勉強に支障をきたすほど劣悪な環境がある(例:H52大)教員免許は中高両方の免許が取得できるようにしてほしい。県によっては高校免許だけでは受験できないため。

●新入生入学時に大学生協でアルバイトを募集している赤いジャンパーの人達にきちんと仕事ができるように教育してもらいたい。中途半端な事しかできず他の学生委員会に迷惑がかかることが多すぎます。大学側から大学生協へ一言でも良いので指導をお願いしたいです。これ以外はとても良い大学生活を送ることができました。

●試験前の自習できるスペースがほしかったです。夜、廊下の電気がつかなかったり、トイレの便座が壊れていたり、改善していただきたいです

●課程名を変えるべき。応用生物化学 高校の生物の授業を想像して入学しほとんど化学しか学ばないことを後から知り後悔・苦勞する学生が何人もいるため。

●夏期に冷房の使用が認められた方が生徒はうれしい。

●応用生物化学課程では商品(食品など)の企画開発や研究に携わりたいという学生が多いと思うのでそういった進路や業界を意識した講義やセミナーなどがあれば大いに参考になるのではないかと感じた。

●アンケートは面倒なのでいらないです

●Wi-Fiを全体に通してほしい。暖房をお昼にきらないでほしい。

●1年時からもっと専門科目を勉強したい。実習をもっと多くやりたい。

●17:00にエアコンが切れ、寒かった

●1, 2年次から動物実験を取り入れたら知識も増えて卒業研修も充実したものになると思いました。

<人文社会科学部研究科>

●2年間自分の研究を通してあらゆることを学べました。この経験を活用できるよう頑張ります！

●最後まで温かなご指導をいただき、有り難うございました。

●SPSSは全ての教室に欲しいです。(AdVance版)

●本当にお世話になりました。

●クーラーがほしいです

<教育学研究科>

- ・岩大の大学院で学べて多いに満足しています。入学して良かったなと感じています。
 - ・大学の教授で集中講義だったのですが3日の講義のうち授業に全くこない日、遅刻する日、昼休憩で寝てしまい授業にこない日という講義でもっと責任を持ってほしいと感じています。なめてると感じました。

<工学研究科>

- 棟の美化、古い掲示物は撤去して欲しい
- 研究室の学生部屋が狭い。(環境衛生工学研究室)
- 従来の学習だけでなく新たな技術の学習も必要。例えばJava言語学習やネットワーク系の言語の学習等
- 図書館のデザイン分野の本を増やしてほしい

<農学研究科>

- コースにより教員の役職枠に開きがある。無論、相応の業績は不可欠であるがせめて各研究室に教授を1人は配属させ得る体制は整えるべきと考える。また教授が学生の名前で論文を書くというも他の学生のやる気を削ぐ行為であり奨学金返済免除申請の際にも不当な評価を受ける可能性があるため、事実であれば謹んでいただきたい。
- 専攻の教授陣は研究に対する姿勢は仕方ないが教育の力に個人差がありすぎる。不適格な指摘や理不尽な学生の扱いについてもっと考えた方がよい。元々やる気のあった学生のモチベーションを下けていることが多いということに気づいてほしい。研究を通した「教育」を行っているはず。学生のこともっと細かく観察すべきでは。
- 該当研究室の学生以外が受けても意義のある講義内容にして欲しい。化学系の講義を取ったが意義のある学びであったか疑問がある。また時間をかけてレポートに取り組んだが前提となる知識がないと(該当研究室の学生せないと)殊で分からないものだったように感じた。



國際教育部門

国際教育部門会議委員名簿

(平成26年10月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	藪 敏 裕	教育学部
副部門長	松 岡 洋 子	教育推進機構
専任教員	尾 中 夏 美	教育推進機構
	松 岡 洋 子	教育推進機構
兼務教員	深 澤 泰 弘	人文社会科学部
	本 田 卓	教育学部
	佐 藤 淳	工学部
	木 崎 景一郎	農学部
	比屋根 哲	連合農学研究科
	石 松 弘 幸	国際連携室
各学部選出教員	家 井 美千子	人文社会科学部
	藁 谷 収	教育学部
	伊 藤 歩	工学部
	松 嶋 卯 月	農学部
国際課長	斎 藤 幸 代	学務部



活動報告

部門長 藪 敏裕

1. 国際教育部門会議

第1回 平成26年5月9日（金）

議 題

1. 副部門長の選出について
2. 国際教育部門会議の任務等について
3. 専門委員会の設置について
4. 平成26年度年度計画（国際課担当）について
5. 海外派遣・留学プログラムについて
6. その他
 - （1）学生寮について
 - （2）その他

第2回 平成26年7月1日（火）

議 題

1. 平成26年度海外留学支援制度（短期派遣・受入）支給対象者の選考について
2. 岩手大学創立50周年記念実行委員会奨学金「海外派遣支援事業」（平成26年度後期）審査について
3. 岩手大学創立50周年記念実行委員会奨学金「国際ボランティア等参加者支援事業」（平成26年度第2次）審査について
4. 平成26年度（4月期）（10月期）国際教育センター所属予定留学生について
5. 平成26年度前期岩手大学国際教育センター短期留学特別プログラム及び日本語・日本文化研修コース修了式について
6. 岩手大学国際交流科目・日本語研修コース及び日本語・日本文化研修コース非常勤講師採用に関する申合せ（案）について
7. その他

第3回（メール会議）平成26年7月2日（水）

議 題

1. 平成26年度海外留学支援制度奨学金支給対象者について
2. 岩手大学創立50周年記念事業実行委員会奨学金支援者について
 - ・「海外留学派遣支援事業」支援者
 - ・「国際ボランティア等参加者支援事業」支援者
3. 平成26年度（4月期）（10月期）国際教育センター所属予定留学生について

第4回 平成26年7月25日（金）

議 題

1. 国際連携推進のためのプロジェクトについて
2. 平成26年度岩手大学国際教育センター事業計画について
3. IU-SIPプログラムについて
4. 官民協働海外留学制度の実施における支援について（実施手引き）
5. その他

第5回 平成26年9月9日（火）

議 題

1. 留学交流・グローバル人材育成推進プロジェクトへの対応について
（短期留学プログラム・IU-SIPプログラム検討）
2. 平成27年度海外留学支援制度（短期派遣・短期受入）の応募について
3. 平成26年10月期国際教育センター所属予定留学生の受入について
4. 平成26年度後期留学生受入行事予定について
5. 平成26年度第2回オープンキャンパスへの参加について
6. 平成26年度国際月間プログラムについて
7. 留学生宿舎の確保対応策について
8. 後期の会議開催日程について
9. その他

第6回 平成26年10月6日（月）

議 題

1. 部門会議委員の変更について
2. 平成27年度海外留学支援制度（協定派遣・協定受入）の申請について
3. 平成27年度岩手大学短期留学プログラム（IU-SIP）学生募集要項について
4. 平成27年度「トビタテ！留学JAPAN」の募集について
5. 平成26年度年度計画（上半期）の進捗状況について
6. その他

第7回 平成26年11月10日（月）

議 題

1. 平成26年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の申請について
2. 2015年度岩手大学派遣留学生（テキサス大学オースティン校・アーラム大学・セントメアリーズ大学交換留学）の選考について
3. 年度計画【66】への対応について（フィリピン英語研修の実施）
4. 交換留学生向けの履修科目（今後の検討予定）について

5. フィールドスタディ in 安比の実施について
6. その他

第8回 平成26年12月3日（水）

議 題

1. 国際教育プログラムの体系化について（年度計画対応）
2. 平成27年度年度計画の策定について
3. 岩手大学創立50周年記念事業実行委員会奨学金の運用について
4. グローバル化に対応した学生宿舎整備プランについて
5. Facebookを活用した国際交流関連情報の発信について
6. その他

第9回 平成27年2月6日（金）

議 題

1. 平成27年度国際教育センター非常勤講師（大学院入学前予備教育日本語研修コース・国際交流科目）の任用について
2. 平成26年度海外留学支援制度追加採択について
3. 平成27年度海外留学支援制度採択結果について
4. その他

第10回 平成27年3月17日（火）

議 題

1. 平成26年度年度計画の達成状況について
2. 平成26年度国際教育センター事業報告について
3. グローバル教育センターへの業務引き継ぎと懸案事項について
4. 海外留学保険（学研災付帯海学制度）への加入について
5. その他

2. 留学生のためのイベント

○ガーデンパーティー

平成26年6月7日（土）、国際交流会館に於いて「留学生と市民のガーデンパーティー」開催

○着物体験・生け花体験

平成26年5月13日（火）着物体験開催

平成26年6月18日（水）生け花体験開催

○フィールドスタディ in 白神

平成26年8月7日（木）～8月8日（金）、白神山地、十和田近代美術館

○フィールドスタディ スキーin安比

平成27年1月6日(火)～1月7日(水)、安比高原スキー場



○フィールドスタディ in三陸ジオパーク

平成27年2月24日(火) 被災後の三陸地域見学



3. 学生の留学・国際交流サポート

○国際教育プログラムの充実

英語の語学研修プログラムを新設し、フィリピンのデ・ラ・サル大学に学生を派遣

○「SCIP」短期研修プログラム

「エネルギーと持続可能な社会」をテーマとし、平成26年9月にアイスランド、スウェーデンで研修

○トビタテ！留学JAPAN サポート

第1期2名、第2期1名 採択

○留学相談・オリエンテーション・帰国報告会開催

平成26年10月27日(月)～11月21日(金)、岩手大学国際月間

グローバル教育センターの立ち上げに向けて

部門長 藪 敏裕

本学では、平成28年度全学改組に向けて、「改革の背景・理念・方向性」および「機能強化の観点」のひとつとして「グローバル人材育成」を掲げており、その機能を担うための新たな組織を立ち上げ、グローバル基礎力の養成、留学プログラムの拡充などを行う必要があります。

そこで、現行の教育推進機構国際教育部門(対外的には「国際教育センター」)を拡充発展させて新たに「グローバル教育センター」を設置し、文化・言語・専門領域等の異なる多様な人々と協力しながら、地域に顕在化した諸課題を国際的視野から現実的かつ創造的に解決できる「グローバルな視点を持つ地域創生人材(いわて型グローバル人材)」の育成を目指すこととしております。

本センターでは、各学部・研究科・学内教育研究施設等との連携のもと、様々な国際教育プログラムを企画・運営するとともに、学生のグローバル対応力を養成していきたいと考えております。また、各学部・研究科等の国際教育の取組に関わる情報を共有しつつ教育推進に必要な調整を図るとともに、キャンパスのグローバル化を図り、全学のグローバル教育を推進していきたいと考えています。さらに、地域と協働しつつグローバル人材養成の環境の構築に取り組んでいきます。

なお、センターの主な業務は、新規事業とこれまでの事業を拡充・継続するものを含め、以下のとおりに整理されます。

- (1) 岩手大学に在籍する学生のためのグローバル教育プログラムの企画・調整
- (2) 留学交流(受入・派遣)プログラムの企画・運営
- (3) 国際教育促進支援事業の企画・運営
- (4) 学外との連携・協働による、グローバル教育の実施

＜グローバル教育センター設置検討専門委員会(案)＞ グローバル教育センターの設置について

平成27年1月16日

教育推進機構会議了承

0. グローバル教育センターの取組概要

グローバル人材育成教育に関する現状	グローバル教育センターの取組
・全学としての国際教育戦略が明確でなく、実務レベルに反映されていない。 ・協定大学との連絡調整、留学生の獲得戦略、学生の海外派遣促進・グローバル人材育成プログラムの実施に関して、各部署の課題のとりまとめ、対応が十分ではなく、またそれぞれの役割分担や協力・連携体制が明確ではない。	・各部署における課題や裏付けとなるデータを取りまとめた上で、「<u>いわて型グローバル人材モデル</u>」を定めるとともに、その育成方針、成果指標等など、教育面でのグローバル化戦略を策定。 ・センター専任教員による「<u>学部コーディネータ制</u>」を導入し、学部教員や国際交流委員会等との実質的な協働体制を構築することで、大学全体としてグローバル人材育成教育を推進。
平成28年度改組の柱として「グローバル人材育成」が掲げられており、全学の学生を対象とした、語学力を含む多様なグローバル人材育成プログラムの拡充が求められている。	・学部横断型教育や大学院共通科目など、グローバル人材育成等を目的とした「<u>分野横断教育プログラム</u>」の運営・コーディネート。 ・上記プログラムに、ポートフォリオを活用した「<u>自律型評価</u>」と外部試験を活用した「<u>客観型評価</u>」を導入し、外国語能力の把握と教育効果を検証・改善。
大学院レベルにおける共同学位プログラム、海外研究インターシップ、英語のみで教育研究を行うコース等の設置が検討されており、教養～専門レベルに至るまでのグローバル教育の接続が求められている。	・「<u>グローバルカリキュラムマップ</u>」を作成し、共通教育、専門教育、大学院教育を通じたグローバル人材育成関連科目を体系化。 ・上記関連科目の実施(実施支援)による、<u>専門と連動した外国語コミュニケーション力、グローバル対応力の養成</u>。

1. 設置目的

本学では、平成 28 年度全学改組に向けて、「改革の背景・理念・方向性」、および「機能強化の観点」のひとつとして「グローバル人材育成」を掲げており、その機能を担うための新たな組織を立ち上げ、グローバル基礎力の養成、留学プログラムの拡充などを行うこととしている。

そこで、現行の教育推進機構国際教育部門（国際教育センター）を再編し、「グローバル教育センター」を新たに設置し、文化、言語、専門領域等の異なる多様な人々と共助・協働し、地域に顕在化した諸課題を国際的視野から現実的かつ創造的に解決できる「グローバルな視点を持つ地域創生人材（いわて型グローバル人材）」の育成を目指す。

同センターでは、各学部・研究科・学内教育研究支援施設等との連携のもと、多様な国際教育プログラムを企画・運営し、学生のグローバル対応力を養成する。また、各学部・研究科等の国際教育の取組について情報を共有しながら支援し、教育推進に必要な調整を図るとともに、キャンパスのグローバル化を図り、全学のグローバル教育を推進する。さらに、地域と協働してグローバル人材養成環境の構築に取り組む。

2. 業務 ※ の部分は現行組織からの追加事項

（1）グローバル教育プログラムの企画・調整

- ・「グローバル教育カリキュラムマップ」の策定【新規】
- （「いわて型グローバル人材」モデルの提示、および学部、大学院と連携したカリキュラムの策定）
- ・グローバル対応力（外国語能力、異文化対応力等）向上のための、教養教育、国際教育科目等の実施および評価指標策定【継続・新規】
- ・英語力の把握と教育効果の検証、改善の提案【新規】
- （ポートフォリオを活用した自律的評価と外部試験を活用した客観的評価）
- ・留学・海外研修等の単位認定・単位互換に関する支援業務（情報収集、整理、調整等）【新規】
- ・各学部・研究科等におけるグローバル教育プログラムの実施支援及び連携【新規】
- （専任教職員による「学部担当コーディネータ制」の導入）
- ・国際教育に関する各種情報提供・相談【継続】
- ・教育推進機構（教養教育センター（仮称））内の強固な連携（英語教育等に関して部門の共同運営等を想定）【新規】
- ・グローバル教育に関する中期目標、中期計画、年度計画の策定及び自己点検・評価【新規】

（2）留学交流（受入・派遣）プログラムの企画・運営

- ・交換留学プログラム（IU-SIP）の企画・運営【継続・拡充】
- ・全学対象・学部横断型海外派遣プログラム、国内研修プログラム等の企画・運営【継続・拡充】
- ・留学生対象日本語・日本事情教育プログラムの企画・運営【継続】
- （大学院入学前予備教育コース、学部留学生生対象上級日本語・日本事情教育、短期留学生対象レベル別日本語教育、自習支援プログラム等）

（３）国際教育促進支援事業の企画・運営

- ・留学生受入・海外留学・国際教育等に関する広報活動【継続】
- ・留学前準備教育、留学相談、留学生修学・生活相談、各種オリエンテーション、フォローアップ・リエントリー事業等の企画・運営【継続・一部新規】
- ・国際教育に関する関係施策の実施状況の把握、情報分析、共有、普及【継続】
- ・キャンパス環境の国際化推進（仮想海外空間（Global Village）における各種企画、Global Mileage 制度の導入、国際教育交流システムの改編・各種対応のマニュアル化 など）【新規】
- ・国際連携室、教育推進機構や事務局等との連携による、長期海外 FD や、海外 SD 研修制度、語学力強化事業等の企画・運営【新規】

（４）学外との連携・協働による、グローバル教育の実施

- ・国内大学および海外協定大学等とのコンソーシアム・アライアンス制度等の活用によるグローバル教育事業連携【継続・拡充】
- ・自治体・NPOなど地域との国際交流連携および国際教育等の支援【継続・拡充】
（グローバル教育に関する協議会設置等の連携を検討）

3. 構成

- （１）センター長（教育推進機構副機構長 ※）

※副機構長は現行の１名体制から２名体制とし、１名が教養教育センター長、１名がグローバル教育センター長を兼務することを想定。

- （２）専任教員（教育推進機構から選出）３名

- （３）専任教員または研究員（学長枠）５名 ※

※人数は未定：最大値。

- （４）兼務教員 ※（各学部、連合農学研究科、国際連携室より各１名）

※兼務教員は、専任教員と協力しセンターの業務を処理する（具体的事項は５（２）に掲載）

- （５）学部選出教員 ※ 各１名

※学部選出教員は、所属学部とセンターとの連絡調整・情報共有等を図りながらセンター運営に協力する。

- （６）その他、センター長が必要と認める者

4. 会議及び業務・審議事項

（１）グローバル教育センター会議 （担当：全構成員）

- ・センター運営の総括
- ・センターに係る中期目標・中期計画及び年度計画の作成及び点検評価
- ・各推進チーム提案の了承・評価・改善
- ・教育面でのグローバル化戦略の策定と提言

- ・「グローバル教育推進プラン」の提案
- ・学内外との連携
- ・グローバル化推進のためのキャンパス環境整備 など

(2) 国際教育推進チーム

- ・グローバル人材育成のための「学部横断プログラム」や「大学院共通科目」の運営
- ・語学教育にかかる全学的な総合調整
- ・学部・大学院との語学関連教育連携（英語プレゼンテーション力強化 など）
- ・語学教育の企画・運営（基礎語学力の強化）
- ・グローバル基礎力養成にかかる共通教育科目及び国際交流科目、高年次課題科目（国際 PBL）等の企画・運営（COC事業等との連携を含む）
- ・留学生向け日本語・日本事情教育プログラム（大学院入学予備教育日本語研修コース、日本語・日本文化研修留学コース等）の企画・運営
- ・留学事前・事後教育・各種支援プログラムの実施

(3) 留学交流推進チーム

- ・留学生の受入に関する企画・運営
- ・日本人学生の海外派遣に関する企画・運営
- ・海外派遣・受入教育に関する各学部等との連携
- ・全学対象の協定大学との学生交流関連業務の運営
- ・交換留学プログラム（IU-SIP）の運営
- ・留学生に対する修学・生活相談
- ・日本人学生に対する留学相談
- ・留学のための奨学金等各種奨励費獲得の推進および推薦者の選考、国際交流会館の入居者選考など

5. 教員の担当任務

(1) 専任教員

国際教育チーム グローバル基礎教育担当（英語教育　２名、学部横断型教育　２名）
日本語・日本事情教育担当　２名

留学交流推進チーム 留学交流推進担当（受入派遣企画・相談 2名）

*専任教員は上記主担当業務のほか、センター会議、学部担当コーディネータ、奨学金関連業務、各種行事等の業務に従事する。

(2) 兼務教員

国際教育チーム 学部横断型教育、各学部グローバル教育連携担当

留学交流推進チーム 学部及び全学留学交流担当

6. グローバル教育センター設置に向けた今後の流れ

平成26年度

- ①学長室会議で審議した案を踏まえ、別途協議されている「教養教育センター」の設置準備とあわせ、教育推進機構会議の下に「グローバル教育センター設置準備専門委員会」を設置する（重複審議事項が発生する可能性があるため、案件によって「教養教育センター設置準備専門委員会」との合同委員会実施を可能とする）。＜11月初旬＞
- ②上記専門委員会において、グローバル教育センター設置に向けた具体的な検討（規則改正を含む）を行い、教育推進機構会議に原案を提出する。＜11～1月＞
- ③教育推進機構会議で審議・了承のうえ、組織検討委員会に提案。＜1月＞



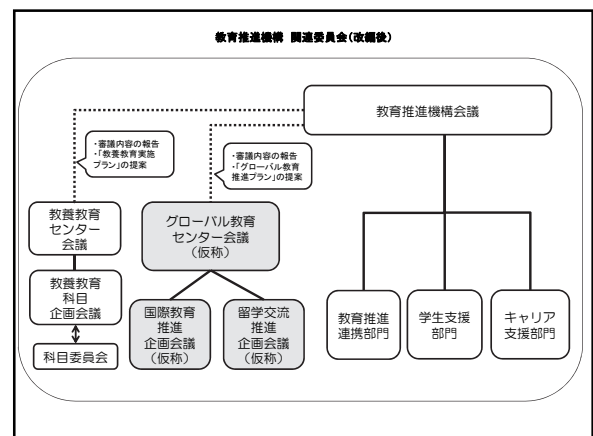
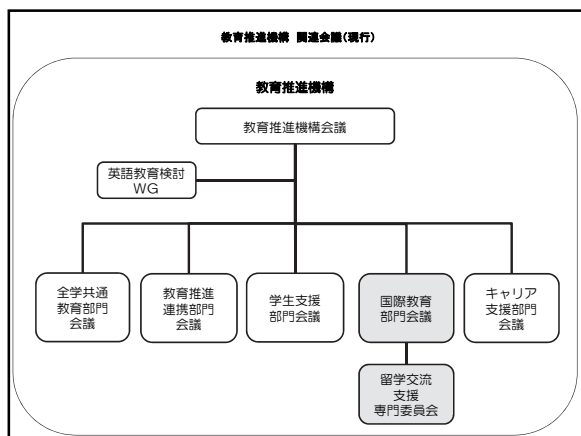
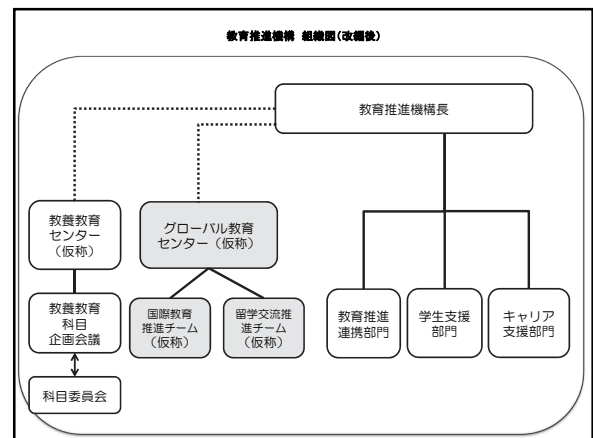
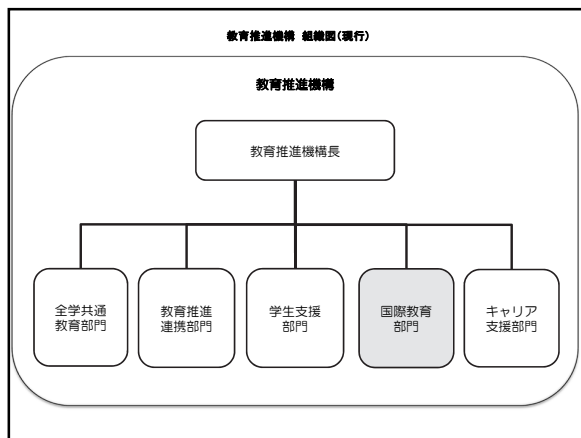
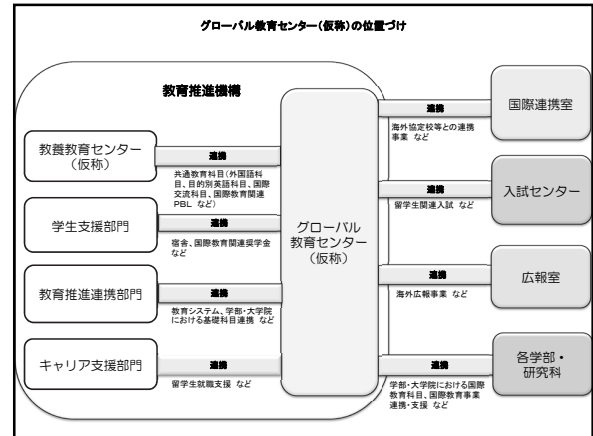
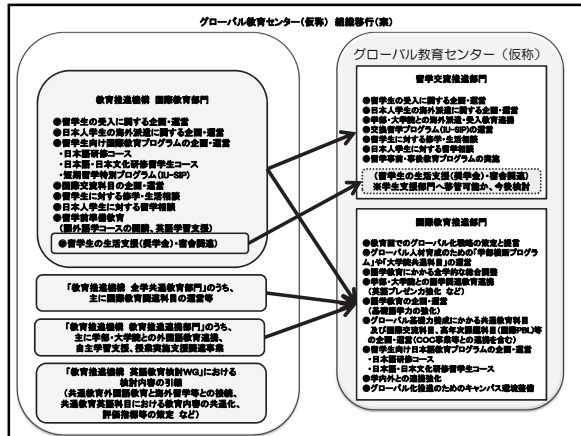
平成27年度

- ・ グローバル教育センター設置（4月1日付）
- ・ 前期にセンターでグローバルカリキュラムマップ、実施プランを作成
- ・ 後期に実施プランに沿って、科目担当講師等を確定・各部局との調整
- ・ PBL 科目、国際教養基礎科目などを試行



平成28年度4月から

新しい全学共通・教養教育カリキュラムの実施と合わせ、グローバル教育科目を実施



いわて型グローバル人材育成プログラム

—岩手に顕在化するグローバルな課題を理解し、解決に貢献する力を養成する—



<カリキュラム>

大学院	上級専門科学英語 (研究科専門) ・上級論文読解・作成 ・国際学会プレゼンテーション技法 専門英語自習 ・領域別語彙習得 ・専門講義聴講能力向上	【課外】 Super English 自習支援	上級運用・専門 (<u>研究科専門</u>)	【課外】 留学準備研修	大学院 共通科目 (<u>国際教育</u>)	各種研修	研究科グローバル教育 関連教育 (<u>国際教育</u>)
-----	--	---	-----------------------------	-----------------------	--------------------------------	------	---------------------------------------



4年	中上級専門科学英語（学部専門） ・専門論文理解、専門レポート作成 ・専門プレゼンテーション、討論技法 専門英語自習 ・専門基礎語彙習得 ・専門講義理解力向上	【課外】 Super English  Step-up English	中上級運用・専門 （学部専門）	【課外】 留学準備 研修	国際教育科目 異文化対応領域 科目 ※3	国際教育 科目実践領 域科目 ※3	専門科目 ※2		
3年	中級専門科学英語（学部専門） ・専門基礎分野読解 ・専門基礎要旨、レポート作成 ・プレゼンテーション、討論技法 専門英語自習 ・専門語彙習得、専門講義理解力		中級運用・専門 （学部専門）						
2年	科学英語基礎（教養教育・国際教育） ・論理的文章読解・論理の作文技法 ・論理の口頭表現技法 科学英語基礎自習 ・科学語彙・表現習得 ・科学概論講義理解力向上		運用基礎 （教養教育）					多文化コミュニケーション Controversial issues （教養教育）	海外研修科 目等 ※1
1年	英語基礎教育（教養教育）		外国語基礎 （教養教育） ※外国人留学生は 上級日本語運用	外国語 自習支援				多文化コミュニケーション 教育とグローバル 化 トビタテ岩大生 （教養教育）	
	英 語		英語以外の外国語	コミュニケーション	実 践	専 門			
	外国語運用力 ・ コミュニケーション力					知識・探究力			

※1 海外研修カリキュラムマップ参照

※2 学部専門教育科目 (要検討)

※3 グローバル教育センター担当科目一覧参照

グローバル教育センター担当授業一覧(案)

領域	科目名	概要	科目区分	備考
異文化対応	多文化コミュニケーションA	日本人学生と留学生共修し、多文化状況において必要な基礎的な知識、技能を高める。授業中は、毎回、多文化状況でのコミュニケーション課題についてテーマを設定し、日本人学生と留学生が討論し、課題解決の方策を探る。また、学外の人々との接触、協働体験を通じ、多文化社会において想定される課題について解決する態度、技能を高める。	教養教育	
	多文化コミュニケーションB	日本人学生と外国人留学生が共修し、多文化状況において必要なコミュニケーション力の基礎力を高める。クラス中、また他大学の学生と多文化社会において想定される課題について協働して解決する体験を通じ、多文化状況とは何か、コミュニケーションとは何かについて知識と技能を習得し、グローバル社会での基礎力を高める。	教養教育	
	教育とグローバル化	社会のグローバル化に対応するために、必要な学びの内容とその方法について概説する。また、日本から離れた場で活躍する岩手大学出身者や岩手県出身者、岩手に縁のある人々による講話、海外で様々な活動を行ってきた人々との交流等を通して、国際的な経験を積む事の意義を理解し、関心を高め、国際研修、留学等の参加を促進する。学習者はグループディスカッションなどを通じて、それぞれの講話から学んだ価値観や世界観、自身が持つ課題等について共有する作業から、行動を具体化する技能を身につけることを目標とする。	1 年次	
	Controversial issues (英語討論入門)	留学生と日本人による共修授業とし、英語を教育言語として開講するため、十分な英語運用能力を受講条件として設定する。本科目では、留学生と日本人学生が、文化的・個人的価値観の相違で結論が異なる可能性の高い題材について、ディベートマッチと類似のフレームを用いた形式で行う。留学生と日本人混成チームが互いにプレゼンテーションを競うことを通じて、批判的思考力、情報収集力、コミュニケーション力、異文化に対する関心と相違に対するより深い理解を官民共同海外留学支援制度等の申請を想定し、漠然とした夢や希望を他者の目から見て説得力のある企画に仕上げ、プレゼンテーションする能力を高める。学生は留学の目的、計画、自己PRなど、それぞれの項目についてプレゼンテーション、相互評価、編集と改善などを繰り返す中で、具体的に説得力のある企画の書き方を体得していく。授業はワークショップ形式で実施し、留学だけに限らず企画書作成全般に適用する技能を身につけることを目標とする。	2 年次	
	海外派遣はじめての一步 ートビタテ岩大生ー	自らの文化および異文化の非言語コミュニケーションに対する理解を深める。特に、日本文化における非言語行動を取り上げ、それを他の文化の非言語行動と比較しながら、自文化で採用される非言語行動が、他の文化ではどのように捉えられ、また誤解されるのかを理解する。	1 年次	
	Intercultural Non-Verbal Communication	日本の天皇家、仏教、短歌・俳句など、日本の古代史について取り上げ、その歴史の理解を深めるとともに、それが現代の日本社会にどのような影響を与えているかについて検討する。	国際教育	※英語共修
	Ancient Japan: adoption and adaptation	日本の伝統的な芸能、文化、たとえば、茶道、華道、弓道、禅などについて、グローバルな視野から捉えることによって、その理解を深めることを目的とする。	国際教育	※英語共修
	Japanese Traditions in a global perspective	日本人の考え方や文化の等質などについて理解を深める。英語のテキストの読解や日本映画の鑑賞などを通して日本文化や日本人の考えかたについて学び、日本人の心理的特質や日本文化の特徴について説明できるようになることが本講義の目的である。	国際教育	※英語共修
	Discovering Japanese culture & Japanese psychology	協定大学等からの招へい講師等による外国事情、外国の研究事情等を交えた専門基礎的講義を聴講し、グローバルな教育・研究環境への関心を高める。	国際教育	※英語共修
	国際講義	日本の学校現場での体験を通じて自国の教育との比較検討をもとに、教育に対する理解を深める、日本人の教育に対する講義を行ったのち、受け入れ校においてインタベンションを実施し、報	国際教育	教育専門重複
	School Interenship I	日本人学生の支援を受けながら、地域の学校でインターンとして、自分の国についての講演や英語の指導助手として働き、体験的に学びを深め、レポートにより学びを確認する。	国際教育	教育専門重複
	School Interenship II	学生自身が考える文化の諸相について、毎時間トピックを設定して、グループ討論等を通じて知識・理解を深める。	国際教育	教育専門重複
	Cultural Dmains	交換留学生を対象とし、留学生の日本文化への理解を深め、併せて大学の教育理念のうちの「幅広く深い教養と総合的な判断力を合わせ持つ豊かな人間性」の育成を目指す。日本の伝統的な遊び（カルタ、すごろくなど）の遊び方を、背景に、日本の文学の教養があることを知る。	国際教育	教育専門重複
	やさしい日本語で語る日本の古典文学		国際教育	※共修

英語	個別研究	主に文系専攻の交換留学生を対象に、日本、日本語に関わるテーマを個別に設定し、指導教員の助言を得ながら調査、研究を進め、口頭発表及び論文作成を行う。	国際教育	交換留学生 専用
	理系研究A	理系専攻の交換留学生を対象とし、各自の専門領域に関するテーマを設定して指導教員の助言を得ながら実験、研究を進め、口頭発表及びレポート作成を行う。(前期実施分)	国際教育	交換留学生 専用
	理系研究B	理系専攻の交換留学生を対象とし、各自の専門領域に関するテーマを設定して指導教員の助言を得ながら実験、研究を進め、口頭発表及びレポート作成を行う。(後期実施分)	国際教育	交換留学生 専用
	アカデミック英語 一論文の基礎	大学レベルで専門課程において求められる、学術的なレポートや論文作成のために必要な技能を英語で学ぶ授業の中で身につける。論文の構成を平易な学術論文を読みその構成を分析すること、論文のパターンを習得した後、議論の展開や接続法、引用文献の検索法と記載方法など、テクニカルな技術を習得する。学習者が論文作成の基礎力を習得することを目的とする。	教養教育	2年次～
	アカデミック英語 一プレゼンテーションの基礎	専門課程において実施するスライドを使った口頭発表やポスター発表の基礎技能を英語で学ぶ科目で習得する。論理的で基礎的なテーマでプレゼンテーションの作成作業と実践を通じて、英語によるアカデミックな情報収集力、情報発信力の基礎力養成を行うとともに、英語でのグループ作業を通じて英語での協働する力を養成する。内容に関しては学習者の興味関心や将来の専門に関連付けながら、わかりやすいプレゼンテーションの基礎技能を習得することを目的とする。	教養教育	2年次～
	アカデミック英語 一討論の基礎	大学レベルで専門課程において求められる、学術的な場面でのディスカッションに必要な技能を、英語で学び実践的な技能を身につける。学習者は基礎的かつアカデミックなテーマについて、賛成、反対、論点を明確にする場合、議論に対する新たな観点の提示など、実際の議論の場面で遭遇するであろう様々なケースに対応する英語での基礎表現を体得しながら、自己の意見表明を積極的に行おうとする態度の育成を目標とする。	教養教育	2年次～
	アカデミック英語 一総合	大学において、アカデミックな場面で使用される英語表現の使用実例を題材とし、実践的に学ぶ活動を通じて、アカデミックな文章の読解や書き方などの基礎技能を英語で学ぶ授業で習得する。この授業はこれ以降学習者がさらに上級の科目を履修することを支援する基礎科目としての位置づけとする。この科目では実際に難易度の低い初級レベルのアカデミック英語文献の内容を訳読を通して理解するとともに、学習者がグループや各自の意見を、学術的に汎用性の高い表現を用いてアカデミックに通用する文章作成のための基礎技能を習得することを目的とする。	教養教育	2年次～
	初級日本語総合 (A-E; 漢字)	日本語初修者の外国人留学生を対象とし、基礎的な日本語力を総合的に向上させる。この科目は初級日本語総合A-Eおよび漢字をセットで履修し、大学生生活に必要な日本語基礎力を集中的に高日本語初修者の外国人留学生を対象とし、日本での日常生活や研究室でのコミュニケーションに必要なごく基礎的な日本語の表記および読む力を養成する。具体的には、あいさつ、買い物、移動、交友など、サバイバルレベルの日本語会話を取り上げ、簡単なやり取りを日本語で行うことができるように理解ができるように学習を進める。	国際教育	交換留学生 専用
	初級日本語 I 会話	日本語初修者の外国人留学生を対象とし、日本での日常生活や研究室でのコミュニケーションに必要なごく基礎的な日本語の表記および読む力を養成する。具体的には、あいさつ、買い物、移動、交友など、サバイバルレベルの日本語会話を取り上げ、簡単なやり取りを日本語で行うことができるように理解ができるように学習を進める。	国際教育	交換留学生 専用
	初級日本語 I 表記・読解	日本語初修者の外国人留学生を対象とし、日本での日常生活や研究室でのコミュニケーションに必要なごく基礎的な日本語の表記および読む力を養成する。具体的には、あいさつ、買い物、移動、交友など、サバイバルレベルの日本語会話を取り上げ、簡単なやり取りを日本語で行うことができるように理解ができるように学習を進める。	国際教育	交換留学生 専用
	初級日本語 I 文法	日本語初修者の外国人留学生を対象とし、基礎的な日本語の文法の知識を習得し、実用的な日本語の運用力向上のための基礎固めを行う。具体的には名詞文、動詞文、形容詞文の基礎的な文型や、機能文型の基礎的なものを学習する。	国際教育	交換留学生 専用
	初級日本語 II 文法	外国人留学生を対象とし、初級後半の基礎的な日本語文法の知識を習得する。これにより、正しい日本語運用力を高める基礎力を養成する。具体的には、授受、受身、使役、条件等の初級機能外国人留学生を対象とし、初級後半レベルのより実用的な会話力を高め、日常生活や研究室でのコミュニケーションがより円滑に自然に行えるようにする。	国際教育	交換留学生 専用
	初級日本語 II 会話	外国人留学生を対象とし、初級後半レベルの日常生活でよく使われる漢字の読み書き能力を高め、日本での日常生活がより円滑に行えるようにする。	国際教育	交換留学生 専用
	初級日本語 II 漢字	外国人留学生を対象とし、初級後半レベルの日常生活でよく使われる漢字の読み書き能力を高め、日本での日常生活がより円滑に行えるようにする。	国際教育	交換留学生 専用
	中級日本語 I 文法	日本語初級レベルの学習を修了した外国人留学生を対象とし、初級文法の総復習および中級前半レベルの文法知識を習得し、大学の学習、研究および日常生活に必要なややレベルの高い日本語運用力のための基礎固めをする。	国際教育	交換留学生 専用

中級日本語Ⅰ会話	日本語初級レベルの学習を修了した外国人留学生を対象とし、大学の学習、研究に必要な、待遇表現や、場面に応じた基礎的な会話力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
中級日本語Ⅰ読解	日本語初級レベルの学習を修了した外国人留学生を対象とし、論理的文章の構成について知識を得て、ごく基礎的な論文要旨、科学的文章などの理解力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
中級日本語Ⅰ作文	日本語初級レベルの学習を修了した外国人留学生を対象とし、論理的文章の構成について知識を取得し、ごく基礎的なレポート、論文要旨などの科学的文章作成力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
中級日本語Ⅰ漢字	日本語初級レベルの学習を修了した外国人留学生を対象とし、日常生活でよく使われる漢字の読み書き能力を高める。具体的には、専門、学術専門基礎用語などを取り上げ、授業とICTでの自習を融合させ、漢字力と同時に語彙力を向上させる。	国際教育	交換留学生 専用
中級日本語Ⅱ文法	日本語中級前半の学習を修了した外国人留学生を対象とし、日本語能力試験N2レベルの文法学習を進め、やや高度な文法知識を習得する。具体的には、教科書に沿って、類義する文末表現、助動詞、助詞等について解説および演習を繰り返しながら、知識を高める。	国際教育	交換留学生 専用
中級日本語Ⅱ会話	日本語中級前半の学習を修了した外国人留学生を対象とし、日本語能力試験N2レベルのやや高度な会話を理解し、使えるようにする。具体的には、場面や登場人物の関係性によって表現を適切に選択し、使用する演習を行い、会話力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
中級日本語Ⅱ読解	日本語中級前半の学習を修了した外国人留学生を対象とし、日本語能力試験N2レベルのやや高度な論理的な文章の理解力を高める。具体的には多様な論理的文章を読む演習を通じて、読解文型を理解し、論理的な読解スキルの基礎力を習得する。	国際教育	交換留学生 専用
中級日本語Ⅱ作文	日本語中級前半の学習を修了した外国人留学生を対象とし、レポート作成演習などを通じて、やや高度な論理的な文章作成力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
中級日本語Ⅱ漢字	日本語中級前半の学習を修了した外国人留学生を対象とし、日本語能力試験N2レベルのやや高度な会話的理解し、使えるようにする。具体的には、授業とICTを活用した自習を組み合わせ、主体的に学習を進め、論理的な文章で使われる基礎語彙を漢字学習を通じて習得する。	国際教育	交換留学生 専用
中級日本語Ⅱ文系	日本語中級前半の学習を修了した外国人留学生を対象とし、文系の専門領域で使用される基礎語彙、表現などを学習する。これを通じて、文系分野の基礎的な講義や文章を理解する力を高め、日本語能力試験N3合格レベルの外国人留学生を対象とし、日本語能力試験N2合格に必要な語彙力、読解力、文法力を高める。具体的には、能力試験対策の演習を繰り返して、N2合格相当の知識、日本語中級終了の外国人留学生を対象とし、ビジネス場面で使用される語彙、会話表現、ビジネス文書の読み書き能力を高める。具体的なビジネスシーンでの日本語を取り上げて演習を繰り返して、実用的で高度な日本語能力を習得する。	国際教育	交換留学生 専用
中級日本語Ⅱアカデミック日本語	日本語中級レベルの学習を修了した外国人留学生を対象とし、日本語能力試験N1レベルの文法、語彙知識および読解力を高める。具体的には高度な文法、論理的語彙および文章読解の知識を高め、演習を繰り返すことで定着を図りN1合格を目指す。	国際教育	交換留学生 専用
上級日本語ビジネス日本語	外国人留学生を対象とし、大学の授業、研究等で求められる日本語による高度な口頭表現能力を高める。特に、意見表明、討論、説明、資料を使った日本語のより発信力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
上級日本語アカデミック日本語	外国人留学生を対象とし、大学の授業、研究等で求められる日本語による高度な口頭表現能力を高める。特に、意見表明、討論、説明、資料を使った日本語のより発信力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
上級日本語A	外国人留学生を対象とし、大学の授業、研究等で求められる日本語による高度な口頭表現能力を高める。特に、意見表明、討論、説明、資料を使った日本語のより発信力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
上級日本語B	外国人留学生を対象とし、大学の授業、研究等で求められる日本語による高度な口頭表現能力を高める。特に、意見表明、討論、説明、資料を使った日本語のより発信力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
上級日本語C	外国人留学生を対象とし、大学の授業、研究等で求められる日本語による高度な口頭表現能力を高める。特に、意見表明、討論、説明、資料を使った日本語のより発信力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
上級日本語D	外国人留学生を対象とし、大学の授業、研究等で求められる日本語による高度な口頭表現能力を高める。特に、意見表明、討論、説明、資料を使った日本語のより発信力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
上級日本語E	外国人留学生を対象とし、大学の授業、研究等で求められる日本語による高度な口頭表現能力を高める。特に、意見表明、討論、説明、資料を使った日本語のより発信力を高める。	国際教育	交換留学生 専用
上級日本語F	外国人留学生を対象とし、大学の授業、研究等で求められる日本語による高度な口頭表現能力を高める。特に、意見表明、討論、説明、資料を使った日本語のより発信力を高める。	国際教育	交換留学生 専用

日本語

実践 (研修)	上級日本語G	外国人留学生を対象とし、文系、理系それぞれの専門領域に必要な基礎的な専門用語を習得し、専攻分野に合わせたレポート等の作成力を高める。	教養教育	1年次
	上級日本語H	外国人留学生を対象とし、論理的思考に必要な概念別に文章作成に必要なスキルを提示し、文章作成練習を行い、大学生活に必要な論理的思考力および文章表現力を高める。	教養教育	1年次
	海外研修型PBL (海外研修エーテーマ設定型)	事前に設定したテーマについて海外先進例を学ぶことを目的に短期海外研修を実施する。研修は事前研修と事後研修をセットとして実施し、派遣される学生は派遣前に設定されたテーマについて十分な基礎知識を得るとともに、海外事例に対しての疑問点や調査項目などを整理する。研修地では座学のみならず体験や施設訪問なども多く取り入れる事により設定されたテーマや現地の文化に対する理解の深化を図る。帰国後は現地での学びを整理し、報告会で成果を発表するとともに、報告書にもまとめる。研修を通じてグローバル人材基礎力の醸成を目標とする。	教養教育	1年次
	海外研修Aー語学研修	外国語の基礎運用力育成を目的として、海外で集中的に語学研修を実施することとする。海外での研修については、原則として事前オリエンテーション、事後報告会を実施することとする。研修の目的を明確に提示して、参加学生の語学力向上に資する研修とし、修了後の学修効果も十分に検証する。海外で研修することにより、参加学生が教室外での学修言語の使用による言語運用能力の向上とともに、言語が使用される地域文化への理解を深めることで異文化理解力等のグローバル人開発教育、環境、エネルギー等の特定課題を設定し、海外の協定大学や関連機関等において、インターンシップに参加しながら、特定課題に関する知識を高め、実務能力の基礎力を養成することとする。参加学生は、一定期間のインターンシッププログラムの企画、参加および評価までに主体的に参加し、実務能力を高める。	国際教育	
	海外研修Bーインターンシップ	学生の専門分野にかかわる学問横断的な特定課題を設定し、海外の協定大学や関連機関等において、研究を中心としたインターンシップに参加し、語学研修、課題解決、インターンシップ等を組み合わせた分野横断的な研修を実施し、総合的な異文化対応力及び実践力を高めることを目的とする。	国際教育	
	海外研修Cー研究インターンシップ	海外の協定大学や関連機関において、語学研修、課題解決、インターンシップ等を組み合わせた分野横断的な研修を実施し、総合的な異文化対応力及び実践力を高めることを目的とする。	国際教育	
	海外研修Dー複合タイプ	岩手の様々な地域資源を活用し、海外からの招へい学生、留学生と日本人学生とが岩手の持つ利点、課題等について知識を高め、共に考えることを通じ、地域をグローバルな視野で客観的に見る力を高める。それとともに、多様な背景の人々との協働力を高める。	国際教育	
	国際研修 in 岩手		国際教育	

課外	Foundation of English			
	Step-up English			
	Super English			
	留学準備中国語研修			

<付記>

- * その他、学部専門科目のグローバル教育関連科目(科学英語、国際研修等)に連携・協力する。
- * 網掛け科目はグローバル教育センター開設後の新規開講予定科目。
- * 科目区分のうち「教養教育」は現 共通教育科目、「国際教育」は現 国際交流科目。
- ◎ 国際教育科目(仮)は学部横断教育としての性格を有する。また、交換留学生の専門科目として位置づけられる。
- ◎ 国際教育科目(仮)履修については、学生が卒業単位として認定されるように、明確に位置づける必要がある。

岩手大学教育推進機構グローバル教育センター規則

(平成27年3月26日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、岩手大学教育推進機構規則第4条の規定に基づき、岩手大学教育推進機構グローバル教育センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、岩手大学（以下「本学」という。）の教育理念に基づき、地域に顕在化した諸課題を国際的視野から解決できる「グローバルな視点を持つ地域創生人材」の育成を行うグローバル教育について、各学部、研究科及び学内教育研究施設等と連携し、多様な国際教育プログラムを企画・運営し、全学のグローバル教育を推進することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 グローバル教育プログラムの企画・調整に関すること。
- 二 留学交流（受入・派遣）プログラムの企画・運営に関すること。
- 三 国際教育促進支援事業の企画・運営に関すること。
- 四 学内外との連携・協働による、グローバル教育の実施に関すること。
- 五 グローバル教育の評価及び改善に関すること。
- 六 その他第2条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 センターの業務を行う際には、他部局と連携・協力を図るものとする。

(組織)

第4条 センターに、岩手大学教育推進機構規則第9条及び第10条に定める者のほか、次の職員を置く。

- 一 専任教員
- 二 兼務教員（各学部、連合農学研究科及び国際連携室から）
- 三 その他、センター長が必要と認めた者

(兼務教員)

第5条 兼務教員は、専任教員と協力しセンターの業務を処理する。

- 2 兼務教員は、岩手大学教育推進機構グローバル教育センター会議（以下「センター会議」という。）が候補者を推薦し、機構長の申請に基づき学長が任命する。
- 3 機構長は、前項の申請に当たっては、当該教員の所属する学部等の長の同意を得るものとする。
- 4 兼務教員は、第7条に定めるチームの業務を担当するものとする。

(センター会議)

第6条 センターに、第3条に掲げる業務に関する事項及びセンターの運営に関する事項を審

議するため、センター会議を置く。

2 センター会議に関する規則は、別に定める。

(チーム及び検討会議)

第7条 センターに、第3条の業務を遂行するため、次に掲げるチームを置く。

一 国際教育推進チーム

二 留学交流推進チーム

2 チームの業務に関する事項を審議するため、それぞれのチームに検討会議を置く。

3 検討会議に関する規則は、別に定める。

(日本語研修コース等)

第8条 センターに、外国人留学生日本語研修コース、外国人留学生日本語・日本文化研修コース及び短期留学特別プログラムを置く。

2 前項の各コース及びプログラムの実施に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第9条 センターの庶務は、国際課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

岩手大学留学生数(平成26年5月1日現在)

()は女子で内数

《種別》

【学部所属】

学 部	正 規 生			小 計	非 正 規 生						小 計	合 計
	学部生				研 究 生				特別聴講学生	科目等履修生		
	国費	政府	私費		国費	政府	県費	私費	私費	私費		
人文社会科学部			16 (4)	16 (4)				4 (3)	8 (5)		12 (8)	28 (12)
教育学部			1 (1)	1 (1)	1 (1)			5 (5)	14 (12)		20 (18)	21 (19)
工学部		4 (4)	23 (4)	27 (8)	1			2 (1)	3 (1)		6 (2)	33 (10)
農学部			1 (1)	1 (1)				2			2	3 (1)
合 計		4 (4)	41 (10)	45 (14)	2 (1)			13 (9)	25 (18)		40 (28)	85 (42)

【大学院所属】

大 学 院	正 規 生			小 計	非 正 規 生						小 計	合 計	
					研 究 生			教 員 研 修 留 学 生	特 別 聴 講 学 生	特 別 研 究 学 生			科 目 等 履 修 生
					国 費	政 府	私 費	国 費	私 費	私 費			私 費
人文社会科学研究科			3 (2)	3 (2)									3 (2)
教育学研究科	1 (1)		13 (11)	14 (12)				1 (1)	3 (2)			4 (3)	18 (15)
工学研究科(M)	3		19 (6)	22 (6)					1			1	23 (6)
工学研究科(D)	1	1	15 (10)	17 (10)									17 (10)
農学研究科(M)			3 (2)	3 (2)					1			1	4 (2)
連合農学研究科	16 (8)		23 (9)	39 (17)									39 (17)
合 計	21 (9)	1	76 (40)	98 (49)				1 (1)	5 (2)			6 (3)	104 (52)

【国際教育センター所属】

国際教育センター	国 費		私 費		合 計
	日本語研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	特別聴講学生		
合 計		4 (3)	1 (1)		5 (4)

◆◆留学生総数◆◆

	国 費		政 府		県費		私 費		合 計	
正 規 生	21	(9)	5	(4)			117	(50)	143	(63)
非 正 規 生	7	(5)					44	(30)	51	(35)
合 計	28	(14)	5	(4)			161	(80)	194	(98)

〔連合農学研究科配属別内訳〕

(岩手大学12名、他大学配属27名)

	国 費	政 府	私 費	合 計
岩 手 大 学	6 (1)		6 (2)	12 (3)
帯広畜産大学	4 (3)		11 (5)	15 (8)
弘 前 大 学	1 (1)		3 (1)	4 (2)
山 形 大 学	5 (3)		3 (1)	8 (4)
合 計	16 (8)		23 (9)	39 (17)

〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国 費	政 府	私 費	合 計
岐 阜 連 獣	3	2 (1)	2 (1)	7 (2)

(国籍別:アフガニスタン2、エジプト3、
バングラデシュ1、韓国1)

〔連大他大学配属分除いた留学生数〕

167 (84)

《国籍別》

25ヶ国 1地域 194 人

アジア 13カ国1地域 172(80)人			北米 2カ国 3(3)人			アフリカ 2カ国 2(1)人			ヨーロッパ 6カ国 14(9)人		
インドネシア	3 (2)	ベ ト ナ ム	6 (3)	ア メ リ カ	2 (2)	エ ジ プ ト	1	アイスランド	2		
韓 国	15 (5)	マレーシア	5 (5)	カ ナ ダ	1 (1)	ウ ガ ン ダ	1 (1)	キルギス	1		
スリランカ	1 (1)	モ ン ゴ ル	6 (3)	中南米 2カ国2(1)人		中 東 1カ国 1(0)人		ハンガリー	1 (1)		
タ イ	9	ミャンマー	2 (1)	ジャマイカ	1	ヨ ル ダ ン	1	フ ラ ン ス	4 (3)		
台 湾	3 (3)	ネ パ ー ル	1	ブラジル	1 (1)			ブルガリア	1		
中 国	110 (53)	フィリピン	2 (1)			オセアニア 0カ国 0(0)人		ロ シ ア	5 (5)		
バングラデシュ	9 (3)										

岩手大学留学生数(平成26年11月1日現在)
()は女子で内数

《種別》
【学部所属】

学 部	正規生			小計	非正規生						小計	合計
	学部生				研究生				特別聴講学生	科目等履修生		
	国費	政府	私費		国費	政府	県費	私費	私費	私費		
人文社会科学部			16 (4)	16 (4)				6 (5)	9 (6)		15 (11)	31 (15)
教育学部			1 (1)	1 (1)	1 (1)			3 (5)	13 (9)		17 (15)	18 (16)
工学部		4 (4)	23 (4)	27 (8)				5	4 (1)		9 (1)	36 (9)
農学部			1 (1)	1 (1)				4 (2)			4 (2)	5 (3)
合 計		4 (4)	41 (10)	45 (14)	1 (1)			18 (12)	26 (16)		45 (29)	90 (43)

【大学院所属】

大 学 院	正 規 生			小 計	非正 規 生							小 計	合 計
					研 究 生			教員研修留学生	特別聴講学生	特別研究学生	科目等履修生		
	国費	政府	私費		国費	政府	私費	国費	私費	私費	私費		
人文社会科学研究科			3 (2)	3 (2)									3 (2)
教育学研究科	1 (1)		14 (12)	15 (13)				1 (1)	5 (4)			6 (5)	21 (18)
工学研究科(M)	3		21 (7)	24 (7)	1				4 (2)			5 (2)	29 (9)
工学研究科(D)	1	1	15 (10)	17 (10)									17 (10)
農学研究科(M)			3 (2)	3 (2)	1				1			2	5 (2)
連合農学研究科	15 (7)		22 (11)	37 (18)									37 (18)
合 計	20 (8)	1	78 (44)	99 (52)	2			1 (1)	10 (6)			13 (7)	112 (59)

【国際教育センター所属】

国際教育センター	国 費		私 費		合 計
	日本語研修留学生	日本語・日本文化研修留学生	特別聴講学生		
合 計	3 (3)	2 (1)	2 (1)		7 (5)

◆◆留学生総数◆◆

	国 費		政 府		県費		私 費		合 計	
正 規 生	20	(8)	5	(4)			119	(54)	144	(66)
非 正 規 生	9	(6)					56	(35)	65	(41)
合 計	29	(14)	5	(4)			175	(89)	209	(107)

〔連合農学研究科配属別内訳〕

〈岩手大学13名、他大学配属24名〉

	国 費	政 府	私 費	合 計
岩 手 大 学	6 (1)		7 (2)	13 (3)
帯広畜産大学	4 (3)		10 (5)	14 (8)
弘 前 大 学			3 (2)	3 (2)
山 形 大 学	5 (3)		2 (1)	7 (4)
合 計	15 (7)		22 (10)	37 (17)

〔岐阜連合獣医学研究科〕

	国 費	政 府	私 費	合 計
岐 阜 連 獣	2	2 (1)	2 (1)	6 (2)

(国籍別:アフガニスタン2、エジプト3、
バングラデシュ1、韓国1)

〔連大他大学配属分除いた留学生数〕

185 (93)

《国籍別》

23ヶ国 1地域 209 人

アジア 13カ国 1地域 185(87)人				北米 2カ国 5(2)人		アフリカ 2カ国 2(1)人		ヨーロッパ 5カ国 16(13)人	
インドネシア	4 (3)	ベトナム	6 (3)	アメリカ	4 (1)	エジプト	1	アイスランド	2 (1)
韓 国	15 (4)	マレーシア	5 (5)	カナダ	1 (1)	ウガンダ	1 (1)	キルギス	3 (2)
イ ン ド	1	モンゴル	6 (3)	中南米 1カ国 1(1)人		中東 0カ国 0(0)人		ハンガリー	1 (1)
タ イ	10 (4)	ミャンマー	2 (1)	エルサルバドル	1 (1)			フランス	4 (3)
台 湾	3 (2)	ネパール	1					ロシア	6 (6)
中 国	119 (57)	フィリピン	2 (1)			オセアニア 0カ国 0(0)人			
バングラデシュ	10 (3)	ラオス	1 (1)						

岩手大学と海外大学との交流協定締結状況

大学間交流協定（8カ国・地域 19大学）（2014年10月現在）

国・地域名	大学名	締結年月日	学術交流	学生交流
アイスランド	アイスランド大学	2011.02.16	○	○(全学)
アメリカ合衆国	オーバン大学	1998.11.06	○	
	アーラム大学	2003.08.11	○	○(全学)
	テキサス大学オースティン校	2004.10.20	○	○(全学)
	マサチューセッツ大学ローウエル校	2012.02.15	○	○(全学)
カナダ	セント・メアリーズ大学	2003.07.31	○	○(全学)
	サスカチュワン大学	2013.03.01	○	連合農学研究科・デジタル・イノベーション・研究センター
タイ王国	サイアム大学	2002.07.02	○	○(教育)
大韓民国	明知大学校	2004.07.13	○	○(全学)
	国立Hanbat大学校	2006.08.22	○	
	全南大学校	2009.09.01	○	○(農学)
台湾	国立高雄師範大学	2011.07.08	○	○(全学)
中華人民共和国	曲阜師範大学	2002.09.25	○	○(教育)
	北京大学・石河子大学	2003.12.05	○	
	西北大学	2003.12.09	○	○(全学)
	大連理工大學	2005.05.23	○	○(全学)
	吉林農業大学	2006.10.03	○	○(農学)
	寧波大学	2006.10.28	○	○(教育、人社)
	サンクト・ペテルブルグ国立文化芸術大学	2000.03.28	○	○(全学)

岩手大学と海外大学との交流協定締結状況

部局間交流協定（12カ国・地域 24大学等）（2014年10月現在）

国・地域名	大学等名	締結年月日	学術交流	学生交流	部局名
大韓民国	群山大学校	2011.01.20	○	○	人文社会科学部
フランス共和国	ミシエル・ド・モンテニュー ボルドー第3大学	2007.07.06	○	○	
中華人民共和国	北京大学 芸術学系、哲学系、宗教学系	1998.08.21	○		教育学部
	清華大学中文系	2000.12.15	○	○	
	山東工芸美術学院 国際交流与合作処	2006.05.19	○	○	
イタリア共和国	カララ大学	2005.10.05	○	○	
カナダ	ブリティッシュ・コロンビア大学 教育学部	2001.07.17	○		
アメリカ合衆国	ノース・セントラル・カレッジ	2002.09.06	○	○	農学部
アメリカ合衆国	パデュー大学農学部	1996.04.04	○	○	
ドイツ	ロッテンブルク大学	2013.11.06	○		連合農学研究科
モンゴル国	モンゴル国立農業大学	2014.02.24	○		

国・地域名	大学等名	締結年月日	学術交流	学生交流	部局名
タイ王国	チュラロンコン大学理学部	2002.01.10	○		
マレーシア	マレーシアパハ大学研究イノベーション部門	2010.12.01	○		
大韓民国	忠南大学校グリーンエネルギー技術専門大学院	2013.04.08	○		
モンゴル国	モンゴル国立大学 数学とコンピュータサイエンス学院	2007.09.14	○		
	モンゴル科学技術大学	2007.12.18	○	○	
	新疆農業大学	2003.11.10	○	○	
中華人民共和国	華南理工大學	2004.07.06	○		工学部
	西北農林科技大学信息工程学院	2006.08.23	○	○	
	西安科技大学計算機科学と技術学院	2010.09.08	○		
バングラデシュ人民共和国	バングラデシュ工科大学工学部	2003.12.23	○	○	
フランス共和国	ピエール・マリール・キュリー大学化学部	1997.04.19	○		
キルギス共和国	キルギス・トルコ マナス大学工学部	2009.10.22	○	○	
	キルギス・ロシア スラヴ大学工学部	2010.12.01	○	○	

＜用語解説 ①＞

大学間交流協定と部局間交流協定とは？

大学間交流協定とは岩手大学全体として相手方の大学と結んだ協定であり、一方、部局間交流協定とは一部の部局(例：工学部)だけが相手方大学(または相手方大学の一部局)と結んだ協定のことを指します。

＜用語解説 ②＞

学術交流と学生交流とは？

結んだ協定の中身を表す言葉です。学術交流の協定とは、お互いの教員・研究者や学生が交流し、共同研究等を行うと定める包括的な協定です。一方、学生交流の協定とは、双方の学生が互いの大学へ交換留学するために、単位互換や授業料といった詳細な条件を取り決めるものです。

平成26年度 海外交流状況

派遣

地域	国名等	教職員の派遣	学生の交換留学
アジア	タイ	16	
	マレーシア	2	
	シンガポール	3	
	インドネシア	9	
	フィリピン	2	
	韓国	34	
	モンゴル	1	
	ベトナム	1	
	中国	56	3
	台湾	13	
	インド	4	
	ネパール	1	
	バングラデシュ	9	
	ブータン	1	
中近東	オマーン	1	
	トルコ	3	
ヨーロッパ	アイスランド	2	
	フィンランド	1	
	スウェーデン	5	
	ノルウェー	2	
	デンマーク	1	
	イギリス	8	
	ベルギー	1	
	オランダ	3	
	ドイツ	17	
	フランス	11	3
	スペイン	4	
	ポルトガル	4	
	イタリア	5	1
	ギリシャ	2	
	オーストリア	3	
	スイス	7	
	ポーランド	2	
	ハンガリー	1	
	ロシア	3	1
	チェコ	2	
	スロベニア	1	
北米	カナダ	29	
	アメリカ合衆国	48	2
中南米	メキシコ	2	
	アルゼンチン	1	
オセアニア	オーストラリア	15	
	ニュージーランド	2	
合計	43ヶ国・地域	338	10

受入

地域	国名等	教職員の受入	学生の交換留学
アジア	タイ	6	2
	マレーシア	1	
	韓国	4	2
	モンゴル	7	
	中国	14	16
	台湾		4
	インド	3	
	バングラデシュ	2	
中近東	イラン	1	
アフリカ	エジプト	6	
ヨーロッパ	アイスランド		1
	イギリス	2	
	フランス	2	3
	スペイン	1	
	ロシア		3
	チェコ	1	
	キルギス		4
北米	カナダ	1	1
	アメリカ合衆国		4
中南米	メキシコ	1	
オセアニア	オーストラリア	2	
合計	21ヶ国・地域	54	40



学生支援部門

学生支援部門会議委員名簿

(平成26年4月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	栗 林 徹	教育学部
専任教員	松 岡 洋 子	教育推進機構
兼務教員	山 本 昭 彦	人文社会科学部
	澤 村 省 逸	教育学部
	吉 原 信 人	工学部
	村 元 隆 行	農学部
各学部選出教員	松 岡 勝 実	人文社会科学部
	菊 地 悟	教育学部
	海 田 輝 之	工学部
	高 畑 義 人	農学部
学生支援課長	今 野 和 男	学務部

活動報告

部門長 栗林 徹

東日本大震災被災学生への経済支援を実施

東日本大震災で被災した学生の皆さんの修学支援として、検定料の免除、入学料・授業料の減免、寄宿料の免除、岩手大学独自の奨学金の給付などの経済支援を行いました。

入学料免除者は44名、授業料免除者は205名、寄宿料免除者は5名となりました。

ボランティア促進イベントの開催

継続的なボランティア活動を支援するために、ボランティア促進イベントとして毎月1回「ボランティア説明会」を開催しました。イベントでは、名古屋先生の講話とボランティア活動の単位認定について、併せてボランティアコーディネーターからボランティア保険について、更に三陸復興サポート学生委員会等から被災地でのボランティア活動について説明を行い、ボランティア参加者の募集を行いました。

駐輪指導の実施

構内環境整備と交通ルールの周知を図るために、平成26年度も春（4月16日（水）～22日（火）まで）と秋（10月6日（月）～10日（金）まで）の2回駐輪指導を行いました。学生支援部門の委員と学生支援課職員の他、学部の学生委員、財務委員にも協力いただき、学生議会運営委員会委員と協働で行い、マナーの向上に努めました。また、今年度も自転車の登録を積極的に奨励しました。放置自転車や盗難防止に効果が上がることを期待しております。

第57回盛岡・つなぎ間ロードレース大会の実施

第57回盛岡・つなぎ間ロードレース大会（太田橋脇～ホテル紫苑までの約12km）を、5月31日（土）に開催しました。団体の部では教育学部が、サークル対抗の部では陸上競技部が優勝し、それぞれ3連覇を果たしました。

参加者：学生210名、教職員3名



Let'sびぎんプロジェクトの実施

Let'sびぎんプロジェクトは、学生が共同で行う独創的なプロジェクトを支援するもので、1件あたり50万円を上限に経費を支援しています。

平成26年度は、審査の結果、2件の地域貢献事業を含む7件を採択し支援を行いました。

発達障がい学生の修学支援に関する学習会の実施

教職員を対象に「発達障がいの正しい理解と対応について」を学ぶ機会として、外部の講師を招き、同じ内容で2回学習会を行いました。

学習会には、いわて高等教育コンソーシアムを構成する大学からも多くの参加があり、今後の支援の参考になる有意義な学習会となりました。障がいを持つ学生への修学支援の必要性が高まっていることを実感しました。

学習テーマ：発達障がいの理解と対応

1回目 平成26年10月24日（金）

2回目 平成26年10月29日（水）

講師：田代拓之 氏

（発達障害者支援センター ウィズ）

場所：学生センターB棟1階 多目的室



保健管理センター教員と担任教員との連絡会

大学における障害者支援に関わる法改正等の動きと岩手大学の状況や学生指導に関する担任教員の留意点、授業に出てこない学生への対応等について、保健管理センター教員と担任教員とで情報交換を行いました。

日時：平成26年9月8日（月）13:30～15:30

場所：学生センターB棟多目的室



ガンチョンタイムの開催

学生議会実行委員会が主催する会食会で、毎回テーマを設定し、そのテーマに沿ったゲストをお呼びして意見交換を行いました。

○第1回：テーマは「学長と語ろう！」

日時：平成26年5月15日（木）12:10～12:50

場所：総合教育研究棟（教育系）会議室

○第2回：テーマは「駐輪マナーは大丈夫？」

日時：平成26年11月27日（木）12:10～12:50

場所：学生センターB棟多目的室

学生指導担当教職員研修会・課外活動サークルリーダーシップセミナーの実施

平成26年12月13日（土）に学生センターA棟を会場として、学生及び教職員がそれぞれのプログラムに参加し実施しました。

また、プログラム終了後には教職員と学生とが一堂に会して交流会を開催しました。

参加者：教職員23名 学生58名 合計81名

○課外活動サークルリーダーシップセミナーの内容：

①講演（教職員と一緒に受講）

「リーダーシップを巡る諸問題」

講師：人文社会科学部 鈴木 護 氏

②ディスカッション

「これからのサークル活動に向けて
～リーダーシップとサークルの運営～」

学友会中央委員会

○学生指導担当教職員研修会の内容：

①講演（学生と一緒に受講）

②ディスカッション

「学生を取り巻く最近の状況について」

～「危険ドラッグ」「デートDV」「不登校」「飲酒」「アルバイト」「盗難」「ネット詐欺」
「カルト」「交通事故」等のキーワードから～

進行：学生支援部門長 栗林 徹 氏



学長と学生との懇談会の開催

各学部卒業年次及び各研究科修了年次の代表学生22名の参加を得て、テーマを「岩手大学を選んだ理由、岩手大学に入学して良かったこと、改善して欲しいこと」として開催しました。

日時：平成27年2月27日（金）10:00～12:00

場所：学生センターB棟多目的室

参加教職員：学長代行，理事・副学長，監事，学部長若しくは副学部長，学生支援部門長，総務企画部長，財務部長，研究交流部長，学務部長等

上田地域活動推進会と学生との懇談会

平成27年1月13日（火）に、今年度も上田地域活動推進会の皆さまと学生代表（学生4団体，環境マネジメント，学生寮，留学生等）とが意見交換を行いました。

推進会からは、ゴミ出しルールの厳守（留学生含む）や清掃・除雪などのボランティア協力の要望が出されました。この事については、学生議会や環境マネジメントから、話し合いのテーマに取り上げることで、ゴミや環境問題に取り組んでいきたいとの回答があった。

双方にとって有意義な懇談会となりました。



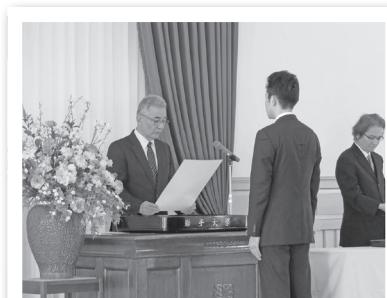
寮生と学生指導担当教職員との懇談会

平成26年度は、前期の6月25日（水）に自啓・同袍寮、7月8日（火）に北謳・紅梅寮、後期の12月2日（火）に北謳・紅梅寮、12月9日（火）に自啓・同袍寮、それぞれ代表者と学生指導担当教職員とが寮運営の在り方等について意見交換を行い、双方の思いが共有できた有意義な機会となりました。また、快適な寮生活の実現に向けて大学側と寮生側とも目指すところは同じであり、今後も懇談会を年2回実施することを確認しました。

学生表彰の実施

学生または学生団体（学生が任意に組織したサークル等のグループを含む）が研究活動、課外活動、社会活動等において、特に顕著な業績を挙げた場合にその学生及び学生団体を学長が表彰しております。

平成26年度の学生表彰は3月20日（金）に行われ、学長賞は個人17名、団体2団体、奨励賞は個人34名、団体2団体に授与しました。



平成26年度 岩手大学学生表彰者名簿

○学長賞(個人)

番号	氏名	所属	指導教員・顧問教員	受賞等
1	山下 萌	平成23年度入学 農学部 農学生命課程	農学部 農学生命課程 教授 築城 幹典	①システム農学会 システム農学会優秀発表賞(北村賞)
2	森永 涼介	平成21年度入学 農学部 獣医学課程	農学部 共同獣医学科 教授 山本 欣郎	①日本獣医解剖学会 日本獣医解剖学会奨励賞(学部学生部門)
3	佐々木 紫乃	平成26年度入学 農学研究科 共生環境専攻	農学部 共生環境課程 教授 関野 登	①日本木材加工技術協会 日本木材加工技術協会第32回年次大会優秀ポスター賞
4	小賀坂 拓磨	平成25年度入学 工学研究科 フロンティア材料機能工学専攻	工学研究科 フロンティア材料機能工学専攻 准教授 山口 明	①日本金属学会秋季大会 優秀ポスター賞 ②日本金属学会東北支部発表大会 優秀ポスター賞
5	宮永 冬彦	平成25年度入学 工学研究科 フロンティア材料機能工学専攻	工学研究科 フロンティア材料機能工学専攻 教授 山口 勉功	①資源・素材2013(札幌)秋季大会 若手ポスター賞 ②平成26年度環境資源工学会第133回例会 優秀ポスター賞
6	高橋 和弥	平成26年度入学 工学研究科 電気電子・情報システム工学専攻	工学研究科 電気電子・情報システム工学専攻 准教授 本間 尚樹	①Asian Pacific Microwave Conference(APMC2014) : APMC2014 Student Prize
7	佐々木 舜	平成25年度入学 工学研究科 デザイン・メディア工学専攻	工学研究科 デザイン・メディア工学専攻 教授 今野 晃市	①芸術科学会 NICOGRAPH2014 優秀論文賞
8	楊 溪	平成25年度入学 工学研究科 デザイン・メディア工学専攻	工学研究科 デザイン・メディア工学専攻 教授 今野 晃市	①芸術科学会 NICOGRAPH2014 優秀論文賞
9	大西 康平	平成25年度入学 工学研究科 機械システム工学専攻	工学研究科 機械システム工学専攻 助教 佐々木 誠	①日本人間工学会第55回大会 最優秀研究発表奨励賞
10	高橋 大輔	平成24年度入学 連合農学研究科 寒冷圏生命システム学専攻	農学部 附属寒冷バイオフロンティア研究センター 教授 上村 松生	①国際低温生物学会2014年度大会 : Student Travel Award、John K.Critser Student Travel Award、Peter L.Steponkus Crystal Award 授賞 ②第6回国際農学プロアオームシンポジウム : The Best Talk Award
11	西野 明日香	平成24年度入学 連合農学研究科 寒冷圏生命システム学専攻	工学部 応用化学・生命工学科 准教授 松浦 哲也	①第26回日本脳循環代謝学会総会 最優秀ポスター賞
12	山崎 由理	平成26年度入学 連合農学研究科 生物資源科学専攻	連合農学研究科 生物環境科学 准教授 宗岡 寿美	①第45回日本緑化工学会大会 最優秀ポスター賞 ②国際水田・水環境工学会2014年国際会議 Best Oral Presentation Award
13	松下 佑也	平成25年度入学 教育学部 学校教育教員養成課程	弓道部顧問 工学部 准教授 向川 政治	①第62回全日本学生弓道選手権大会 男子個人戦 優勝
14	佐藤 洸彬	平成26年度入学 教育学部 学校教育教員養成課程	スケート同好会顧問 人文社会科学部 教授 浅沼 道成	①第83回全日本フィギュアスケート選手権大会 第10位 ②第87回日本学生氷上選手権大会 第6位
15	高橋 英輝	平成23年度入学 教育学部 学校教育教員養成課程	陸上競技部顧問 教育学部 教授 上濱 龍也	①ワールドカップ競歩男子20km競歩で個人9位、団体(日本代表チーム)第3位 ②天皇賜盃第83回日本学生陸上競技対校選手権大会男子10000m競歩 優勝 ③2014長崎陸協競歩大会 男子10000m競歩 優勝(日本記録)
16	土橋 智花	平成26年度入学 教育学部 生涯教育課程	陸上競技部顧問 教育学部 教授 上濱 龍也	①天皇賜盃第83回日本学生陸上競技対校選手権大会女子200m 優勝 ②第98回日本陸上競技選手権大会女子200m 第4位 ③世界ジュニア大会陸上競技女子4×100mリレー(日本代表) 第6位
17	佐貫 成啓	平成25年度入学 教育学部 生涯教育課程	陸上競技部顧問 教育学部 教授 上濱 龍也	①2014日本学生陸上競技個人選手権男子100m 第3位

○学長賞(団体)

番号	団体名	指導教員・顧問教員	受賞等
1	岩手大学環境マネジメント学生委員会 (EMSC)	環境マネジメント推進室 室長 西谷 泰昭	①第6回エコ大学ランキング 5つ星エコ大学
2	吹奏楽部	吹奏楽部顧問 人文社会科学部 教授 宮本 ともみ	①全日本吹奏楽コンクール第62回全国大会 銅賞 ②全日本吹奏楽コンクール第57回東北大会 金賞

平成26年度岩手大学学生表彰者名簿(個人・団体)

○奨励賞(個人)

番号	受賞者		指導教員	受賞等
1	藤井 知世	平成21年度入学 農学部 獣医学課程	農学部 共同獣医学科 教授 御領 政信 農学部 共同獣医学科 助教 佐々木 淳	①平成26年度獣医学術東北地区学会 獣医学術東北地区学会奨励賞(小動物部門)
2	大舘谷 光	平成21年度入学 農学部 獣医学課程	農学部 共同獣医学科 准教授 片山 泰章	①平成26年度獣医学術東北地区学会 東北獣医師会連合会長賞(小動物部門)
3	沼倉 彬雄	平成23年度入学 工学部 電気電子・情報システム工学科	工学部 電気電子・情報システム工学科 准教授 金 天海	①第2回情報処理学会東北支部研究会 学生奨励賞
4	工藤 尚範	平成25年度入学 工学研究科 フロンティア材料機能工学専攻	工学研究科 フロンティア材料機能工学専攻 准教授 宇井 幸一	①平成26年度化学系学協会東北大会 優秀ポスター賞
5	笹川 大	平成26年度入学 工学研究科 電気電子・情報システム工学専攻	工学研究科 電気電子・情報システム工学専攻 准教授 本間 尚樹	①電気関係学会東北支部連合大会 IEEE Student Session : The Best Paper Prize
6	今野 恵太	平成25年度入学 工学研究科 電気電子・情報システム専攻	工学研究科 電気電子・情報システム工学専攻 准教授 本間 尚樹	①電子情報通信学会アンテナ伝播研究会 学生奨励賞
7	成澤 翔	平成25年度入学 工学研究科 機械システム工学専攻	工学研究科 機械システム工学専攻 准教授 佐藤 淳	①計測自動制御学会東北支部第288回研究集会 優秀発表奨励賞
8	佐藤 友紀	平成26年度入学 連合農学研究科 生物資源科学専攻	農学部 応用生物化学課程 教授 長澤 孝志	①第48回日本栄養・食糧学会東北支部大会 若手奨励賞
9	後藤 拓也	平成24年度入学 教育学部 生涯教育課程	サッカー部顧問 教育学部 教授 鎌田 安久	①平成25年度東北学生選抜サッカーチーム 選出 ②平成25年度全日本大学サッカー地域対抗戦(第28回デンソーカップチャレンジサッカー西都市大会)北海道東北学生選抜 選出 ③平成26年度北海道東北学生選抜サッカーチーム 選出
10	石井 勇也	平成25年度入学 工学部 電気電子・情報システム工学科	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①第48回少林寺拳法全日本学生大会 男子茶帯の部 第5位 ②第44回少林寺拳法東北学生新人大会 男子茶帯の部 第1位
11	久保 勝也	平成26年度入学 工学部 電気電子・情報システム工学科	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①第44回少林寺拳法東北学生新人大会 男子白、緑帯の部 第1位
12	大出 祐友	平成25年度入学 工学部 社会環境工学科	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①第47回少林寺拳法東北学生大会 男子茶帯の部 第1位
13	木村 洋輔	平成25年度入学 教育学部 学校教育教員養成課程	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①第47回少林寺拳法全日本学生大会 男子茶帯の部 第5位 ③第44回少林寺拳法東北学生新人大会 男子茶帯の部 第1位
14	衣川 鴻佑	平成26年度入学 人文社会科学部 法学・経済課程	少林寺拳法部顧問 教育学部 教授 新妻 二男	①第44回少林寺拳法東北学生新人大会 男子白、緑帯の部 第1位
15	中島 悠	平成23年度入学 教育学部 学校教育教員養成課程	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第87回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体戦 ラテン パソドブレ種目、ラテン サンバ種目 第1位
16	小西 健太	平成23年度入学 工学部 機械システム工学科	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第87回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体戦 ラテン パソドブレ種目、ラテン サンバ種目 第1位
17	櫻井 真結	平成24年度入学 人文社会科学部 人間科学課程	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第87回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体戦 スタンダード ワルツ種目 第1位
18	佐々木 聡凜	平成24年度入学 工学部 機械システム工学科	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第87回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体戦 スタンダード ワルツ種目 第1位
19	太田 惇貴	平成23年度入学 工学部 応用化学・生命工学科	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第87回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体戦 スタンダード タンゴ種目、スタンダード クイックステップ種目 第1位
20	岡田 結衣	平成25年度入学 人文社会科学部 人間科学課程	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第87回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体戦 スタンダード タンゴ種目、スタンダード クイックステップ種目 第1位
21	柏 翔悟	平成24年度入学 工学部 社会環境工学科	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第87回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体戦 ラテン チャチャチャ種目・ラテン ルンバ種目 第1位
22	矢羽々 咲子	平成24年度入学 教育学部 学校教育教員養成課程	競技舞蹈部顧問 工学部 助教 若林 篤光	①第87回全東北学生競技ダンス選手権大会 団体戦 ラテン チャチャチャ種目・ラテン ルンバ種目 第1位
23	江口 拓麻	平成24年度入学 教育学部 生涯教育課程	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携推進課長 早川 浩之	①第39回東北学生アメリカンフットボールリーグ 最優秀オフェンスバック(RB:ランニングバック) 選出 ②第39回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(R:リタナーナ) 選出
24	石松 朝輝	平成24年度入学 農学部 動物科学課程	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携推進課長 早川 浩之	①第39回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(DL:ディフェンスライン) 選出
25	光成 芳	平成24年度入学 教育学部 学校教育教員養成課程	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携推進課長 早川 浩之	①第39回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(LB:ラインバック) 選出
26	高坂 仁	平成24年度入学 工学部 機械システム工学科	アメリカンフットボール部顧問 研究交流部 地域連携推進課長 早川 浩之	①第39回東北学生アメリカンフットボールリーグ オール東北メンバー(WR:ワイドレシーパー) 選出

平成26年度岩手大学学生表彰者名簿(個人・団体)

27	野坂 佳奈子	平成26年度入学 農学部 動物科学課程	馬術部顧問 農学部 教授 佐藤 れえ子	①第54回北日本学生馬術定期新人戦 団体優勝
28	四方田 一成	平成26年度入学 農学部 動物科学課程	馬術部顧問 農学部 教授 佐藤 れえ子	①第54回北日本学生馬術定期新人戦 団体優勝 ②第54回北日本学生馬術定期新人戦 最優秀選手賞 ③第54回北日本学生馬術定期新人戦 各馬賞
29	中津 祥也	平成26年度入学 農学部 共同獣医学科	馬術部顧問 農学部 教授 佐藤 れえ子	①第54回北日本学生馬術定期新人戦 団体優勝 ②第54回北日本学生馬術定期新人戦 各馬賞
30	早川 信太郎	平成23年度入学 教育学部 生涯教育課程	バスケットボール部顧問 教育学部 教授 栗林 徹	①第15回東北大学バスケットボールリーグ 優秀賞
31	柳澤 洸太	平成24年度入学 教育学部 生涯教育課程	バスケットボール部顧問 教育学部 教授 栗林 徹	①第15回東北大学バスケットボールリーグ アシスト王
32	阿部 慎太郎	平成26年度入学 教育学部 生涯教育課程	バスケットボール部顧問 教育学部 教授 栗林 徹	①第15回東北大学バスケットボールリーグ アシスト王
33	佐藤 和幸	平成23年度入学 工学部 機械システム工学科	工学部機械システム工学科 准教授 三好 扶	①2014ロボットコンベンションinJAMSTEC フリースタイル部門 第3位
34	森 隼人	平成26年度入学 工学研究科 機械システム工学専攻	工学研究科機械システム工学専攻 准教授 三好 扶	①2014ロボットコンベンションinJAMSTEC 海洋研究開発機構理事長賞

○奨励賞(団体)

番号	団体名	指導教員・顧問教員	受賞等
1	弓道部(女子)	弓道部顧問 工学部 准教授 向川 政治	①第44回東北地区秋季女子学生弓道大会 I 部リーグ 団体優勝
2	もりもり☆岩手	三陸復興推進機構 生活支援部門 ボランティア班 班長 名古屋 恒彦	①東日本大震災被災地における復興支援活動



キャリア支援部門

キャリア支援部門会議委員名簿

(平成26年4月1日)

	氏 名	担 当 部 局 等
部門長	喜 多 一 美	農学部
兼務教員	浅 沼 道 成	人文社会科学部
	重 松 公 司	教育学部
	山 口 昌 樹	工学部
	佐 野 宏 明	農学部
キャリア支援課長	佐 藤 祐 一	学務部



活動報告

部門長 喜多 一美

I キャリア支援部門会議

第1回 日 時：平成26年4月25日（金）9：00～

会 場：学生センターB棟1階多目的室

議 題

- （1）副議長の選出について
- （2）平成26年度への引継事項について
- （3）平成26年度キャリア教育支援及び就職支援に係る事業計画について
- （4）進路届の提出方法について
- （5）その他

報 告

- （1）各学部就職委員会等報告
- （2）平成25年度卒業・修了者の進路決定状況について
- （3）平成25年度及び平成26年度卒業・修了生向け求人件数及びキャリア支援相談状況
- （4）産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の進捗状況について
- （5）その他

第2回 日 時：平成26年7月28日（月）10：30～

会 場：学生センターB棟1階多目的室

議 題

- （1）「岩手大学合同企業説明・採用選考会（夏季合説）」の開催について
- （2）岩手県内に岩大生を定着させるための企業見学に関する取扱について
- （3）オープンキャンパスでの「入学希望者と保護者向け就職説明会」の開催について
- （4）その他

報 告

- （1）各学部就職委員会等報告
- （2）岩手県内3大学連携インターンシップ事業の実施状況について
- （3）平成26年度キャリア形成支援事業の実施状況について
- （4）平成26年度卒業・修了予定者向け求人件数及びキャリア支援相談状況について
- （5）「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の進捗状況について
- （6）平成26年度国家公務員採用総合職試験結果
- （7）その他

①2014年卒学生の就職活動の実態に関する調査

第3回 日 時：平成26年9月17日（水）10：30～

場 所：学生センターB棟1階多目的室

議 題

- (1) 岩手大学におけるキャリア教育について
- (2) 平成26年度キャリア教育支援及び就職支援に係る事業計画の実施状況等について
- (3) 「北上市内企業等見学バスツアー（教員対象）」の実施について
- (4) 「岩手県内企業説明懇談会（案）」への共催について
- (5) その他

報 告

- (1) 各学部就職委員会等報告
- (2) 平成26年度卒業・修了予定者の進路決定状況について
- (3) 「岩手大学合同企業説明・採用選考会」実施報告
- (4) 「保護者と入学希望者向け就職説明会」実施報告
- (5) 「北上市内企業見学バスツアー」実施報告
- (6) 平成26年度卒業・修了予定者向け求人件数及びキャリア支援相談状況について
- (7) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の進捗状況について
- (8) C O C 事業の進捗状況について
- (9) その他

第4回 日 時：平成26年12月16日（火）10：30～

場 所：学生センターB棟1階多目的室

議 題

- (1) キャリア支援部門会議規則の一部改正について
- (2) 第3期中期目標について
- (3) 岩手大学におけるキャリア教育について（継続審議）
- (4) 岩手大学における就職率の取扱いについて
- (5) 花巻市との企業等見学バスツアーについて
- (6) 平成26年度キャリア教育支援及び就職支援に係る事業計画の実施状況等について
- (7) その他

報 告

- (1) 各学部就職委員会等報告
- (2) 平成26年度卒業・修了予定者の進路決定状況について
- (3) 「保護者向け就職説明会」実施報告
- (4) 平成26年度卒業・修了予定者向け求人件数及びキャリア支援相談状況について
- (5) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」の進捗状況について
- (6) C O C 事業の進捗状況について
- (7) その他

第5回 日 時：平成27年3月25日（水）15：00～

場 所：学生センターB棟1階多目的室

議 題

- (1) 第3期中期目標・中期計画について
- (2) 岩手大学におけるキャリア教育について（継続審議）
- (3) 平成27年度開講予定のキャリア教育科目について
- (4) 平成27年度キャリア形成支援事業計画（案）について
- (5) 平成26年度の総括及び平成27年度への引継事項について
- (6) その他

報 告

- (1) 各学部就職委員会等報告
- (2) 平成26年度卒業・修了者向け求人件数及びキャリア支援相談状況について
- (3) 平成26年度卒業・修了予定者の進路決定状況について
- (4) 岩手大学主催合同企業等説明会実施報告
- (5) 発達障がい学生の就職支援に関する学習会実施報告
- (6) 花巻市内企業等見学バスツアー実施報告
- (7) 教員向け北上市内企業見学バスツアー実施報告
- (8) 「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」について
- (9) 「COC事業」の進捗状況について
- (10) その他

II キャリア形成支援事業

1 キャリア教育科目の実施

- (1) 全学共通教育科目の「キャリアを考える」
前期：履修生197名，後期41名
- (2) 全学共通教育科目の「地場産業・企業論」
岩手県立大学との共同開講
履修生岩手大学10名，岩手県立大学5名

2 キャリアガイダンスの実施

- (1) 平成26年4月実施
 - ・面接実践講座（グループ・ディスカッション），参加者13名
 - ・面接実践講座（集団・個別面接），参加者14名
 - ・人社基礎ゼミガイダンス，参加者221名
- (2) 平成26年5月実施
 - ・面接実践講座（個別・集団面接），参加者6名
 - ・キャリアガイダンス「進路を考える①」，参加者58名

- ・キャリアガイダンス「進路を考える②」，参加者132名



- ・キャリアガイダンス（コミュニケーション講座①），参加者20名
- ・キャリアガイダンス（コミュニケーション講座②），参加者20名

（3）平成26年6月実施

- ・面接実践講座（個別・集団面接），参加者3名
- ・キャリアガイダンス「自分を知るガイダンス」，参加者18名
- ・農学就職活動スタートガイダンス，参加者70名
- ・人文社会科学部及び教育学部就職活動スタートガイダンス，参加者107名
- ・工学研究科就職活動スタートガイダンス，参加者68名
- ・キャリアガイダンス「働く」を考える『先輩に聞く』アルバイトから学ぶ話，参加者8名
- ・工学部就職活動スタートガイダンス，参加者55名
- ・キャリアカフェ①「伝える仕事と販売の仕事」，参加者12名



- ・就活対策！適性・適職探索（自己分析実践）ガイダンス，参加者119名

- ・就活対策！適性・適職探索（自己分析実践）ガイダンス，参加者97名
- ・キャリアカフェ②「企画の仕事と鉄道の仕事」，参加者6名
- ・留学生対象就職ガイダンス，参加者14名
- ・就活攻略！就活事情最前線ガイダンス，参加者132名

（４）平成26年7月実施

- ・キャリアガイダンス【論理的思考のススメ～ライティング講座】，参加者25名
- ・元人事担当者による就活内定獲得対策ガイダンス，参加者82名
- ・就活対策！SPI試験対策ガイダンス，参加者85名
- ・就活必須！業界研究ガイダンス，参加者45名
- ・就活必須！業界研究ガイダンス，参加者60名
- ・就活実践研究！企業研究実践講座（岩手県内企業編），参加者17名



- ・就活再確認！就活準備総復習（夏休み有効活用）ガイダンス，参加者61名

（５）平成26年8月実施

- ・働く力測定，参加者38名
- ・業界研究実践講座（銀行業界（メガバンク）編），参加者31名
- ・北上市企業見学バスツアー事前説明会，参加者20名
- ・北上市企業見学バスツアー，参加者36名



(6) 平成26年10月実施

- ・キャリアガイダンスコミュニケーション講座（相手を尊重し自分を伝える方法），参加者9名
- ・キャリアガイダンス（働く岩大卒業生から学ぶリアルライフ），参加者8名
- ・キャリアガイダンス（ライティング講座），参加者20名
- ・職務適性テスト無料受検会，参加者59名
- ・就活スケジュール変更による注意事項についてのガイダンス，参加者73名
- ・業界職種研究セミナー理系向け①，参加者82名
- ・業界職種研究セミナー文系向け①，参加者60名

(7) 平成26年11月実施

- ・進路変更者のための就職活動講座，参加者20名
- ・業界職種研究セミナー理系向け，参加者45名
- ・業界職種研究セミナー文系向け，参加者38名
- ・コミュニケーション講座（相手を尊重し自分を伝える方法），参加者10名
- ・エントリーシート対策ガイダンス，参加者145名
- ・キャリアカフェ ①（内定者），参加者33名
- ・第2回職務適性テスト無料受検会，参加者76名
- ・自己PR講座（キラリと輝くオリジナル自己紹介），参加者12名



- ・職務適性テスト受検結果解説会，参加者46名
- ・教員向け就職・採用活動時期の変更に関する説明会，参加者19名
- ・キャリアカフェ ②（内定者），参加者38名
- ・企業研究実践講座（岩手県内企業編），参加者13名

(8) 平成26年12月実施

- ・就活重要！面接対策ガイダンス，参加者52名
- ・就活重要！面接対策ガイダンス，参加者60名

- ・キャリアカフェ①（公務員編），参加者9名
- ・第2回職務適性テスト診断結果解説ガイダンス，参加者54名
- ・キャリアカフェ②（グローバル編），参加者3名
- ・キャリア教育シンポジウム「大学におけるキャリア教育を考える」，参加者58名
- ・エントリーシート対策実践講座，参加者42名



- ・キャリアカフェ③（OB／OG編），参加者10名
- ・キャリアカフェ④（専門職編），参加者9名
- ・先輩と話そう！～現役教員OB・OG＆今年度教員採用試験合格者との交流会～，参加者17名

（9）平成27年1月実施

- ・花巻市企業等見学バスツアー事前研修会，参加者9名
- ・花巻市企業等見学バスツアー，参加者10名
- ・キャリアガイダンス「内定者のための社会人スタートアップ講座」，参加者9名
- ・就活総復習ガイダンス，参加者33名
- ・就職ガイダンス「就活基本！エントリーシート対策ガイダンス」，参加者121名
- ・就職ガイダンス「就活確認！就活総復習ガイダンス」，参加者128名

（10）平成27年2月実施

- ・実践練習！エントリーシート記入実践講座，参加者76名
- ・スタート目前！企業合同説明会参加攻略ガイダンス，参加者193名

（11）平成27年3月実施

- ・日本茶の美味しい入れ方教室，参加者15名
- ・北上市内企業見学バスツアー（教員編），参加者6名
- ・集団面接実践練習講座，参加者54名



- ・グループディスカッション実践練習講座，参加者41名

3 大学主催学内合同就職説明会

- ・平成26年8月7日，参加事業所68，参加学生37名
- ・平成27年3月1日～3日，参加事業所333，参加学生1,900名



4 保護者及び入学希望者向け就職説明会

- ・平成26年8月6日，参加者20名
- ・平成26年10月18日，参加者31名



5 インターンシップ及びジョブシャドウ

(1) 県内三大学連携インターンシップ

全体説明会：平成26年4月22日，参加者79名

平成26年4月28日，参加者70名

事前指導Ⅰ：平成26年6月4日，参加者87名

事前指導Ⅱ：平成26年7月8日，参加者71名

事後指導：平成26年11月11日，参加者34名

インターンシップ参加者85名，受入事業所48箇所

(2) 工学部インターンシップ

参加者65名

(3) 農学部インターンシップ

参加者94名

(4) ジョブシャドウ

説明会：平成26年7月2日～4日，参加者40名

事前勉強会：平成26年7月16日～22日，参加者38名

プレゼン基礎講座：平成26年9月30日，参加者21名

ジェネリックスキル測定PROG結果解説会：平成26年9月30日，参加者30名

事後報告会：平成26年11月1日，参加者61名

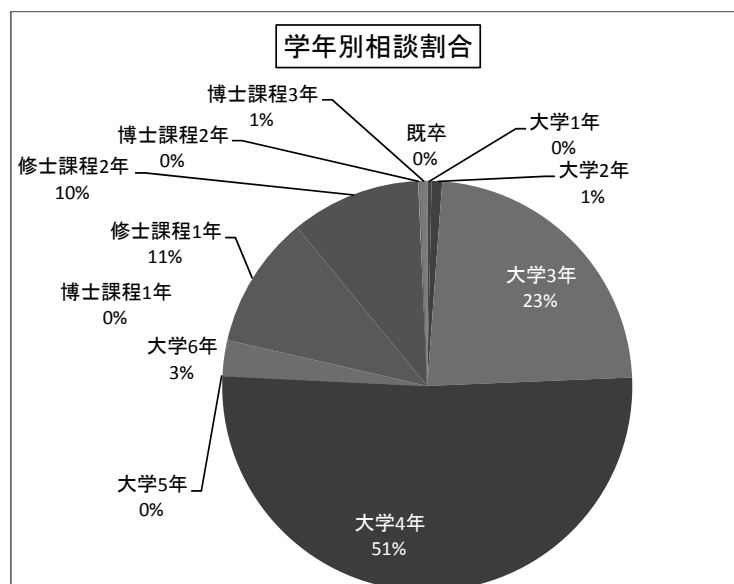
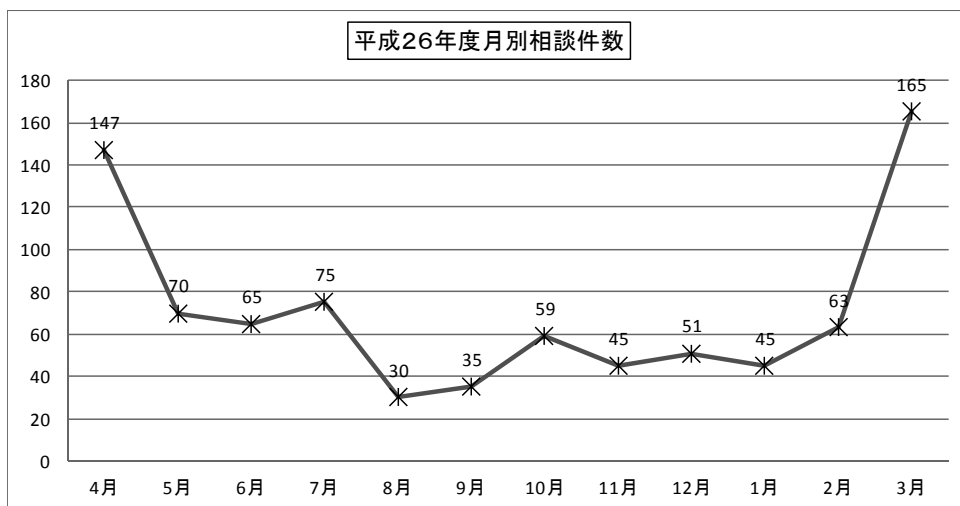
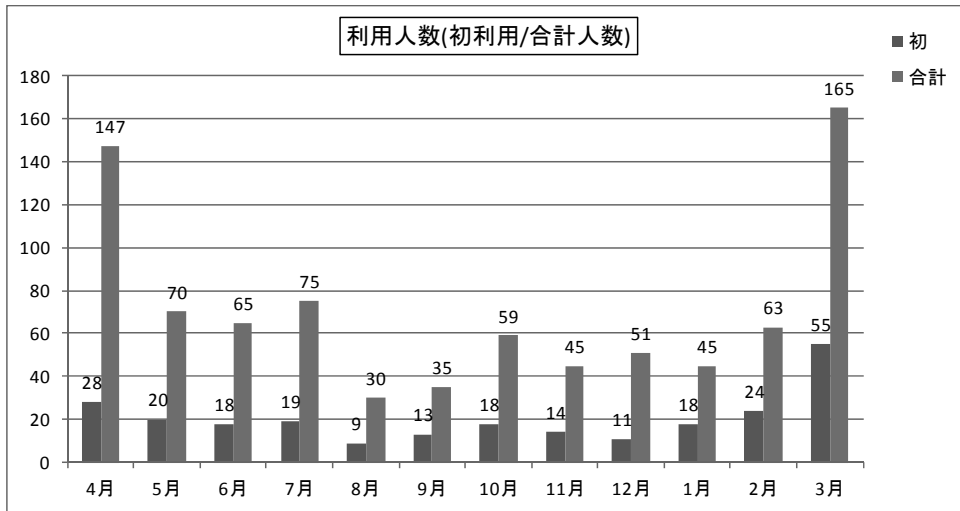


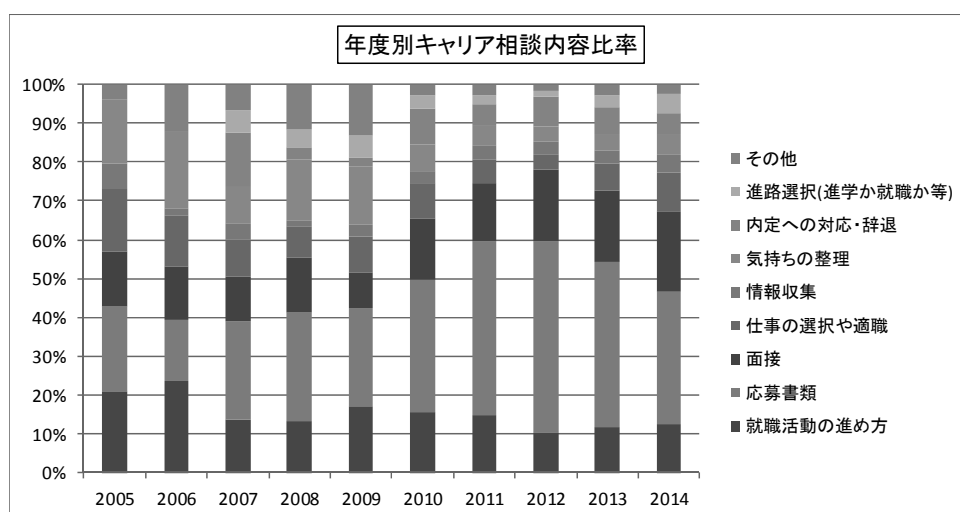
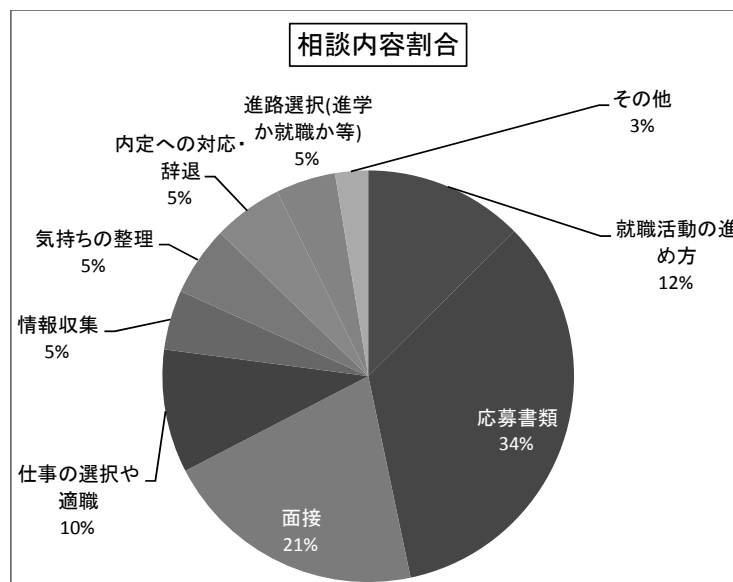
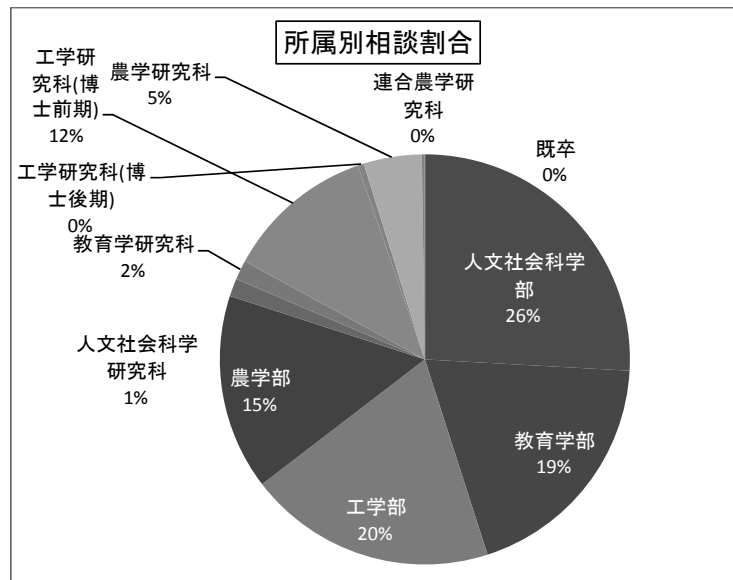
大学連携学生交流会：平成26年11月1日，参加者27名

PROG検査：平成27年1月19日・20日，参加者29名

ジョブシャドウ参加者31名，受入事業所16箇所

キャリア相談状況





岩手大学
教育推進機構
年次報告 2014

平成 28 年 3 月 18 日 発行

●編集・発行
岩手大学教育推進機構
岩手県盛岡市上田 3 丁目 1 8-3 4

●印刷・製本
杜陵高速印刷株式会社

